

樹木ノ種類	株數	栽植年月日	補植年月日	備考	栽植人氏名

第八條 樹栽地ハ何人ヲ問ハス學校長又ハ首席教員ノ承認ヲ得ルニ非ラサレハ出入スルヲ得サルモノトス

第九條 樹木ノ成長シタル分ハ適宜ノ時機ニ到リ學事協議會ノ評決ニヨリ伐採シ之ヲ賣却シ其爲メ生  
スル金員ハ町村學校基本財産中ノ金員ニ編入スルモノトス

第十條 樹栽ニ關スル事務ハ小學校長若クハ首席教員ニ於テ處理スルモノトス

第十一條 樹栽ニ關スル費用ハ校費又ハ寄附金ヲ以テ支辨スルモノトス

第十二條 樹木ノ枯木下草落葉ヨリ生スル收入ハ樹栽ニ關スル費用ニ充ツルモノトス

第十三條 樹栽規程ノ設置廢止又ハ變更ハ郡長ノ許可ヲ受クヘキモノトス

●石川縣河北郡訓令第二〇號

町村役場 町村學校組合役場

町村立小學校

本郡小學校生徒身體検査法左ノ通り定ム

但學校醫設置ノ町村立小學校ハ本法ニ依ルノ限りニアラズ

明治三十一年五月十日

石川縣河北郡長 柴田 是

河北郡小學校生徒身體検査法

一小學校ニ於テハ毎年夏期全校生徒ノ身體ヲ検査シ其旨報告スヘシ

一生徒身體検査ハ小學校教員之ヲ行フヘシ  
一小學校ニハ生徒身體検査簿ヲ製シ備置クヘシ  
一生徒身體検査ハ左ノ表式ニ依ルヘシ  
但握力肺量ノ検査ハ當分ニテ省クヲ得

生徒身體検査表(男)

年月日調査

姓 名	生年月	學 年	身 長	体 量	胸 圍	握 力	肺 量	視 力	聽 力

備考

一身長 何尺何寸何分

一体量 何貫何百何十何分

一胸圍 何尺何寸何分 上肢ヲ水平ニ保タシメ乳頭ノ邊ニ於テ測ルヘシ

一握力 何十何度 何立方センチメートル

一肺量 何々「ステルレン」氏ノ視力表ヲ用フ

一視力 尋常或ハ過敏或ハ遲鈍

一聽力

●石川縣河北郡訓令第二十一號

本郡小學校勅語謄本奉置方法左ノ通改正ス

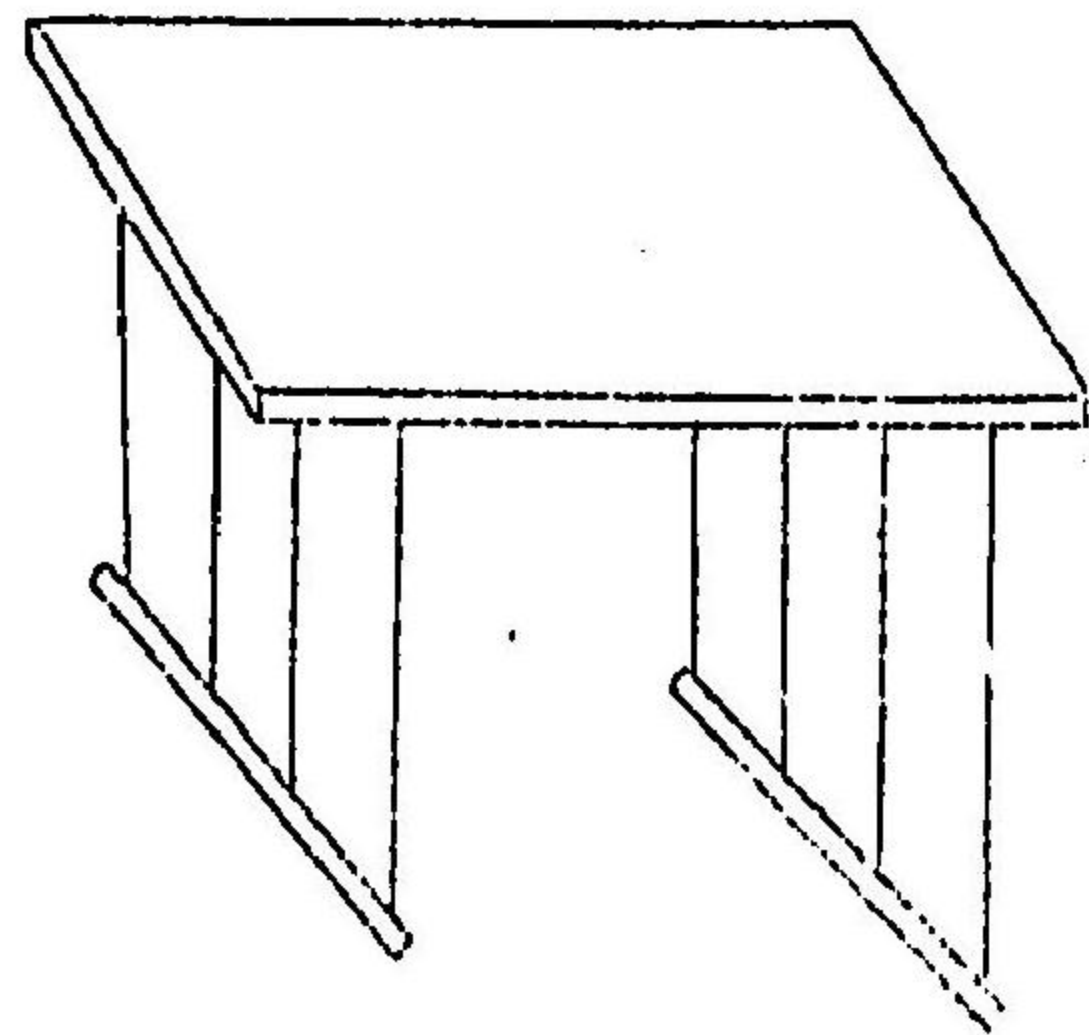
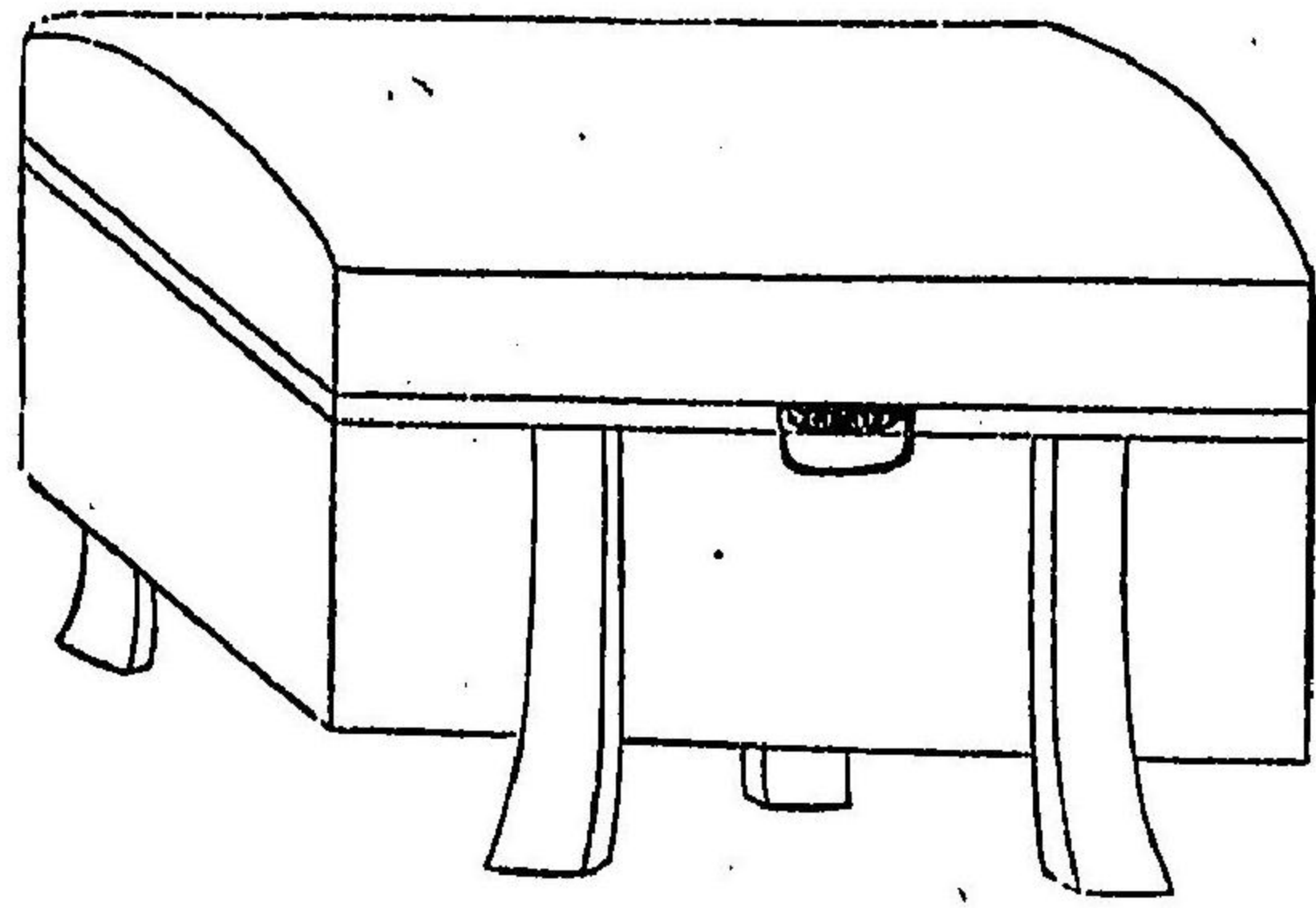
明治三十二年十月十日

河北郡小學校勅語謄本奉置方法

- 一 小學校へ御下賜ノ教育ニ關スル勅語謄本ハ左ノ方法ニ依リ奉置スヘシ
- 二 從來ノ上箱ノ外更ニ唐櫃ヲ造リ錠付ニス可シ
- 三 唐櫃長一尺八寸五分以上幅七寸以上深八寸以上上足三寸以上ニシテ用材ハ總テ檜ヲ用ユヘシ
- 四 八ツ足長壹尺貳寸以上幅六寸以上高サ六寸以上ニシテ用材ハ總テ檜ヲ用ユヘシ
- 五 奉置所ハ校內最モ神聖ナル所ヲ撰ヒ二階建ニ於テハ階上ニ設ク可シ
- 六 一ヶ月一回校長若クハ首席教員ニ於テ唐櫃ノ内外ヲ掃ヒ檢査ス可シ

町村役場 町村立小學校

石川縣河北郡長 柴田 是



●石川縣河北郡訓令第二六號

別紙様式ニ依リ學事視察簿各一冊ヲ作り學校長并ニ町村長(學校組合長)ニ於テ保管スヘシ

右訓令ス

町村立小學校 町村役場

町村學校組合役場

明治三十一年五月二十八日

石川縣河北郡長

柴田是

三百六十

明治何年何月

學事視察簿

紙表

何小學校

又ハ(何町村役場)

中折系紙大凡五拾枚綴リトス

●石川縣河北郡訓令第三二號

町村立小學校

町村立小學校ニ於テハ別紙様式ニ據リ學齡兒童修學不修學調査簿及在籍兒童出席缺席日數調査簿ヲ調

製スヘシ

右訓令ス

明治三十一年六月一日

石川縣河北郡長

柴田是

何町(村)何字學齡兒童修學不修學調査簿

兒童氏名	生年	就學	卒業	業	猶豫	年別	備考	保護者氏名	住所
月日	年月日	年月日	年月日	事	由	備考	保護者氏名	住所	所

何年  
何月  
疾病  
貧困

一 每學年ノ初ニ於テ就學義務ノ生シタル學齡兒童ハ總テ本簿ニ騰載スルモノトス

一 毎月學齡ヲ超過シ又ハ他地方へ寄留シ若クハ死亡シタルモノアルキハ兒童氏名ノ上部ニ其旨ヲ朱記

シ兒童氏名ニ二條ノ朱線ヲ引クヘシ

一 出寄留ノモノニシテ未タ正當ノ手續ヲ了ラサルモノハ備考欄内ニ其旨ヲ記入スヘシ

一 本簿ハ美濃紙ヲ用ヒ字毎ニ製シ男女別生年月順ニ騰載スルモノトス

一 就學免除ノ許可ヲ得タルモノハ猶豫年別事由ノ欄内へ便宜其年月日ト事由トヲ朱記スヘシ

何科第何學年在籍兒童出席缺席日數調査簿

自明治何年何月  
至明治何年何月

出席	出	月	四	月	五	月	六	月	七	計	月	八	月	九	月	十	月	十一	月	十二	計	月	一	月	二	月	三	計	計	總	兒童氏名
	缺	別	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

三百六十一

備考

一本簿ハ每學年ノ初ニ於テ在籍兒童ノ氏名ヲ男女別ニ列記スヘシ  
一毎月末ニ於テ其月ノ出席日數並缺席日數ヲ記入シ學期末及學年末ニ於テハ各計數及總計數ヲ記入スヘシ

但出席ハ黑書缺席ハ朱書センコトヲ要ス

一學年内ニ於テ學齡ヲ超過シ他地方ヘ寄留シ又ハ死亡等ノ爲メ退學シタモノハ備考欄内ニ其月日ト事由トヲ記入シ兒童氏名ニ二條ノ朱線ヲ引クヘシ

一出寄留ノモノニシテ未タ正當ノ手續ヲ了ラサルモノハ備考欄内ニ其旨ヲ記入スヘシ

一用紙ハ美濃紙トス

●石川縣河北郡訓令第三四號

町村役場 町村學校組合役場

町村立小學校

明治二十五年石川縣令第八號小學校設備規則第七條ニ依リ町村立小學校ニ備フヘキ必須ナル校具ノ種類ハ左ノ標準ニ依リ設備スヘシ

右訓令ス

明治三十一年七月十八日

石川縣河北郡長 柴田 是

一教授用校具

尋常小學校ノ部

- (一) 教員教科圖書
- (二) 修身掛圖
- (三) 讀本掛圖
- (四) 河北郡地圖
- (五) 石川縣地圖
- (六) 日本地圖
- (七) 地球儀
- (八) 形体雛形及色圖
- (九) 庶物標本
- (十) 參考圖書
- (十一) 指數器
- (十二) 懸算盤
- (十三) 尺
- (十四) 量
- (十五) 衡
- (十六) 黑板
- (十七) 小黑板
- (十八) 廻轉板

學級數ニ應ス

第一學年ノ學級數ノ半數

同 前

第一學年ノ學級數ニ應ス

第二學年第四學年ノ學級數ノ半數

同 前

一貫夕乃至二貫夕

學級數ニ應ス

但二組以上ヲ以テ編制シタル學級ニアツテハ一組毎ニ一枚

同 前

單級學校若クハ二組以上ヲ以テ編制シタル學級ニ一枚ツ

- (五) 習字板
- (六) 掛圖用折釘
- (七) 水入
- (八) 殘墨壺
- (九) 紙屑箱
- (十) 教鞭
- (十一) 定木
- (十二) 兩脚規
- (十三) 裁縫用具 (裁縫科ヲ加ヘタル學校)
- (十四) 圖畫ノ手本及用具 (圖畫科ヲ加ヘタル學校)
- (十五) 手工用具及標本 (手工科ヲ加ヘタル學校)
- (十六) 唱歌掛圖及樂器 (唱歌科ヲ加ヘタル學校)
- (十七) 高等小學校ノ部
- (十八) 尋常小學校ノ部ニ列記スルモノ、内修身掛圖讀本掛圖指數器ヲ除ク
- (十九) 但教科用及參考用圖書ハ高等科相當ノ分トス
- (二十) 萬國地圖
- (二十一) 博物標本
- (二十二) 理化器械及藥品
- (二十三) 人体並骨骼ノ掛圖若クハ模型
- (二十四) 圖書ノ手本及用具

學級數ニ應ス  
 黑板數ノ二倍  
 學級數ノ二倍  
 學級數ニ應ス  
 同 前  
 教員數ニ應ス

- (七) 裁縫用具
- (八) 唱歌掛圖
- (九) 樂器
- (十) 体操器械
- (十一) 農具 (農業ヲ加ヘタル學校)
- (十二) 手工用具及標本 (手工ヲ加ヘタル學校)
- (十三) 普通校具
- (十四) 御影ヲ納ムル櫃 (御影ヲ奉置スル學校)
- (十五) 勅語謄本ヲ納ムル匣
- (十六) 國旗
- (十七) 門札 (巾凡一四尺五寸)
- (十八) 校印
- (十九) 職印
- (二十) 生徒用卓腰掛 生徒數ニ應ス
- (二十一) 但製法寸法三島通良氏取調ノ要項ニ據ル
- (二十二) 教室內教員用卓 教員數ニ應ス
- (二十三) 但巾凡一尺二寸長凡二尺五寸三方板張棚付
- (二十四) 事務室用卓椅子 教員數ニ應ス
- (二十五) 但椅子ハ豫備二脚以上ヲ要ス
- (二十六) 書籍棚 戸棚 籠笥

二 旒

- (十二) 時計 算盤
  - (十三) 硯箱並附風品
  - (十四) 火鉢 火箸 桶 杓 釜 茶碗 靴拭 提灯高張馬乘 掃除用具 其他必要ノ物品
  - (十五) 消毒藥並其附屬具
- 石川縣河北郡訓令第一號

町村役場 町村立小學校  
町村學校組合役場

爾今小學校教員ニ任用セラレタルモノアルトキハ赴任後五日間以内ニ學校長首席教員及町村長(町村學校組合長)ヲ經テ其寄住所ヲ届出スヘシ  
但學校所在地外居住ノ許可ヲ得タルモノハ本文ノ届出ヲ要セス又現在就職ノモノニアリテハ來二十日限り届出スヘシ

明治三十二年一月八日  
●石川縣河北郡訓令第一二號  
石川縣河北郡長 柴田 是

本郡小學校生徒貯金規則左ノ通り改正ス  
明治三十二年四月一日  
河北郡小學校生徒貯金規則  
第一條 小學校生徒ニ勤儉ノ徳ヲ養成セシメンカ爲メ勞働其他ヨリ金錢ヲ得タルハ其幾分ヲ貯蓄セ

町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校  
石川縣河北郡長 柴田 是

シムヘシ

- 第二條 小學校ニ於テハ貯金掛ヲ設ケテ其事務ヲ扱ハシムヘシ
- 第三條 生徒貯金トシトスルキハ貯金領取簿甲式ニ現金ヲ添ヘテ貯金掛ニ納ムヘシ
- 第四條 生徒貯金ヲ申出テタルキハ貯金領取簿ト貯金元簿乙式トニ其金額月日ヲ記入シ割印ノ上領取簿ヲ生徒ニ返附スヘシ
- 第五條 貯金ハ該生徒ノ名ヲ以テ郵便貯金局又ハ貯蓄銀行ニ預ケ入レ貯金通帳ハ校長(首席教員)ニ於テ保管ス
- 但一人ノ貯金預入額ニ達スルマテハ校長(首席教員)ニ於テ現金ヲ保管ス
- 第六條 學校ニハ貯金出納簿丙式ヲ製シ現金出納ノ都度校長(首席教員)檢印スヘシ
- 第七條 生徒退學スルトキ又ハ非常災害ノ爲メ貯金拂戻シヲ請求スルトキハ貯金通帳若クハ現金ヲ生徒所持ノ貯金領取簿ト引換ヘ渡スヘシ
- 但貯金ノ一部ヲ拂戻シタルトキハ領取簿及ヒ原簿ニ記入割印スヘシ
- 第八條 小學校長(首席教員)ハ毎年十二月末現在貯金額及人數ヲ調査シ翌年一月七日限り町村役場ヲ經テ報告スヘシ丁式

甲 號 用紙適宜縦大凡四寸横大凡六寸

第何號	生徒	氏名	年月	預り金額	總額	取扱者印
			日			

貯金領收簿

小學校名


(注意)

一 總額ノ欄ニ校長(首席教員)檢印スヘシ

一 拂戻シ金額ハ預リ金額ノ欄ニ朱記シ總額ヨリ引去ルヘシ

乙 號 生徒貯金原簿

用紙中折系紙

第何號

生徒氏名

年月日	預リ金額	預リ總額	預入レ金額	預入レ總額	殘金	取扱者印

(注意)

一 預リ總額預入レ總額ニハ校長(首席教員)檢印スヘシ

一 拂戻シ金額ハ預リ金額及ヒ預入レ金額ノ欄ニ朱記シ各總額ヨリ引去ルヘシ

丁 號

丙 號

生徒貯金出納簿

用紙同前

年月日	預リ金額	預入レ金額	殘金	取扱者印	校長檢印

河北郡何々小學校生徒貯金報告

明治何年十二月末現在

一金何圓何拾錢

生徒貯金總額

內 譯

金何圓何拾錢

男何人分

金何圓何拾錢

女何人分

右報告候也

年月日

校長(首席教員)職名

氏名

郡長宛

河北郡何々小學校月報

明治何年何月分

科別	項	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年		第六學年		合計
		在籍兒童數	出席兒童數	在籍兒童數	出席兒童數	在籍兒童數	出席兒童數	在籍兒童數	出席兒童數	在籍兒童數	出席兒童數			
尋常科	在籍兒童數	男												
		女												
尋常科	出席兒童數	男												
		女												
尋常科	日々出席平均額	男												
		女												
尋常科	就學猶豫兒童數	男												
		女												
尋常科	現在就學兒童數	男												
		女												
尋常科	卒業兒童數	男												
		女												
尋常科	學齡兒童數	男												
		女												
尋常科	就學歩合	男												
		女												
尋常科	修學歩合	男												
		女												
尋常科	未入學兒童數	男												
		女												
尋常科	缺席兒童數	男												
		女												
尋常科	備考	男												
		女												

科(科)	高補	等習	項		目		第一學年	第二學年	第三學年	合計
			在籍兒童數	出席兒童數	在籍兒童數	出席兒童數				
科	高補	等習	在籍兒童數	出席兒童數	在籍兒童數	出席兒童數				
			日々出席平均額	日々出席平均額	日々出席平均額	日々出席平均額				
科	高補	等習	在籍兒童數ニ對スル男	出席兒童數ニ對スル男	在籍兒童數ニ對スル男	出席兒童數ニ對スル男				
			在籍兒童數ニ對スル女	出席兒童數ニ對スル女	在籍兒童數ニ對スル女	出席兒童數ニ對スル女				

- 一、授業日數 幾日
- 一、休業日數 規定休業 幾日 臨時休業 幾日 何々ノ 幾日 何々ノ
- 一、教員缺勤 幾日 何々ノ 何 誰 幾日 何々ノ 何 誰
- 一、就學督促事項
- 一、重要事項
- 右報告候也

明治何年何月何日

石川縣河北郡長何誰殿

河北郡何々小學校長(訓導)

何 誰

記載心得

- 一、本表ハ毎月末ニ於テ調査スルモノトス
- 一、在籍兒童數ハ學齡兒童中現ニ尋常小學校ノ學籍ニ在ルモノ、現數トス
- 一、出席兒童數ハ在籍兒童ニシテ其月出席セシモノ、現數トス



一、日々出席平均數ハ其月ノ兒童出席總數ヲ授業日數ニテ除シタルモノトス  
 一、現在就學兒童數ハ既ニ尋常小學校ニ就學シタルモノ及就學スヘキモノ、總數トス  
 一、在學兒童數、出席兒童數、日々出席平均數、現在就學兒童數、卒業兒童數ノ各欄ニハ明治四十一年三月末ニ於テ尋常小學校ヲ卒業シタル兒童ノ員數ヲ朱書ヲ以テ區別記入ス可シ  
 但高等科ノ在學兒童數、出席兒童數、日々出席平均數ノ各欄ハ此限リニアラス  
 一、就學歩合ハ現在就學兒童(朱書ヲ除ク)ノ内缺席并ニ未入學兒童ヲ除キタル者ト尋常小學校卒業兒童(朱書ヲ除ク)トノ學齡兒童ニ對スル百分比トス  
 一、修學歩合ハ尋常小學校卒業兒童(朱書ヲ加フ)及兒童日々出席平均(朱書ヲ除ク)ノ學齡兒童ニ對スル百分比トス  
 一、日々出席平均數就學歩合、修學歩合ハ四捨五入法ヲ用キ小數二位ヲ作ル可シ  
 一、缺席兒童數ハ在籍兒童ニシテ學年ノ初ヨリ一日モ出席セサルモノ、總數トス  
 一、未入學兒童ハ尋常小學校ニ就學スヘキ兒童ニシテ未タ入學セサルモノ、總數トス  
 一、備考欄ニハ日々出席平均數修學歩合ニ就キ前月分ニ對スル比較増減ノ事由ヲ記載ス可シ  
 但四月分ニ限リ本文ノ事由ハ記載ヲ要セス  
 一、重要事項ニハ朗讀會、父兄懇話會修學旅行諸儀式其他重要ナル事件ノ概要ヲ摘記ス可シ

●石川縣河北郡訓令第一四號

町村役場 町村學校組合役場  
 町村立小學校

小學校月報別紙様式ニ依リ每翌月五日限リ町村役場(町村學校組合役場)ヲ經テ指出スヘシ  
 但明治三十一年本郡訓令第十一號第十九號ヲ廢ス

明治三十八年  
 十月訓令第十一號  
 三號ニテ様式  
 改正  
 四十一年四月  
 訓令第七號

右訓令ス

明治三十二年四月二十四日

石川縣河北郡長

柴田 是

參照

明治三十一年本郡訓令第十一號ハ各小學校ニ於テ教員出勤簿ヲ製シ校長若シハ首席訓導精査ノ上町村長ヲ經由シ翌月五日迄ニ且ツ全三十一年本郡訓令第十九號ハ小學校生徒出席調査表ヲ造リ每翌月五日限リ報告スヘキ規程ナリ

●石川縣河北郡訓令第一八號

町村役場

町村吏員中學事ニ關スル事務擔任者ヲ定置シ關係表簿類ノ整理ヲ掌ラシメ監督吏員ノ檢閲ニ際シテ不都合ナカラシムヘシ

但學事擔任者ノ職名氏名ハ本月二十日限リ報告スヘク爾後異動ヲ生シタルトキハ其都度報告スルモノトス

明治三十二年八月四日

石川縣河北郡長

柴田 是

●石川縣河北郡訓令第二〇號

町村立小學校

小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ小學校生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス徒ニ教授ノ標準ヲ高メ生徒管理上偏頗ノ嫌疑ヲ受クルニ至リ且ツ教授ノ準備ヲ妨クルコト尠カラサルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若クハ父兄ノ贈遺ヲ受タルカ如キハ是又生徒間ノ感情ヲ害シ一般就學ノ妨ト爲ル等教育上弊害尠カラサルニ依リ厚ク注意ヲ加ヘ嚴重ニ取締ヘク旨其訓令相成候條深ク其旨ヲ奉戴スヘシ

明治三十二年十月十九日

石川縣河北郡長

柴田 是

●石川縣河北郡訓令第一號

三百七十四

學齡兒童就學ニ關スル取扱手續別紙ノ通り相定ム  
但明治三十一年本郡訓令第三十二號中學齡兒童修學不修學調査簿及明治三十三年本郡訓令第二號ヲ  
廢ス

町村 投 塲 町村立小學校

明治三十四年一月十五日

石川縣河北郡長 村尾震三郎

學齡兒童就學ニ關スル取扱手續

- 第一條 町村長ハ明治三十四年本縣令第十四號小學校令及同令施行規則實施ニ關スル細則第四十一條及第四十二條ノ調査ノ爲メ毎年一月二十日迄ニ第一號様式ニヨリ就學不就學調査簿ヲ作り現在就學猶豫ノ兒童及其年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ際載シ二月十日限リ實地ニ就キテ次學年ニ對スル就學若クハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ審査記入スヘシ
- 現在就學兒童ニシテ就學ノ猶豫若クハ免除ヲ申立テタルトキ亦同シ
- 第二條 前條記入ノ兒童ニシテ監督官廳ニ於テ就學ノ猶豫若クハ免除ノ申立ヲ許可セラレサルトキハ相當欄ヲ訂正スヘシ
- 第三條 町村長ハ三月十五日限リ前條就學不就學調査簿ノ確定謄本一通ヲ學齡兒童就學ニ關スル細則第四十二條第二項ノ通知トシテ關係小學校長ニ廻致スヘシ
- 第三條ノ二 町村長ハ小學校令施行規則第八十一條第三項但書ニヨリ郡内他町村ニ轉住シタル兒童ノ學齡簿謄本ヲ送付セントスルトキハ第六號様式ニヨリ取扱フヘシ但シ郡外ニ轉住シタル兒童ニ付キテハ之レニ準スルモノトス
- 前項謄本ノ送付ヲ受ケタル町村長ハ直ニ學齡簿ニ登錄シ同時ニ元住地ノ町村長ニ通報スヘシ

第四條 町村長ハ學齡兒童ニシテ死亡轉居其他異動ヲ生シタルトキハ學齡簿ノ加除訂正ト同時ニ總テ關係小學校長ニ通知スヘシ

第五條 小學校長ハ第二號様式ニヨリ學齡兒童調査簿ヲ調製シ就學不就學ノ區別ヲ明ニスヘシ

第六條 小學校令施行規則第九十二條ニヨリ小學校長ニ於テ缺席兒童ヲ町村長ニ報告スルニハ兒童ノ氏名生年月及保護者ノ氏名住所ヲ記載スヘシ

第七條 町村長ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ規則第九十三條ニヨリ五日以内ニ第一回ノ督促ヲ爲シ其結果ヲ小學校長ニ回報スヘシ

第八條 小學校長ニ於テ前條ノ回報ヲ受ケタル後尙三日以内ニ出席セサルトキハ其旨町村長ニ報告スヘシ

第九條 町村長ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ第二回ノ出席督促ヲ爲シ其結果ヲ小學校長ニ回報スヘシ

第十條 小學校長ニ於テ前條ノ回報ヲ受ケタル後尙二日以内ニ出席セサルトキハ其旨町村長ニ報告シ同時ニ郡長ニ具申スヘシ

第十一條 町村長ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ第三號様式ニヨリ直ニ郡長ニ報告スヘシ

第十二條 小學校長ニ於テ第六條ノ報告ヲ爲シタル後七日以内ニ町村長ノ回報ナキトキハ其旨郡長ニ具申スヘシ第八條ノ報告ヲ爲シタル後五日以内ニ回報ナキトキハ亦同シ

第十三條 規則第九十一條ニ該當スル兒童ノ取扱ニ關シテハ第六條乃至第十二條ヲ準用ス

第十四條 細則第四十五條ニヨリ町村長ニ於テ調製スヘキ就學督促簿ハ第四號様式ニヨリ小學校長ニ於テ調製スヘキモノハ第五號様式ニヨルヘシ

三百七十五

第一號様式

明治何年度學齡兒童就學不就學調查簿

(用紙美濃全紙)

兒童氏名	住所		從前ノ就學不就學ノ區別	不就學ノ事故	保護者氏名	住 所
	族籍及戶主トノ關係	生年				
	明治	年 月 日				
	明治	年 月 日				
	明治	年 月 日				

備考

- 一、住所ハ町村名及字名ヲ記スヘシ
- 一、族籍及戶主トノ關係ハ平民(士族)何誰何男(女又ハ姉妹等)ト記スヘシ
- 一、從前ノ教育ハ尋常小學校第何學年修了其他何々又ハ無ト記スヘシ
- 一、不就學ノ事故ハ其狀情ヲ詳細ニ記入スヘシ
- 一、兒童トノ關係ハ父(母又ハ後見人)ト記スヘシ

第二號樣式

何町(村)何字學齡兒童調查簿

(用紙美濃全紙)

兒童氏名	生年		學業	就學猶豫免除年別	備考	保護者氏名
	月 日	年 月 日				
	明治	年 月 日				
	明治	年 月 日				
	明治	年 月 日				

備考

- 一、本簿ハ每字男女別トシ生年月順ニ隱載スルモノトス
- 一、就學年月日ハ實際就學シタル年月日ヲ記入スヘシ
- 一、學齡ヲ超過シ又ハ死亡轉居等ノ爲メ除名シタルトキハ其年月及事由ヲ備考欄ニ記入シ兒童氏名ニ朱線二條ヲ施スヘシ

第三號樣式

就學督促不應者報告

(用紙通常系紙)

兒童氏名	生年月日	保護者氏名	生年月日	住 所	縣稅戶數割

第四號樣式

明治何年度就學督促簿

(用紙中折全紙)

何第 號	氏名	住所	石川縣河北郡 町(村) 番地
		生年	年 月 日
就 名	入學シタル學校又ハ 教授者氏名	住所	石川縣河北郡 町(村) 番地
		生年	年 月 日
學 就	尋常小學校ノ教科ヲ 了リタル年月	住所	石川縣河北郡 町(村) 番地
		生年	年 月 日
		保護者	氏名 住所 職業 氏名
		保護者	住所 職業 氏名

三百七十九

兒童 氏名	住所	石川縣河北郡 町(村) 番地
轉住 地名	生年	年 月 日
發 送	受領書	年 月 日
町(村) 番地	住所	石川縣河北郡 町(村) 番地

契

何第 號	町(村)長 助役 係 主任	兒童氏名	保護者 通知月日	出席月日	町長 報告月日	出席月日	郡長 具申月日	備 考
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	備 考
第六號様式		第五號様式						
		明治何年度就學督促簿 (用紙中折全紙)						
		兒童氏名	保護者 通知月日	出席月日	町長 報告月日	出席月日	郡長 具申月日	備 考
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	備 考
		兒童氏名	保護者 通知月日	出席月日	町長 報告月日	出席月日	郡長 具申月日	備 考
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	備 考
		兒童氏名	保護者 通知月日	出席月日	町長 報告月日	出席月日	郡長 具申月日	備 考
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	備 考

三百七十八

考備	不 猶			免	年 月 日
	學 期	就 事	就 由		

右兒童貴部内へ轉住致シ候ニ付小學校令施行規則第八十一條第三項但書ニヨリ學齡簿謄本及送附候也

明治 年 月 日

御中

石川縣河北郡 町(村)役場

契

何 第 號	兒童氏名	保護者氏名
右兒童學齡簿謄本領收候ニ付此段及通知候也		
明治 年 月 日		
石川縣河北郡 町(村)役場御中		

●石川縣河北郡訓令第四號

町 村 役 場 町 村 立 小 學 校

町 村 立 小 學 校 及 實 業 補 習 學 校 職 員 ノ 服 裝 ハ 質 素 ヲ 旨 ト シ 絹 類 ノ 衣 服 ヲ 着 用 ス ヘ カ ラ ス 生 徒 ノ 衣 服 モ 通 常 出 校 ノ ト キ ハ 綿 布 ニ 限 リ 儀 式 ノ 場 合 ト 雖 モ 務 テ 質 素 ヲ 尚 ヒ 堅 ク 華 麗 ヲ 競 フ ノ 風 習 ヲ 禁 ス ヘ シ

但 明 治 三 十 一 年 三 月 本 郡 訓 令 第 八 號 ヲ 廢 止 ス

石 川 縣 河 北 郡 長 村 尾 震 三 郎

●石川縣河北郡訓令第七號

町 村 役 場

別 紙 様 式 ニ ヨ リ 學 齡 兒 童 ノ 就 學 不 就 學 ヲ 調 査 シ 毎 年 四 月 三 十 日 マ テ ニ 報 告 ス ヘ シ

石 川 縣 河 北 郡 長 遠 矢 良 治

明 治 三 十 四 年 五 月 一 日

明 治 何 年 四 月 現 在 何 村 學 齡 兒 童 就 學 不 就 學 調 査 表

學 齡	區 別		內 譯
	就 業	卒 業	
計	現 在 就 學	卒 業	
女 男	女 男	女 男	
	從 前 既 ニ 就 學 ノ 始 期 ニ 達 シ 居 ル 者		
	女 男		
	本 年 四 月 就 學 ノ 始 期 ニ 達 シ タ ル 者		
	女 男		

就學 歩合	兒					
	就學		不		現在不	
	男	女	男	女	男	女
全	男	女	男	女	男	女
體	男	女	男	女	男	女
					從前既ニ就學ノ始 期ニ送シ居ル者	本年四月就學ノ始 期ニ送シタル者
					男	男
					女	女

備考

- 一本表ハ四月一日現在ニ依リ調査スルモノトス
- 一現在就學ハ尋常小學校ニ出席スヘキ兒童ノ數ヲ記入スルモノトス
- 一現在不就學ハ從前既ニ就學セシモ尋常科ヲ卒業セシテ退學シタル兒童ノ數ヲ記入スルモノトス
- 一就學歩合ハ就學兒童ノ學齡兒童ニ對スル百分比例ヲ記入スルモノトス

●石川縣河北郡訓令第六號

町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校 町村立實業補習學校

學校日誌規程左ノ通り定ム

明治三十五年三月二十二日

學校日誌規程

石川縣河北郡長 遠矢良治

- 一、學校日誌ニハ月日七曜天候溫度及事件ヲ記載スルモノトス  
但溫度ハ之ヲ器スルコトヲ得
- 一、事件トシテ掲クヘキ要項左ノ如シ  
學校位置等科通學區域ノ變更、校舍ノ建築修繕、教科目ノ加除教授時數ノ變更、巡視參觀、職員ノ出張増修賞罰異動、儀式、運動會獎勵會練習會、臨時休業、教授時限ノ變更、兒童ノ缺席ヲ來タス重ナル事由、學校及生徒ノ受賞、非常ノ出來事、新ニ經營セシ事項其他重要ノ事項
- 一、學校日誌ハ每學年ニ之ヲ更ム
- 一、學校日誌ハ庶務係ニ於テ毎日之ヲ記載シ毎月十五日ト末日トニ校長ノ檢閲ヲ經ルモノトス
- 一、學校日誌ノ様式左ノ如シ

日	七曜	天候	溫度	件目	事由
四	土	晴	四五	發送	何月分月報ヲ村役場へ送ル
五	日				休業
六	月	午前晴 午後雨	四八	切手貯金	本日ヨリ生徒へ切手貯金ヲ爲サシム
七	火	曇大風	四六	巡視	縣視學何難巡視何々ノ件ヲ談示セラル
					到達本郡訓令第何號(何々ノ件)到達ス

●石川縣河北郡訓令第一二號

町村立小學校 町村立實業補習學校  
近來社會風紀ノ頽敗ニ伴ヒ往々學校風紀事件ノ生出スルハ教育ノ爲メ國家ノ爲メ實ニ痛心スヘキ所ナリトス是ヲ以テ學校教員タルモノ職務ニ精勵スヘキハ勿論公私ノ德義ヲ重ンシ内外ノ品行ヲ慎ミ能ク其威信ヲ發揚シ又兒童ノ監督取締ヲ嚴正周到ニシ不良ノ性行アルモノニ對シテハ相當處分ヲ決行シ以テ大ニ風紀ノ振作ヲ務ムヘシ

明治三十五年七月二十二日  
石川縣河北郡長 遠矢 良治

●石川縣河北郡訓令第一號

町村 役場 町村學校組合役場  
町村立小學校

小學校兒童成績考查簿及ヒ成績調査記点表ハ別紙様式ニ據リテ調製シ成績調査記点表ハ五ヶ年間保存スヘシ  
但シ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス  
明治三十六年二月二十日  
石川縣河北郡長 遠矢 良治  
成績考查簿 (中折紙ヲ用ヒ一枚四人分トス)

科目	第何學年			何 誰
	期別	成 績	成 績	
	第一學期	第二學期	第三學期	學年成績
	成 績	成 績	成 績	成 績

及 落	操 行	裁 縫	体 操	唱 歌	圖 畫	理 科	歷 史	地 理	算 術	國 語	修 身	學 年 成 績 總 點	學 年 成 績 各 科 目 平 均 數

(中折紙半枚ノ大サトシ紙質ハ適宜)

第何學年何科成績調查記点表

第一學期	第二學期				第三學期				兒童氏名
	第一回	第二回	第三回	第四回	第一回	第二回	第三回	第四回	
				平均				平均	

●石川縣河北郡訓令第四號

町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校 町村立實業補習學校

明治三十五年(三月)本縣訓令甲第六號學校一覽表甲號一葉(幅九寸長一尺八寸)每年四月十日限り差出ス(シ)

明治三十六年三月二十四日

石川縣河北郡長 遠矢良治

●石川縣河北郡訓令第一七號

町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校

從來夜學ノ開設ヲ獎勵シ青年子弟ノ教育ヲ勸誘スルヲ切ナリト雖モ未タ普及ノ運ニ至ラス本年徵兵檢査ノ成績ニ微スルモ尙全ク讀書算ヲ解セサルモノ、頗ル多數ヲ示セルハ實ニ遺憾トスル處ナリ仍リテ各町村ニ於テハ左記ノ準則ニ據リ青年子弟ノ爲メ適宜簡易ノ教育ヲ施設シ以テ國教民育ノ普及ヲ期ス

(左記)

明治三十六年十月八日

石川縣河北郡長 山根松太

青年簡易教育施設準則

- 一 教科目及程度
  - 教科目ハ修身國語算術ノ三科トシ其程度ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ尋常小學校第四學年乙種ハ第二學年ニ準スルモノトス
  - 但シ別科ヲ置キ其程度ハ高等小學校ニ準シ且ツ實業科ヲ加フルヲ得
- 一 教授日及教授時數
  - 毎月凡ソ四回ニ晝夜又ハ夜間ニ於テ教授ニ其時數ハ一ケ年凡ソ八十時トス
  - 但シ期節ヲ限リテ開設スルヲ得
- 一 生徒
  - 生徒ハ十四年以上二十年以下ノ男子トス
  - 但シ別科生ノ年齢ハ此限リニアラス
- 一 教員及管理者
  - 教授ハ小學校教員ニ囑托シ町村長之レヲ管理スルモノトス
  - 但シ小學校教員ニアラサルモノヲシテ教授ヲ補助セシムルハ妨ナシ
- 一 經費
  - 經費ハ町村費及寄附金ヲ以テ支辨スルモノトス

●石川縣河北郡訓令第三號



町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校

石川縣河北郡長 山根 松 太

本郡小學校文書編纂規程別紙ノ通り相定ム

但シ本年四月一日ヨリ施行ス

明治三十七年二月十五日

(別紙)

文書編纂規定

第一條 小學校ニ關係アル官廳ノ令達ハ左ノ如ク分類編綴スルモノトス

一、石川縣公報綴

二、郡令達綴

但シ甲乙ノ二冊ニ分チ甲號ニハ現在有效ノモノヲ綴リ乙號ニハ一時的ノモノ及ヒ效力ノ消滅シタルモノヲ綴ルモ妨ケナシ

第二條 郡役所町村役場等ヨリノ照會通牒其他往復書類ハ左ノ如ク分類編綴スルモノトス

一、永久保存ノ分

(イ) 照會通牒指令類綴 (郡役所町村役場等ヨリ來レルモノ)

(ロ) 伺届願報告証明類控綴 (學校ヨリ發シタルモノ)

(ハ) 年報綴

二、十年保存ノ分

(イ) 學齡兒童ニ關スル通知綴

(ロ) 月報綴

三、五年保存ノ分

(イ) 職員ヨリノ願届類綴

(ロ) 保護者ヨリノ届書類綴

(ハ) 照會通牒指令回答類綴 (永久保存ニ屬セサルモノ)

(ニ) 伺届願報告類控綴 (全前)

(ホ) 雜書綴

但(イ)(ロ)ヲ合シテ一種トシ又ハ(ハ)(ニ)ヲ更ニ數種ニ分類スルモ妨ケナシ

第三條 令達及照會通牒指令類ノ永久綴ニハ冊首ニ目錄ヲ付シ置キ改正廢止等ニ際シテハ本文ヲ加除スルト同時ニ目錄ニ其旨ヲ朱記スヘシ

●石川縣河北郡訓令第五號

町村役場 町村學校組合役場

町村立小學校

明治三十四年(三月)本縣令第十四號小學校令及同令施行規則實施ニ關スル細則第三十條所定ノ外小學校ニ備フヘキ表簿ノ保存期限ヲ別紙ノ通り相定ム

明治三十七年二月十五日

石川縣河北郡長 山根 松 太

(別紙)

表簿保存期限

一 保存期限ハ左ノ如シ

第一類 永久保存

一 褒賞簿 一 懲戒簿 一 受賞者交名簿

- 第二類 十年保存
  - 一 學齡兒童調查簿
  - 一 貯金原簿
  - 一 貯金出納簿
- 第三類 五年保存
  - 一 兒童出席缺席日數調查
  - 一 成績調查記點表
  - 一 物品購入承認簿
  - 一 前記ノ外學校ニ於テ適宜備ヘタル表簿ハ相當保存期ヲ定ムヘシ

町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校

●石川縣河北郡訓令第八號  
明治三十一年(六月)本郡訓令第二十九號小學校沿革誌編纂規定ヲ別紙ノ通り改正ス  
明治三十七年二月十五日  
石川縣河北郡長 山根松太

(別添)

小學校沿革史編纂規程

- 第一條 沿革史ハ左ノ五部ニ分テテ編纂スルモノトス  
其記載例ハ別記ノ如シ
- 第一部 學校區ニ關スル件
  - 一 學校ノ創立分合
  - 一 校舍ノ新築増築仮用
  - 一 等科及校名ノ變更
  - 一 修業年限及教科目ノ變更
  - 一 學校位置及通學區域ノ變更等
- 第二部 職員ニ關スル件
  - 一 每學年ノ初ニ於ケル現在教員並ニ校醫ノ職氏名及其后ニ於ケル異動賞罰等
- 第三部 兒童ニ關スル件

- 第二項 每學年ノ初ニ於ケル學級編制及其變更
- 第三項 入退學卒業出席兒童等
- 第四項 學年未在籍及進級兒童
- 第四部 經費ニ關スル件
  - 一 每年度ノ學校經費豫算高及精算高等
- 第五部 雜件
  - 一 監督官吏ノ巡視
  - 一 職員ノ出張
  - 一 運動會練習會修學旅行等其他
- 第二條 前條ニ掲クル外重要ト認ムル事項ハ相當ノ部ニ記載センコトヲ要ス
- 第三條 沿革史ハ每學年末後二ヶ月以内ニ騰載スルモノトス  
但シ經費ニ關スル件ハ町村費決算期限後一ヶ月以内トス
- 沿革史記載例 (用紙ハ美濃系紙トス)
- 第一部 學校學區ニ關スル件 (年月日順ニ記載ス)
- 明治何年何月何日
- 本校ヲ創立ス校名及通學區域等左ノ如シ
- 一 學校名 第何學區何小學校
- 一 校舎 何村何誰住宅ノ一部仮用
- 一 通學區域 何々何々ノ何ケ村
- 一 修業年限 何ケ年
- 一 教科目 何々何々

○明治何年何月何日  
 學區ヲ左ノ如ク指定セラル  
 一學 區 河北郡第何番學區 何々何々ノ何ケ村  
 一通學區域 故ノ如シ  
 ○明治何年何月何日  
 法令ノ改正ニヨリ左ノ如ク指定セラル

一 等 科	初 等 科	中 等 科
一 修 業 年 限	何 ケ 年	何 ケ 年
一 教 科 目	何々 何々	何々 何々
一 通 學 區 域	何々 何々ノ 何ケ村	何々 何々ノ 何ケ村
○明治何年何月何日 小學校令ノ實施ニヨリ左ノ如ク指定セラル		
一 學 校 名	簡易科何々小學校	尋常何々小學校
一 等 科	簡 易 科	尋 常 科
一 修 業 年 限	何 ケ 年	何 ケ 年
一 教 科 目	何々 何々	何々 何々

一 通 學 區 域 何々 何々ノ 何ケ村 何々 何々ノ 何ケ村

△ 一 學 區 全 部  
 ○明治何年何月何日  
 小學校令ノ改正ニヨリ左ノ如ク變更ス  
 一 學 區 此ノ時從來ノ學區ヲ廢シテ何村ノ設置トセラル本村ニハ本校ノ外尙何字ニ一尋常  
 小學校ノ設置アリ  
 一 學 校 名 何々尋常小學校  
 一 位 置 何字何番地  
 一 校 舎 當分舊校舎仮用  
 一 修 業 年 限 何ケ年  
 一 教 科 目 何々 何々  
 一 通 學 區 域 字何々 何々  
 一 分 教 場 何字ニ當設分教場ヲ置キ字何々ノ第一二學年兒童ヲ收容ス  
 ○明治何年何月何日  
 左ノ教科目ヲ加設ス  
 一 教 科 目 裁縫科 女 兒  
 ○明治何年何月何日  
 高等小學校ニ併置ス  
 一 學 校 名 何々尋常高等小學校

一通學區域		尋常科通學區域ノ外字何々何々ノ高等科兒童ヲ通學セシメ尙何村何村ノ高等科兒童ノ委託ヲ受ク	
一修學年限	尋常科 何ケケ年	高等科 何ケケ年	何ケケ年
一教科目	尋常科 何々何々	高等科 何々何々	故ノ如シ
一校舎	昨年何月ヨリ何字何番地ニ於テ起工セル校舎落成セルヲ以テ高等科ノ併置開校ト同時ニ新校舎ニ移轉ス建築總費金何千圓ニシテ校地校舎ノ圖面別紙ノ如シ		
第貳部 職員ニ關スル件 (年度順ニ記載ス)			
○明治何年度			
一四月一日現在職員左ノ如シ			
訓導兼校長	何 誰	訓導	何 誰 (以上高等科勤務)
准訓導	何 誰	准訓導心得	何 誰 (以上尋常科勤務)
一職員ノ異動賞罰等左ノ如シ	學校醫 何 誰		
年月日	任 免 賞 罰 等	俸 級	職 名 氏 名
明治何年何月何日	何々小學校ヨリ轉任	何級俸 月額金何圓	訓導 (何科勤務)
明治何年何月何日	增 俸	何級俸 月額金何圓	訓導兼校長
同何年何月何日	何々小學校(轉任)	何級俸 月額金何圓	准訓導
同何年何月何日	(勤績何年何ヶ月)		何 誰
同何年何月何日	何々ニヨリ休職又ハ退職		何 誰
同何年何月何日	(勤績何年何ヶ月)	年額金何圓	准訓導
同何年何月何日	何々ニヨリ年功加俸ヲ受ク		何 誰
同何年何月何日	何々ニヨリ廢職		准訓導心得
同何年何月何日	(勤績何年何ヶ月)		何 誰
同何年何月何日	何々ニヨリ辭合ヲ用ヒス任用		訓導
同何年何月何日	何々ニヨリ金何圓賞與		訓導
同何年何月何日			何 誰

○明治何年度		前例ノ如シ		第三部 兒童ニ關スル件 (各項別年度順ニ記載ス)		第一項 學級編制		○明治何年四月現在						
學 級	兒 童 數	配 置 教 員 數	第一學級 尋常科 第何學年	女 男	何 何	正 教 員	一 人	第二學級 同科 第何學年	女 男	何 何	正 教 員	一 人		
第一學級 尋常科 第何學年	女 男	何 何	正 教 員	一 人	第二學級 同科 第何學年	女 男	何 何	正 教 員	一 人	第三學級 同科 第何學年	女 男	何 何	准正 教 員	一 人
第二學級 同科 第何學年	女 男	何 何	准正 教 員	一 人	第三學級 同科 第何學年	女 男	何 何	准正 教 員	一 人					

四十二年三月  
 附令第十五號  
 ニテ追加

明治何年度	年度	性別	第三部				同何年度	年度	性別	第三部													
			高等	尋常	高等	尋常				高等	尋常	高等	尋常										
明治何年度	就學歩合	男	就學	現在	尋常科	不	明治何年度	科	性別	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	合計	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	合計

(備考) 員數ハ常用數字ノミヲ以テ記シ平均數ハ小數二位ニ止ム

明治何年度	年度	性別	第二項				同何年度	年度	性別	第三部													
			高等	尋常	高等	尋常				高等	尋常	高等	尋常										
明治何年度	就學歩合	男	就學	現在	尋常科	不	明治何年度	科	性別	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	合計	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	合計

就學歩合男女

全体

修學歩合男女

全体

(備考) 就學歩合ハ現在就學兒童數ニ尋常科卒業兒童數ヲ加ヘ之レヲ學齡兒童數ニシテ除シタルモノニテ修學歩合ハ日々出席平均兒童數ニ尋常科卒業兒童數ヲ加ヘ之ヲ學齡兒童數ニテ除シタルモノナリ

但修學歩合ノ算出ニ於ケル尋常科卒業兒童數中ニハ其學年末(三月)ニ於テ卒業セル兒童數ヲ加ヘザルモノトス

第四部 經費ニ關スル件 (年度順ニ記載ス)

年度	明治何年度		同何年度		教員俸給	校醫手當	小使給料	教員旅費	備品費	消耗品費	修繕費	其他	合計
	豫算	精算	豫算	精算									

第五部 雜件 (年月日順ニ記載ス)

○明治何年何月何日 本郡長何誰郡視學何誰ヲ隨ヒテ巡視セラル兒童何名ヘ何々ヲ賞與シ區長學務委員何名ヲ會シテ何々ノ件ヲ談セラレタリ云々

○明治何年何月何日

三十七年八月  
訓令第二十一  
號ニテ追加

校長何誰何ノ爲メ某所ヘ出所

○明治何年何月何日

某所ニ於テ何小學校外何校聯合運動會ヲ行フ出會兒童ハ尋常第何學年以上總數何千何百人ニシテ本校ヨリ出會セルモノ左ノ如シ

○明治何年何月何日

職員何誰之ヲ引卒シ父兄何十名同伴午前第何時出發午後第何時歸校セリ云々  
練習會ヲ行フ午前第何時開始何々ヲ演習シテ午後第何時閉了セリ當日郡視學何誰ノ出張アリ有志者父兄凡ソ何十名來會セリ云々

○明治何年何月何日

何々ニヨリ慶賀式ヲ舉ク云々

○明治何年何月何日

使丁何誰ヲ解キ何誰ヲ雇入ル

○石川縣河北郡訓令第一四號

實業補習學校月報左記様式ニ依リ每翌月三日限リ町村役場ヲ經テ指出スヘシ  
町村役場 町村立實業補習學校  
石川縣河北郡長 山根松太

明治三十八年十月廿七日

何町村立何補習學校月報

明治何年何月分

種別	性		第一學年	第二學年	第三學年	計	前月ニ對スル比較
	男	女					
在籍生徒數							

出席生徒數	日々出席平均數	
	女	男
一、教授日數		
一、教授時數		
一、休業日數		
一、重要事項		
右及報告候也		

- 一、教授日數
- 一、教授時數
- 一、休業日數
- 一、重要事項

明治何年何月何日  
石川縣河北郡長何誰殿

河北郡何町村立何補習學校長何誰

記載心得

- 一、在籍生徒數ハ月末現在ニヨリ調査スルモノトス
- 一、出席生徒數ハ在籍生徒ニシテ其月出席セシモノ、現數トス
- 一、日々出席平均數ハ其月ノ生徒出席總數ヲ教授日數ニテ除シタルモノトス
- 一、教授時數ハ其月ノ教授總時數ヲ記スヘキモノトス

●石川縣河北郡訓令第三號

町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校

明治三十八年本縣訓令甲第三十八號ニ依リ施設スヘキ學校園ニ關シ左記ノ通り準則ヲ定ム之レニ依リ可成速ニ設置方取計ヲ可シ

明治三十九年二月二十三日

石川縣河北郡長 山根松太

學校園設置準則

- 第一條 學校園ハ兒童ヲシテ自然物ニ於ケル趣味ヲ惹起セシメ確實ナル智識ノ附與、美情ノ涵養、品性ノ陶冶ニ資シ兼テ兒童ノ心體ト活動ヲ促シ心身ノ圓滿ナル發達ヲ遂ケシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 學校園ハ學校敷地附屬地内若クハ學校近接ノ地ニ設ク可シ
- 第三條 學校園ノ廣袤ハ成ルヘク五拾坪以上トス可シ
- 第四條 學校園ハ畑、花壇、栽樹地、小池、築山、水田等ニ區劃ス
- 第五條 學校園ニハ蔬菜、花草、水草、樹木等ヲ栽植シ適宜配列分類ニ工夫シ兼テ魚族、蜜蜂、害虫等ヲ飼育ス但シ害虫飼育ノ箇所ニハ他ニ傳播セサル様相當防禦ヲナスヘシ
- 第六條 學校園ノ栽植、補植及手入等ハ動植物ノ種類、事業ノ難易等ニヨリ左ノ方法ニヨリ行ハシメ教員之ヲ指導監督ス
  - 一、地區ヲ限リ各生徒ニ受持タシムルコト
  - 二、地區ヲ限リ生徒ノ組合ニ受持タシムルコト
  - 三、地區ヲ限リ共同ニテ作業セシムルコト
- 第七條 學校園ノ費用ハ學校經費并ニ生産物ヨリ得タル收入等ヲ以テ支辨ス
- 第八條 學校ニ於テ學校園一覽表學校園日誌ヲ具フヘシ
  - 一覽表ハ毎年七月別表ニ據リ之ヲ調製シ日誌ニハ作業ノ要領并ニ日常觀察シタル事項ヲ記入ス
- 第九條 學校園ヲ設置シタルトキハ廣袤區劃ヲ記シタル平面圖相添ヘ郡長ニ報告ス可シ

(別表)

何々小學校學校園一覽表

			創設年月日	
位置			區劃ノ種類	
歩數			花壇、畑、小池	
動物ノ種類	數量	附記		
桃	幾株			
蔬菜	幾歩			
花草	幾種			
何々	何々			
何々	何々			

備考

●石川縣河北郡訓令第四號

町村立小學校

左記様式ニ依リ毎年國定教科書供給狀況調表ヲ製シ前期分ハ四月一日後期分ハ十月一日ノ現在ニ依リ其ノ月十五日迄ニ報告スヘシ

明治三十九年三月二十四日

石川縣河北郡長 山根 松 太

明治何年度前期(後期)分國定教科書供給狀況調表

何月何日現在

圖書名	冊需	冊要	冊供給	冊供給	供給濟冊數ノ内前年以前ニ於ケル古本使用冊數
	冊數	冊數	冊數	冊數	
尋常小學修身書兒童用 二					
同 三					
同 四					



計	尋常小學讀本	一							
同		三							
同		五							
同		七							
計									
合	計								

(以下此ノ例ニ倣ヒ列記ノコト)

備考

- 一、學校、兒童ニ於テ使用スル國定教科圖書ハ洩ナク記載スヘシ
- 一、需要冊數ハ學校、兒童ニ於テ使用スヘキ冊數ヲ掲上スヘシ
- 一、供給濟冊數ハ學校、兒童ニ實際供給セラレタル冊數ヲ掲上ス可シ
- 一、供給不足冊數ハ需要冊數ニ對スル供給濟冊數ノ差數ヲ掲上シ其不足ノ理由ヲ備考ニ説明スヘシ
- 一、前年以前ニ於ケル古本使用冊數トハ或ル事故ニ依リ常期新ニ購入ヲナサスシテ前年以前ノ古本ヲ繼續又ハ讓受使用スル冊數ヲ云フ

石川縣河北郡訓令第九號

町村役場 町村學校組合役場

町村立小學校

町村ニ於テ學校林ヲ設置セントスルトキハ左ノ準則ニ依リ規程ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ  
 明治三十九年八月七日 石川縣河北郡長 山根 松 太

學校林設置準則

- 第一條 學校林ハ其町村學校基本財産ヲ造リ兼テ兒童ヲシテ天然物ヲ愛シ實業ヲ勤ムルノ思想ヲ發揚セシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 學校林ハ一學校又ハ數學校ニ通シテ之ヲ設ク
- 第三條 栽植樹木ノ種類ハ學務委員會ノ意見ヲ徵シ町村長之ヲ定ム
- 第四條 播種又ハ栽植ハ春秋適宜之ヲ行ヒ時ニ兒童ヲシテ幾分ノ補助ヲナサシムルコトヲ得
- 第五條 町村長及小學校長ハ學校林ヲ監視シ手入補植等ニ注意スヘシ
- 第六條 學校林ニハ其方位間數及學校名ヲ記シタル標杭ヲ建立スルモノトス
- 第七條 町村ニ學校林臺帳ヲ調製シ遲滞ナク左ノ事項ヲ登錄スヘシ
  - 一、創設年月日
  - 一、地番、地目、臺帳反別、實測反別
  - 一、栽植樹種、株數、及栽植、補植年月日
  - 一、伐採ノ樹種及本數其年月日
  - 一、年度毎ニ其収支ノ決算額
  - 一、施業ノ經過
  - 一、借地ニ係ルモノハ借地料額土地所有權者住所氏名及地上權設定期間

一、其他必要ナル事項

- 第八條 學校林ヨリ生スル收入ハ町村學校基本財産中ニ編入スルモノトス
- 第九條 學校林ニ關スル事務ハ學校長ニ協議シ町村長ニ於テ處理スルモノトス
- 第十條 學校林ニ關スル費用ハ教育費又ハ寄附金ヲ以テ支辨スルモノトス

●石川縣河北郡訓令第二號

町村役場 町村學校組合役場  
町村立小學校

本郡小學校男兒童帽子ノ形狀徽章等左ノ通り相定メ候條將來帽子ヲ新調セントスルモノニハ之レニ憑  
ラシメ漸次一定ナラシムベシ

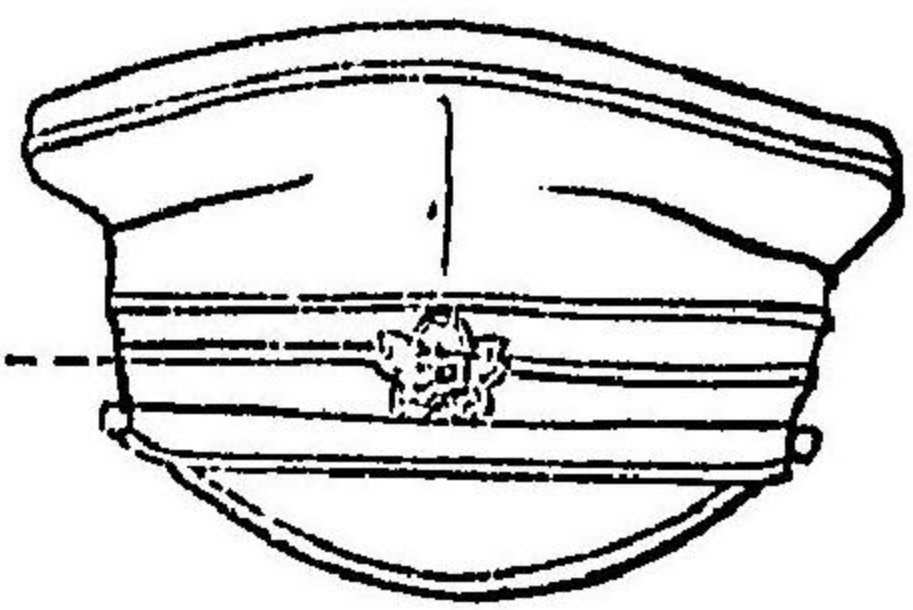
明治四十年三月四日

石川縣河北郡長 山根 松 太

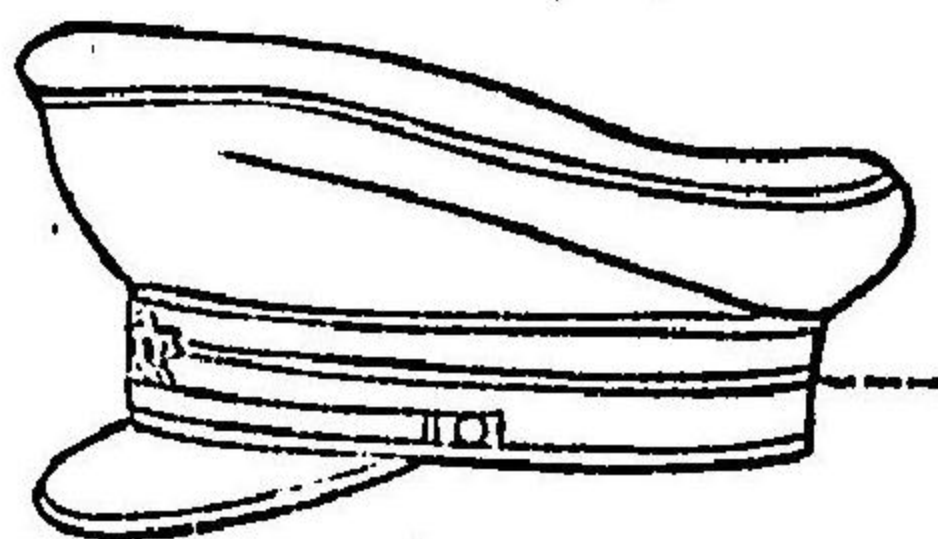
帽子雛形

- 一、地質 黑色羅紗
- 一、徽章 輪廓櫻花、中央蕊ニ河ノ隸書打出シ黃銅製徑七分
- 一、腮紐 巾四分、黒漆、皮留貝釦
- 一、橫章 高等科兒童ニ限リ帽子ノ下部ノ中央ニ白打緒(木綿糸)一條ヲ纏フ
- 一、形狀 左圖ノ如シ

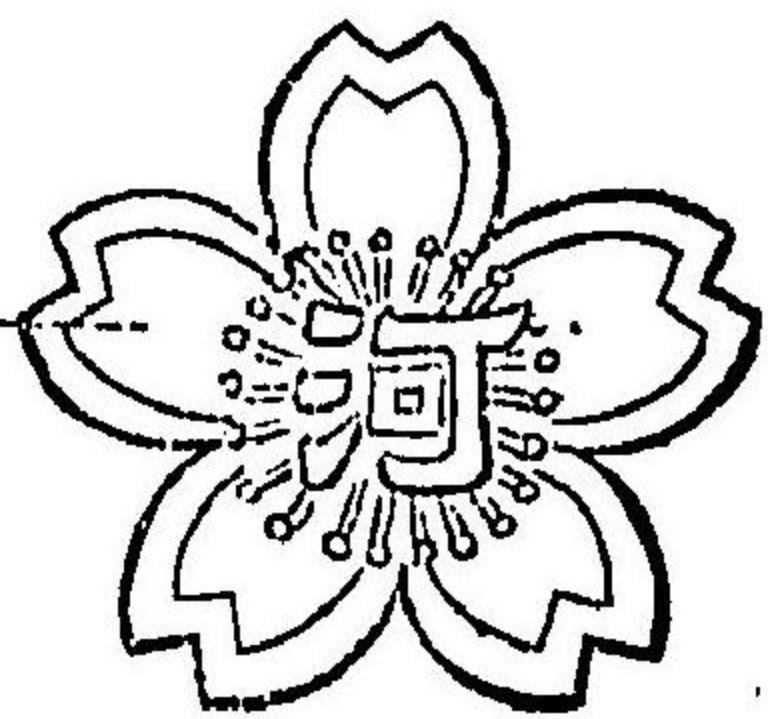
帽正面圖



側面圖



高等科兒童橫章



帽徽章

各花辨ノ中央透シ

●石川縣河北郡訓令第十一號

本郡小學校兒童出席獎勵規程左ノ通り相定ム

明治四十年六月二十四日

町村役場 町村立小學校

石川縣河北郡長 山根 松 太

河北郡小學校兒童出席獎勵規程

- 第一條 學齡兒童就學獎勵ノ爲メ兒童ノ出席優良ナル小學校ニ表彰旗ヲ交附ス
- 第二條 表彰旗ハ毎年三月九月ニ於テ前六ヶ月間ニ於ケル修學歩合ヲ平均シ其多寡ニ準シ優劣ノ等位

ヲ定メ最高位三等以上ニアル小學校ニ限リ三月調査ニ係ルモノハ四月ヨリ九月、九月調査ニ係ルモノハ十月ヨリ翌年三月迄各六ヶ月間交附ス

第三條 表彰旗ハ壹等、貳等、參等、ノ參種トス

第四條 交附シタル表彰旗ハ小學校ニ於テ保管ノ責ニ任シ若シ毀損又ハ紛失シタルトキハ其情ヲ具シ新調費辨償ノ上再交付ヲ稟申スヘシ但シ避クヘカラサル變災ニ遭遇シタルモノハ新調費ノ辨償ヲ免除スルコトアルベシ

第五條 表彰旗ノ交付ヲ受ケタル小學校ハ交付期間ノ最終日迄ニ之レヲ還納スルモノトス

第六條 表彰旗ヲ交付シタル學校名及等位ノ調書ハ其都度之レヲ告示ス

●石川縣河北郡訓令第五號

町村 役場 町村立小學校

尋常小學校就學兒童ニシテ學用品ノ供給充分ナラサルカ爲メ修業ノ成績満足ナラサルモノ及貧困ノ爲メ就學ノ義務ヲ全フシ得サルモノ往々之レアルハ實ニ遺憾トスル所ニシテ特ニ今回義務教育年限ノ延長ニ伴ヒ其就學ヲ躊躇スルモノ益々多キヲ加フルニ至ルヘシ依リテ左ノ準則ニ基キ規程ヲ定メテ衣食料及學用品ノ補給ヲ實行シ此等貧困兒童ヲシテ普ク就學セシメ以テ國民教育ノ普及進歩ヲ期セラルヘシ

但明治三十四年本郡訓令第二號ヲ廢止ス

明治四十一年三月六日

石川縣河北郡長 山根 松太

尋常小學校貧困兒童學資補給準則

第一條 家計貧困ニシテ尋常小學校ニ就學シ難キ兒童ニ衣食料及學用品ヲ補給シ其出席ヲ促スモノトス

第二條 衣食料及學用品ハ左ニ準シテ補給スルモノトス

等級	資	力	補給種類
一 等	町村税ヲ賦課セサルモノ及之レニ等シキ生計困難ナルモノ		教科書、文具、衣食料
二 等	縣稅戶數割負擔平均額ノ五分ノ一以下ニシテ生計困難ナルモノ及之レニ等シキモノ		教科書、文具
三 等	縣稅戶數割負擔平均額ノ三分ノ一以下ニシテ生計困難ナルモノ及之レニ等シキモノ		教科書

第三條 衣食料及學用品ヲ補給スヘキ兒童ハ毎年三月九月ニ於テ調査シ學務委員會ノ決議ニヨリ之ヲ當該保護者並ニ關係小學校長ニ通知シ同時ニ郡長ニ報告スルモノトス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ文具及衣食料ノ補給ヲ停止スルコトアルヘシ

一 正當ノ事故ナク壹週間以上引續キ缺席シタルトキ

二 性行不良ニシテ停學ノ處分ヲ受ケタルトキ

三 生産力等ニ異動ヲ生シ補給ノ必要ヲ認メサルトキ

第五條 教科書ハ毎年四月、十月ニ補給シ文具並ニ衣食料ハ毎月兒童ノ出席日數ニヨリ調査シ翌月五日限り之レヲ補給ス

第六條 本規程ノ制定及改廢ハ直チニ郡長ニ報告スルモノトス

●石川縣河北郡訓令第六號

町村 役場 町村立小學校

明治三十六年本郡訓令第五號小學校教員講究會規則左ノ通り改正ス

石川縣河北郡長 山根 松太

明治四十一年四月十四日

河北郡小學校教員講習會規則

- 第一條 本會ハ教授訓育ニ關スル研究ト教育ニ關スル諮詢トノ爲メニ設クルモノトス
- 第二條 本會ヲ分チテ研究會諮詢會ノ二種トス
- 第三條 研究會ハ教材教授法等ニ就キ教員各自研究ヲナシ諮詢會ハ教育ニ關スル郡長ノ諮問ニ對シ調査申ヲナスモノトス
- 第四條 研究會ハ第七條ニ定ムル各部ニ於ケル部内小學校職員ヲ以テ組織シ諮詢會ハ各部(七部)研究會ニ於テ選出シタル諮詢會員ヲ以テ組織ス
- 諮詢會員ノ選出數ハ第一部第三部ハ各一名其他ノ部ニアリテハ各二名宛關係小學校長ニ就キ選舉スヘシ
- 諮詢會ノ選舉ハ毎年四月トシ缺員ヲ生シタルトキハ臨時之レヲ行ヒ其職氏名ヲ研究會長ニ於テ郡長ニ報告スヘシ
- 第五條 研究會ニハ會長副會長理事ヲ置キ會務ヲ處理スヘシ但役員ノ氏名ハ郡長ニ報告スルモノトス
- 第六條 諮詢會開設ノ場所期日ハ郡長之レヲ定ムルモノトス
- 第七條 研究會ノ區域ヲ左ノ如ク分ツ
  - 第一部 淺川村立小學校
  - 第二部 小坂村、三谷村各村立小學校
  - 第三部 川北村、内灘村各村立小學校
  - 第四部 森本村、八田村、大場村、花園村各村立小學校
  - 第五部 中條村、井上村、津幡町、俱利伽羅村、笠谷村各町村立小學校
  - 第六部 英田村、宇ノ氣村各村立小學校

第七部 七塚村、高松村各村立小學校  
 數部聯合校長會ハ左ノ二部ニ分ツ

南部 第一部乃至第四部  
 北部 第五部乃至第七部

第八條 研究會ノ種類及期月ヲ左ノ如ク定メ各月一回一日間トス  
 總會(七部)二月四月七月九月  
 校長會(七部)三月六月十月  
 南北校長會(二部)五月十一月

第九條 臨時開會セントスルトキハ其目的場所期日時限事業ヲ具シテ豫メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ  
 第十條 研究會ノ場所期日時限其他ノ細則ハ關係小學校長町村長ノ協議ヲ以テ之レヲ定メ郡長ノ認可ヲ受ケ經費ニ關シテハ町村長ト豫メ協議ヲ遂クヘシ  
 細則ヲ改正セントスルトキハ關係小學校職員町村長ノ協議ニヨリ郡長ノ認可ヲ受クヘシ  
 會場ヲ變更セントスルトキハ豫メ郡長ニ届出テ會日ヲ變更セントスルトキハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ  
 第十條 研究會ヲ開キタルトキハ其場所日時出會人數缺席人名(缺席ノ事故)及ヒ會務ノ狀況ハ三日以内ニ郡長ニ報告シ同時ニ缺席人名ヲ關係町村長ニ通報スヘシ  
 研究會ニ缺席セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ開會時限迄ニ會長ニ届出ツヘシ  
 第十一條 諮詢會ニ關スル費用ハ郡ニ於テ支辨シ研究會ニ關スル費用ハ各町村ニ於テ支辨スルモノトス

附 則

第十二條 本規則ハ明治四十一年四月二十日ヨリ施行ス

●石川縣河北郡訓令第九號

町村立小學校ニ於テ學藝練習會運動會又ハ教育品展覽會等ヲ開設セントスルトキハ其會場日時學校名出會兒童數學年ノ區別科目種類施行方法等ノ大要ヲ具シ學校長管理者運署ヲ以テ開會五日以前ニ届出ツヘシ但シ二校以上聯合施行セントスルトキハ學校長管理者各其總代運署ヲ以テ開會五日以前ニ認可ヲ受クヘシ

明治三十二年四月本郡訓令第十一號明治三十二年十月本郡訓令第二十二號及明治三十三年五月本郡訓令第十三號ハ之レヲ廢止ス

明治四十一年四月二十四日

●石川縣河北郡訓令第一號

町村立小學校

爾今新タニ小學校教員ニ就職若クハ他郡市ヨリ轉任シタルモノアルトキハ赴任後二日以内ニ左ノ様式ニ依リタル履歷書ヲ指出サシムヘシ

明治三十一年(八月)本郡訓令第三十六號ハ之レヲ廢止ス

明治四十一年四月三十日

石川縣河北郡長

山根松太

履歷書式

原籍	氏名印
族籍	生年月日

年	號	月	日	任	免	進	退	賞	罰	等	官	衙	學	校

備考 任免進退賞罰等ノ欄ニハ年月日ノ順序ニ依リテ其辭令文ヲ掲ケ且ツ卒業證書及免許狀等ニ關スル事項ヲモ併セ記載スルモノトス

●石川縣河北郡訓令第一九號

本月十三日ヲ以テ一般臣民ニ對シ優渥ナル詔書ヲ下シ給フ  
 御旨ノ教育ニ關係スル所重且大ナリ職ニ教育ニ在ル者ハ  
 聖意ヲ奉體シ躬行實踐以テ子弟ヲ訓育シ克ク詔書ノ  
 御趣旨ニ副ヒ奉ランコトヲ努メラルヘシ

明治四十一年十一月四日

●石川縣河北郡訓令第二三號

其村立刈安尋常高等小學校俱利伽羅冬季分教場ハ毎年十二月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル四箇月間之レヲ開設シ字俱利伽羅字山森ニ於ケル尋常第四學年以下ノ兒童ヲ收容スルモノトス

石川縣河北郡長

山根松太

河北郡俱利伽羅村役場

明治四十一年十二月七日  
●石川縣河北郡訓令第二四號

石川縣河北郡長 山根 松 太

河北郡三谷村役場

其村立宮野尋常高等小學校切山冬季分教場同牧山尋常小學校釣部冬季分教場同不動寺尋常小學校浦波冬季分教場ハ毎十二月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル四箇月間之レヲ開設シ字切山字小池ハ切山冬季分教場ニ字釣部ハ釣部冬季分教場ニ字浦波ハ浦波冬季分教場ニ各字ニ於ケル尋常第四學年以下ノ兒童ヲ收容スルモノトス

明治四十一年十二月十日

石川縣河北郡長 山根 松 太

●石川縣河北郡訓令第二六號

淺川村役場

其村立尋常小學校楡谷冬季分教場ハ毎年十二月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル四ヶ月間之レヲ開設シ字楡谷ニ於ケル兒童ヲ收容ス

但尋常第四學年以下ノ兒童ハ毎年十二月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル四ヶ月間尋常第五學年以上ノ兒童ハ毎年一月二月ノ兩月間各之レヲ收容スルモノトス

明治四十一年十二月十九日

石川縣河北郡長 山根 松 太

●石川縣河北郡訓令第二七號

高松村役場

其村立金津谷尋常高等小學校若綠冬季分教場ハ字若綠ニ於ケル尋常第四學年以下ノ兒童ヲ收容シ毎年十二月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル四ヶ月間之レヲ開設ス

但都合ニ依リ貳ヶ月若クハ叁ヶ月ニ減縮スルコトヲ得此場合ニ於テハ豫メ開閉ノ期日ヲ報告スヘシ

明治四十一年十二月十九日

石川縣河北郡長 山根 松 太

●石川縣河北郡訓令第一四號

町村役場 町村立小學校

小學校兒童數等調査年報別紙様式ニ據リ毎年四月十日限リ前學年度分ヲ調査シ町村役場ヲ經テ報告ス

明治三十六年三本郡訓令第三號ヲ廢止ス

明治四十二年三月十九日

石川縣河北郡長 山根 松 太

河北郡何々小學校兒童數等調査年報

明治何年度分

一、年度内三月一日現在籍兒童數

學年	性別	出席兒童數	年度内四月以降連續缺席兒童數	合計
第一學年	女男			
第二學年	女男			
第三學年	女男			
第四學年	女男			
第五學年	女男			
第六學年	女男			

合計		女	男
一、年度末現在籍兒童數			
出席兒童數		年度中皆缺席兒童數	
合計		合計	
一、年度內入學及卒業兒童數			
入學兒童數		卒業兒童數	
女		女	
男		男	
一、年度中出席缺席平均及教授日數			
日々出席數	人分	日々缺席數	人分
女	厘	女	厘
男	厘	男	厘
平均兒童數	人分	平均兒童數	人分
女	厘	女	厘
男	厘	男	厘
一、兒童身體檢查成績			
強	健	中	等
弱	近	視	眼
疾	齲	齒	疾
病			
一、學齡兒童就學不就學調査			
現在就學	不	就	學
常	就	學	除
業	就	學	其他
計	計	計	計
合計	合計	合計	合計
女	男	女	男

記載心得

- 一、年度内三月一日現在籍兒童數中常設分教場在學ニ係ル兒童數ハ外分何人ト區別シ記入スヘシ
- 二、三月一日現在籍兒童及年度末現在籍兒童中修業年限四ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シテ更ニ第五六學年ニ在學ノ者ハ朱書ヲ以テ別ニ其數ヲ掲クヘシ  
但シ其ノ朱書ノ數ハ墨書ノ數中ニ計入スヘカラス
- 一、年度内卒業兒童中ニ修業年限四ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シテ更ニ修業年限六ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ朱書ヲ以テ其數ヲ掲クヘシ但シ其ノ朱書ノ數ハ墨書ノ數中ニ計入スヘカラス
- 二、三月一日現在籍兒童、年度末現在籍兒童及年度内卒業兒童中ニ學齡ヲ超過セルモノアラバ内超齡何人ト附記スヘシ
- 一、年度末現在籍兒童數中ニハ年度内三月ニ於ケル卒業兒童ヲモ包含ス
- 一、身體檢查成績ハ年度内四月ノ檢查ニヨル
- 一、學齡兒童就學不就學調査ノ現在就學ノ欄ニハ年度末在籍兒童數ヨリ學齡超過ノ兒童年度中皆缺席兒童及ヒ年度内三月ニ於ケル卒業兒童數ヲ引去リタルモノヲ記入スヘシ但シ修業年限四ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シテ更ニ第五六學年ニ在學ノモノハ朱書ヲ以テ區別記入スヘシ
- 尋常科卒業ノ欄ニハ年度内三月ニ於ケル卒業兒童ヲ計入シ修業年限四ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シタルモノハ朱書シ同六ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シタルモノハ墨書シ四ケ年ノ小學校ヲ卒業シテ更ニ六ケ年ノ小學校ヲ卒業シタルモノハ墨書シ各別ニ區分記入スヘシ
- 一、高等科ヲ併置セル學校ニアリテハ各別表ニ調製スルモノトス但シ高等科ニ係ルモノハ本記載心得ヲ摘要セス
- 一、用紙ハ中折判トシ様式ヲ變更スヘカラス

●石川縣河北郡訓令第二九號

本郡小學校校名旗ノ様式左ノ通り相定メ候條將來新調セントスルモノハ之ニ憑リ漸次一定スベシ  
明治四十二年六月十七日  
町村役場 町村立小學校  
石川縣河北郡長 山根 松 太

校名旗様式

一、地 質 モスリン

一、寸 法 曲尺ニテ幅二尺五寸長四尺五寸

但長四尺五寸ノ内五寸ハ竿ヲ通ス縫代ニ用フ

一、記入文字 旗ノ中央ニ右ヨリ横ニ「何々小學校」(石川縣河北郡及尋常或ハ尋常高等ノ文字ヲ省ク)ト白字染抜

一、染 色 紫

一、旗 竿 竹、長サ凡ソ二間黑色段塗

竿頭、金色塗球(直徑凡二寸五分)

●石川縣河北郡訓令第三〇號

本郡小學校ニ於テ兒童訓練ニ資センカタメ校旗ヲ制定セントスルモノハ左ノ様式標準ニ憑ルベシ  
町村役場 町村立小學校  
明治四十二年六月十七日 石川縣河北郡長 山根 松 太

校旗様式標準

一、地 質 鹽瀬類

一、寸 法 曲尺ニテ幅一尺八寸内外長二尺七寸内外

一、記入文字 徽章染色等當該學校ニ於テ考案工夫ヲ施スベシ

一、旗 竿 木製千段卷黑色

●石川縣河北郡訓令第三一號

町村立小學校  
小學校教員相互研究ノ便宜ヲ謀リ教授訓練ノ參考ニ資センカ爲メ郡設教員講習會ニ附屬セシメテ左ノ事業ヲ行フ依テ其指定ニ從ヒ相當出品シテ研究ニ努ムベシ  
石川縣河北郡長 山根 松 太  
明治四十二年六月十七日

事 業

石川縣河北郡長 山根 松 太

一、陳列物品

一、兒童ノ成績品

二、教員ノ考案及其製作ニナレル教授用具

三、教授訓練ニ關スル調査及研究書類

四、得易カラサル實物類

一、出品物ハ講習會當日出席教員之ヲ携帶シ會場へ到達後直ニ所定ノ場所ニ陳列シ閉會後各自持還ルモノトス

但講習會日引キ續キ二日以上ニ渉ル時ハ講習會初日ニ於テ陳列シ講習會末日ニ於テ持還ルモノトス

●石川縣河北郡訓令第三二號

町村役場  
徵兵合格者ニ對スル豫備教育施行標準別紙ノ通り相定ム憑リテ相當金講シ其効果ヲ全カラシムベシ



明治四十二年七月七日

石川縣河北郡長 山根松太

四百二十

一、徵兵合格者ニ對スル教育施行標準

各小學校下ニ徵兵合格者豫備教育所ヲ設クルモノトス

一、被教育者ノ制限  
主トシテ初等教育程度以內ノモノトス

一、教育ノ時季  
一年ノ中六、七、九、十、十一ノ五ヶ月間ニ於テ約三十日トシテ六十時ト概算ス

一、學科  
修身、國語、算術トス  
修身ハ軍隊勅諭及讀法ヲ基本トシテ國民的思想感情及入營者トシテ心得フベキ作法ヲ養成スルモノトス

國語  
讀方ハ直接軍隊ニ必要ナル事項及士氣ヲ振作スベキ讀本ヲ用キルモノトス  
應答ノ言語ハ發音ヲ正シクシ簡明正確ナラシムルコトニ特ニ注意スルモノトス

書キ方ハ日常普通ノ文字ヲ選定シテ字形排列ヲ正シク書寫スルニ熟セシムルモノトス  
綴方ハ入隊前後ニ必要ナル日用文ヲ主トシテ授クルモノトス

算術ハ四則ヲ主トシテ筆算珠算ヲ併用スルモノトス  
算術ノ問題ハ適切ナルモノヲ選ヒ併セテ「メートル」ニ關スル觀念ヲ明確ナラシムルヲ要ス

一、教授者

當該學校教員ニ請託シ及軍人團長幹部員之ニ當ルモノトス

一、經費

經費ノ用途  
村費又ハ協議費ヲ以テ支辨スルモノトス  
經費ノ用途  
炭油費及其他ノ諸費ニ充ツルモノトス

一、場所

小學校舍內ニ設クルモノトス

一、參考用書

書名	著者	發行書肆	定價
訂正 增補 徵兵 豫備 讀本	文學士 小谷 重	金 港 堂	參 拾 錢
壯 丁 讀 本	樋口 勘次郎	全	
1、法制 經濟 社會 編			四 拾 錢
2、地 理 歷 史 編			五 拾 錢
3、修 身 文 學 編			五 拾 錢
國 民 新 讀 本	新保 繁次郎	全	貳 拾 錢

四百二十一

兵卒教科書	第九師團	金澤市尼張町 森井書店	拾七錢
壯丁入營準備教科書		寶文館	貳拾五錢
入營及在營寶典		全	參拾五錢
壯丁入營準備獨習書		全	參拾五錢

●石川縣河北郡訓令第二號

本郡特殊教育獎勵規程左ノ通り相定ム、  
但明治三十五年五月本郡訓令第拾號ヲ廢止ス

明治四十三年二月四日

特殊教育獎勵規程

- 第一條 本郡内ニ於テ青年子女ノ爲メ夜學若クハ小學校卒業者教育召集等特殊ノ教育ヲ施設スルトキハ其狀況ニヨリ獎勵金ヲ附與スルコトアルヘシ但シ獎勵金ハ其指定以外ノ費用ニ充ツヘカラス
- 第二條 個人若クハ團體ノ施設ニ係ル特殊教育ハ當該町村長及小學校長之レヲ指導監督スルモノトス
- 第三條 町村長ハ其町村ニ於テ特殊ノ教育ヲ施設シ又ハ其町村内ニ於テ之ヲ施設シタルモノアルトキハ左ノ各項ヲ具シ届出ツヘシ但シ小學校ニ於ケル教育召集等補習ヲ目的トシ施設スルモノハ之レニ準シ其施行ノ方法等ヲ具シ小學校長ヨリ届出ツヘシ
- 一、教科目及其程度
- 二、教授ノ期間教授日及教授時數

町村役場 町村立小學校

石川縣河北郡長 山根松太

三、教授ノ場所

四、生徒數

五、教師ノ氏名

六、經費豫算額及支出方法

七、設立者(個人ノ施設ニ係ルモノハ其住所氏名ヲ記スヘシ)

八、其他必要ト認ムル事項

第四條 教授主任者ハ生徒ノ名簿及出席簿ヲ備ヘ生徒ノ増減出席ノ狀況ヲ明ニスヘシ

第五條 町村長ハ毎月末ニ於テ特殊教育ノ狀況ヲ調査シ其月ノ教授日數教授時數出席生徒數及日々出席平均數等翌月五日限リ報告スヘシ但シ小學校ニ於ケル教育召集等補習ヲ目的トシ施設ニ係ルモノハ小學校長ヨリ報告スルモノトス

●石川縣河北郡訓令第三號

町村立小學校

學校教育ヲシテ倍々効果アラシメントスルニハ四周ヲ圍繞スル社會ノ現狀ニ通シ深ク飾メ厚ク察シ以テ之ニ適應スル施設ヲナシ尙進ミテ其弊害ハ矯正ニカメ其有益ハ之ヲ助長セシムルハ斯教育ノ爲メ緊要ナル事ナリトス依テ別紙所載ノ各項ニ準シ校下ノ狀態ヲ調査シ兒童教養上ノ參考ニ資スヘシ  
但本調査ハ來ル五月末日マテニ結了シ其謄本一部ヲ提出スヘシ

明治四十三年二月七日

石川縣河北郡長 山根松太

學校教育ト社會トノ調査

第一章 地理歴史ニ關スルコト

一、地勢及境域

二、地質

三、自然物及自然現象

- 四、土地ノ沿革
- 五、社寺ノ由來
- 六、地理歴史ノ學校ニ及ホス影響
- 第二章 産業ニ關スルコト
  - 一、生業ノ種類及生産高
  - 二、實業各種ノ組合
  - 三、共同購買
  - 四、共同販賣
  - 五、信用組合
  - 六、金融ノ狀況
  - 七、耕地整理
  - 八、害虫驅除
  - 九、麥奴豫防
  - 十、山林ノ保護
  - 十一、實業各種ノ改良
  - 十二、親作ト小作ノ關係
  - 十三、學校ノ實業ニ及ホス影響
  - 十四、實業ノ學校ニ及ホス影響
- 第三章 家庭ニ關スルコト
  - 一、善良ト認ムヘキ点
  - 二、弊害ト認ムヘキ点
  - 三、學校ノ家庭ニ及ホス影響
- 第四章 社交ニ關スルコト
  - 一、送迎
  - 二、贈答
  - 三、應對
  - 四、訪問
  - 五、親戚朋友間ノ交際
  - 六、學校ノ社交ニ及ホス影響
  - 七、社交ノ學校ニ及ホス影響
- 第五章 娛樂ニ關スルコト
  - 一、興行
  - 二、音樂
  - 三、運動
  - 四、文字
  - 五、遊戲
  - 六、學校ノ娛樂ニ及ホス影響
  - 七、娛樂ノ學校ニ及ホス影響
- 第六章 會合ニ關スルコト
  - 一、教育會
  - 二、同窓會
  - 三、青年會

- 四、戶主會
- 五、演說談話會
- 六、幻燈會
- 七、共進會
- 八、若者集會
- 九、宴會
- 十、宗教上ノ會合
- 十一、學校ノ會合ニ及ホス影響
- 十二、會合ノ學校ニ及ホス影響
- 第七章 風俗習慣ニ關スルコト
  - 一、祝祭日
  - 二、服裝
  - 三、飲食
  - 四、住居
  - 五、言語
  - 六、動作
  - 七、勤怠
  - 八、男女ノ風儀
  - 九、飲酒
  - 十、喫烟
  - 十一、嗜好
  - 十二、夜遊
  - 十三、紋日
  - 十四、新年
  - 十五、婚姻
  - 十六、葬式
  - 十七、慶事
  - 十八、佛事
  - 十九、祭禮
  - 二十、文書印章ノ取扱
  - 廿一、學校ノ風俗習慣ニ及ホス影響
  - 廿二、風俗習慣ノ學校ニ及ホス影響
- 第八章 修養ニ關スルコト
  - 一、新聞
  - 二、雜誌
  - 三、圖書館
  - 四、夜學
  - 五、研究會
  - 六、展覽會
  - 七、体力ノ修養
  - 八、學校ノ修養ニ及ホス影響
  - 九、修養ノ學校ニ及ホス影響
- 第九章 衛生ニ關スルコト
  - 一、衣服
  - 二、飲食
  - 三、住所
  - 四、下水
  - 五、飲料水
  - 六、豫防及消毒
  - 七、体育運動
  - 八、學校ノ衛生ニ及ホス影響
  - 九、衛生ノ學校ニ及ホス影響

第十章 信仰ニ關スルコト

一、信仰ノ摸樣  
四、信仰ノ學校ニ及ボス影響

二、迷信

三、學校ノ信仰ニ及ボス影響

第十一章 慈善及感化ニ關スルコト

一、救恤及保護  
四、土地出身ノ偉人  
ス影響

二、赤十字社員及愛國婦人會員  
三、孝子節婦義僕奉公等ノ篤行者  
五、學校ノ慈善及感化ニ及ボス影響  
六、慈善及感化ノ學校ニ及ボ

●石川縣河北郡訓令第四號

町村ニ於テ小學校舍ヲ建築スルトキハ左ノ時期ニ際スル五日以前其旨報告スベシ

町村役場

明治四十三年二月九日

石川縣河北郡長

山根松太

一、水繩張

一、用材取揃

一、石場出來

一、建物組上ケ

一、天井及床ノ板張工事

●石川縣河北郡訓令第八號

町村役場

町村立小學校

女子ニ對シテ補習教育ヲ施シ時運ノ發展ニ伴ハシムルハ目下ノ急務ナリ從來屢々其施設ヲ促ス所アリシモ未タ成績ノ見ルヘキモノナシ今左ニ施設方法ノ一斑ヲ示ス宜ク土地ノ情況ニ照ラシ相當計畫シテ斯教育ノ進歩ヲ企圖スヘシ

明治四十三年三月十七日

石川縣河北郡長

山根松太

女子補習教育施設方法

第一

一般的ニ計畫スヘキモノ

甲、各小學校ニハ成ルヘク女子裁縫學校ヲ附設シ小學校卒業後ノ女兒ヲ入學セシムルコト

但土地ノ狀況ニヨリテハ左ノ二種中ノ一ヲ擇フモ差支ナシ

イ、小學校ニ専科裁縫教員ヲ置キ修身、家事經濟及裁縫科ヲ課シ毎日約六時間教授ヲナスコト

ロ、小學校教員ヲシテ裁縫學校教員ヲ兼務セシメ修身、家事經濟(每週二時以上午前)裁縫(毎日四時午後)ヲ教授セシムルコト

乙、小學校卒業後ノ女兒ヲ毎月一回以上休業日等便宜ノ日ヲ擇ヒテ小學校ニ召集シ修身、家事經濟ニ關スル事項ヲ講話スルコト

丙、其他土地ノ情況ニヨリ業閑ノ時ニ於テ數月間繼續的ニ補習學校ヲ開設スルコト

第二

各町村ノ情況ニヨリ計畫スヘキモノ

甲、兒童五百名以上ヲ有スル小學校ニ於テハ努メテ女子裁縫學校ヲ附設スルコト

乙、機業等ニ従事スル女兒多キ土地ニ於テハ工場主等ト協議ノ上其休業日ヲ利用シ修身、家事經濟等ノ講話ヲナスコト

丙、裁縫ノミヲ専門トシテ授クルモノアル土地ニ於テハ其師匠ト協議ノ上毎月三四回師匠ヲシテ其弟子ヲ學校ニ引卒セシメ修身、家事經濟ノ聽講ヲナサシムルコト

丁、宗教等ニ關スル女子ノ會合アル土地ニ於テハ寺院僧侶ト協議シ其會合ニ臨ミ修身、家事經濟ノ講話ヲナスコト

戊、其他土地ノ情況ニヨリ學校ニ於テ料理會等ヲ設ケ女子會合ノ機會ヲ作り修身、家事經濟ノ講話ヲナスコト

●石川縣河北郡訓令第一〇號

町村役場 町村立小學校  
明治四十三年四月本縣訓令甲第八號學校生徒ニ關スル「トラホーム」豫防規程第一條ニ依リ生徒ニ對スル「トラホーム」ノ有無檢診ハ毎年一月四月七月十月ニハ必ス之ヲ施行スヘシ

石川縣河北郡長 山根 松 太

明治四十三年四月二十一日

●訓第七五號

町村役場

時勢ノ進運ニ伴ヒ國民一般ニ教育ノ必要ヲ感スルコト益々深切ヲ加ヘ尋常小學校ノ課程ヲ卒ヘ進テ高等小學校ニ入ルモノ年一年ニ増加スルニ至リシハ國家ノ爲メ誠ニ喜フヘキ現象ナリト雖モ其入學志望者ノ多數ナルト俱ニ半途ニ退學スルモノ亦頗ル多ク且ツ尋常小學校ヲ卒業シテ實業ニ從事スルモノモ尙テ習得セシ所ノ事項ヲ遺忘シテ其用ヲ爲サ、ル者往々之レアルハ甚タ遺憾トスル所ナリサレハ高等科半途退學者及尋常科卒業者ニ向ツテ尋常小學校ノ教科ヲ補習スルト同時ニ簡易ナル方法ニ依リ其實業ニ須要ナル智識技能ヲ授ケ以テ漸次補習教育ノ普及發達ヲ圖ルハ目下ノ狀況ニ於テ特ニ最急ノ要務ナリトス依リテ今補習教育ノ施設ニ關シ訓令スルコト左ノ如シ

一 現今小學校補習科設置ノ狀況ヲ見ルニ何レモ正教科時間内ニ於テ教授スルヲ以テ之レカ爲メニ義務教育ヲ浸蝕スルノ恐渺シトセス自今補習科ノ教授時間ハ成ルヘク夜間休業日又ハ正教科時間外ニ於テ定メ教授事項ノ如キモ漫ヲニ高尚ニ馳スルコトナク簡易ニシテ最モ其土地ノ情況ニ適切ナラシメシコトヲ要ス

一 夜學ノ設置ハ未タ能ク普及スルニ至ラスト雖モ其成績ノ見ルヘキモノ亦ナキニ非ス而シテ此夜學ハ所謂補習教育ノ主旨ニ適合セルモノナレハ漸次之レヲ改善シテ補習科ノ組織トスルハ亦最モ必要ノ

コトナリトス自今此方針ニ依リ之レカ計畫ヲナサンコトヲ要ス

一 實業補習學校ハ義務教育ヲ了ヘテ實業ニ從事シ又ハ從事セントスル子弟ニ對シ一ハ以テ普通教育ヲ補習シ一ハ以テ實業ノ智識技能ヲ授クル所ニシテ高等小學校トハ自ラ其目的ヲ異ニス而シテ實業補習學校ニ對シテハ實業教育費國庫補助法ニ依リ其經費ヲ補助セラル、ノ途アリ故ニ高等小學校設置ノ町村ト雖モ其資力ニ餘裕アル場合ハ其必要ニ應ジ實業補習學校ヲ設置スルヲ可トス  
一 既設ノ高等小學校ニシテ規模狹少設備不完全ニシテ後來發達ヲ期シ難キモノハ寧ロ實業補習學校ニ改ムルヲ可トス又將來高等小學校ヲ設置セントスルモノニアリテモ此方針ニ依ランコトヲ要ス  
一 尋常小學校ヲ卒業セシモノ、高等小學校ニ入學スルハ固ヨリ望ム所ナリト雖モ其半途ニ退學スルモノ、如キハ寧ロ最初ヨリ補習科若クハ實業補習學校ニ入學スルノ優レルニ如カス故ニ自今小學校長若クハ首席教員ヲシテ尋常小學校卒業ノ際能ク其家庭ノ情況ヲ調査セシメ卒業生ヲシテ前途ノ方向ヲ誤ラサランコトヲ要ス

一 高等小學校ニ入學セシモノハ容易ニ半途退學ヲナサシメサルハ勿論ナルモ若シ止ムヲ得ナル事情アリテ退學スルモノハ成ルヘク補習科若クハ實業補習學校ニ入學セシメ以テ彼等カ從事スヘキ實業上ニ裨補スル所アラシメンコトヲ要ス

一 小學校教員ヲシテ規定ノ時間ヲ超エテ補習科ノ教授ヲ擔任セシムル場合ニ於テハ少クモ一人ニ付一ヶ月金壹圓五拾錢以上ノ報酬ヲ給センコトヲ要ス夜學ノ教授ヲ囑托スル場合ニ於テモ亦之レニ準ス一凡ソ新規ノ事業ヲ起スヤ若シ其初ニ於テ之カ施設ヲ誤リ一轉シテ廢止ニ歸スルカ如キコトアラハ後日再ヒ之ヲ設置スルノ機會ハ容易ニ得ヘカラサルニ至ラン故ニ實業補習學校ヲ設置スルニ當リテモ最モ慎重ヲ加ヘ能ク町村ノ資力ト情況トヲ察シテ適良ノ方法立テ以テ十全ノ効果ヲ將來ニ収メシトヲ期スヘシ

明治三十三年三月十二日

石川縣河北郡長 柴田 是

四百三十

●訓第一二號

時局ニ處スル教育當事者ノ心得ニ關シテハ既ニ主務大臣ヨリ訓令セラル、所アリ本官亦郡内當事者ニ對シテ屢々訓示注意ヲ與ヘ只管其實績ヲ發揚センコトニ努メタリ開戦以來茲ニ殆ント一ケ年皇軍嚮フ所連戦連捷ノ偉勳ヲ奏シツ、アリト雖モ戦局ノ前途ハ尙遠ナリ我國民タルモノ益々堅忍持久ノ誓ヲ奉戴シ飽クマテ交戦ノ目的ヲ達スルニ努ムヘキハ勿論此際進ンテ戦後ノ經營ヲ劃策シ以テ光榮アル終局ノ勝利ヲ収メントト覺悟セサルヘカラス

抑々戦役經營ノ大本ハ實業ノ振作發展ニ存ス實業ノ振作發展ヲ期センニハ須ラク之カ根柢タル實業思想ノ養成ヲ圖ラサルヘカラス蓋シ實業思想ノ發達ハ個人ヨリ之ヲ言ヘハ立身興家ノ基礎國家ヨリ之ヲ言ヘハ國力振張源泉ニシテ其ノ盛衰消長ハ延イテ國家ノ隆替ニ影響ヲ及ホスヤ細説ヲ須ヒスシテ明カナリトス彼ノ歐米列國カ競ウテ實業教育ノ獎勵ヲ圖リ汲々トシテ唯後レノコトヲ恐ル、所以ノモノ尙ニ偶然ニアラサルナリ凡ソ事業ハ成ルノ日ニ成ルニアラス必ス相當ノ準備ヲ要ス況ンヤ教育事業ノ如キ其効果ヲ永遠ニ期スルモノニ於テオヤ是今日有事ノ時ニ當リ戦後ノ經營トシテ實業思想ノ養成ヲ必要トスル所以ナリ

之ヲ要スルニ我カ帝國カ戰捷ノ光榮ヲ完フシ威名實力共ニ世界ノ一等國トシテ列強ノ間ニ雄視スルヲ得ルト否トハ一ニ實業思想ノ發展如何ニ繫ルト謂フモ過言ニアラサルヘシ彼ノ「進ンテ公益ヲ廣メ世務ヲ開ク」ト宣セラレタル勅語ハ今後ニ於ケル教育施設上ニ關シ最モ服膺スヘキ所ナリト信スサレバ當事者ハ深ク此ニ留意シ益々力ヲ實業思想ノ養成ニ致サルヘカラス

然ルニ翻ツテ郡内教育ノ現狀ヲ觀察スレハ實業思想養成ノ注意未タ周到ナラス之ガ施設亦殆ント見ルヘキナシ豈ニ遺憾ノ至リナラスヤ依リテ此際一般小學校ニ手工科ヲ加設シ又簡易ナル方法ニ依リテ實

業補習學校ヲ設置シ或ハ青年夜學ヲ擴張シテ實業ノ科目ヲ加フル等誠意熱心大ニ實業思想ノ養成ニ努力シ以テ十全ノ効果ヲ舉ケンコトヲ期スヘシ

明治三十八年二月八日

町村長 宛

石川縣河北郡長 山根 松太

●訓第一三號

時局ニ處スル教育當事者ノ心得ニ關シテハ既ニ主務大臣ヨリ訓令セラル、所アリ本官亦郡内當事者ニ對シテ屢々訓示注意ヲ與ヘ只管其實績ヲ發揚センコトニ努メタリ開戦以來茲ニ殆ント一ケ年皇軍嚮フ所連戦連捷ノ偉勳ヲ奏シツ、アリト雖モ戦局ノ前途ハ尙遠ナリ我カ國民タルモノ益々堅忍持久ノ誓ヲ奉戴シ飽クマテ交戦ノ目的ヲ達スルニ努ムヘキハ勿論此際進ンテ戦後ノ經營ヲ劃策シ以テ光榮アル終局ノ勝利ヲ収メントト覺悟セサルヘカラス

抑々戦後經營ノ大本ハ實業ノ振作發展ニ存ス實業ノ振作發展ヲ期センニハ須ク之カ根柢タル實業思想ノ養成ヲ圖ラサルヘカラス蓋シ實業思想ノ發達ハ個人ヨリ之ヲ言ヘハ立身興家ノ基礎國家ヨリ之ヲ言ヘハ國力振張ノ源泉ニシテ其ノ盛衰消長ハ延イテ國家ノ隆替ニ影響ヲ及ホスヤ細説ヲ須ヒスシテ明カナリトス彼ノ歐米列國カ競フテ實業教育ノ獎勵ヲ圖リ汲々トシテ唯後レノコトヲ恐ル、所以ノモノ尙ニ偶然ニアラサルナリ凡ソ事業ハ成ルノ日ニ成ルニアラス必ス相當ノ準備ヲ要ス況ンヤ教育事業ノ如キ其効果ヲ永遠ニ期スルモノニ於テオヤ是今日有事ノ時ニ當リ戦後ノ經營トシテ實業思想ノ養成ヲ必要トスル所以ナリ

之レヲ要スルニ我カ帝國カ戰捷ノ光榮ヲ完フシ威名實力共ニ世界ノ一等國トシテ列強ノ間ニ雄視スルヲ得ルト否トハ一ニ實業思想ノ發展如何ニ繫ルト謂フモ過言ニアラサルヘシ彼ノ「進ンテ公益ヲ廣メ世務ヲ開ク」ト宣セラレタル勅語ハ今後ニ於ケル教育施設上ニ關シ最モ服膺スヘキ所ナリト信スサレ

四百三十一

ハ當事者ハ深ク此ニ留意シ益々力ヲ實業思想ノ養成ニ致ササルヘカラス

然ルニ翻ツテ郡内教育ノ現狀ヲ觀察スレハ實業思想ノ養成ノ注意未タ周到ナラズ之レガ施設亦殆ント見ルヘキナシ豈ニ遺憾ノ至リナラスヤ依リテ今般町村長ニ對シ實業思想養成ニ關スル施設計劃ヲ訓令セリ尙小學校職員ニアリテハ常ニ實業上ノ研究修養ヲ努メ各教科教授ノ間ニ於テ之カ思想養成ノ注意ヲ怠ラサルハ勿論學校ノ休業日又ハ教授ノ餘暇ヲ以テ教員ノ指揮監督ノ下ニ於テ兒童ヲシテ實業ノ補助ニ從事セシメ又小學校ニ實業補習學校ヲ附設シ或ハ青年夜學ヲ開設シタル場合ニアリテハ進ンテ其教授ヲ擔任スル等誠意熱心實業思想ノ養成ニ努力シ以テ十全ノ効果ヲ舉ケンコトヲ期スヘシ

明治三十八年二月八日

小學校長宛

石川郡河北郡長

山根松太

●内訓第一號

近來學校ニ於テ催ス所ノ練習會運動會又ハ講習會紀念會等ニ於テ當日ノ興味ヲ添ヘンカ爲メ種々ノ工夫ヲ廻ラシ或ハ數日前ヨリ準備ノ練習等ヲ爲シ其結果多數ノ時間ヲ空費スルモノナキカ特ニ頃日都會ノ地ニアリテハ生徒ニシテ脂粉ヲ施シ假裝ヲ爲シ往々演劇興行ニ近キモノヲ演スルモノアリ而シテ其風今ヤ漸次ニ地方ニ及ホサントス斯ノ如キハ學校ノ風紀ヲ弛フシ浮薄ノ弊風ヲ助長スルヲ以テ學校職員ハ右等ノ行爲ニ傾カサル様十分注意ヲ加ヘ尙講習會等ノ場合ニ於テハ職員協同シテ周密ニ兒童ヲ監督シ教育上善良ナル効果ヲ収メムコトヲ期セラルヘシ

右内訓ス

明治四十二年一月二十八日

小學校長宛

石川縣河北郡長

山根松太

●内訓第二號

現時ノ青年ハ未來國民ノ中堅タルモノナレハ之ヲ指導誘掖シテ地方習俗ノ矯正ヲ計リ併セテ教育勸業ノ進歩ヲ期スルハ即チ國運ノ發展ヲ裨クル所以ニシテ從來數々彼カ驟起ヲ促セルハ其意ニ外ナラサルナリ

貴職等亦常ニ熱誠ナル斡旋ヲ與ヘテ其振作ヲ企畫セラル、ニ依リ既ニ管内ニ於テ數十團體ノ組織ヲ見ルニ至ル未タ活動ノ著カラサルハ設立日尙淺キニヨルト雖モ鼓舞獎勵ノ餘地多ク此間ニ存スルヲ信ス今其活動ニ關シ要件ト認ムルモノヲ列記シ參考ニ資ス宜ク拾捨折衷シテ實施シ以テ効果ヲ収メムコトニ努力セラレタシ

右内訓ス

明治四十二年三月五日

町村長宛  
小學校長宛

石川縣河北郡長

山根松太

青年團活動ニ關スル件

近來各地方ニ青年團ノ組織アルハ時勢ノ必要ニ應シタル美譽ニシテ實ニ喜ブベキ現象ナリ然レドモ側面ヨリ之ヲ觀察スレハ能ク其團則ヲ實行シテ目的ヲ達セントシツ、アルモノ未ダ幾何モナキハ遺憾ノ至リニ堪ヘザルナリ今之ガ振作ヲ圖ランニハ先

- 一、組織
- 二、事業
- 三、維持方法

ノ各項ニ對スル改善ノ途ヲ講ズルノ切實ナルヲ認ムルナリ而モ該團ノ活動振作ハ其主腦タル役員ノ誠意ト熱情トヲ以テ之ヲ操縱鼓舞ヲ勉ムルニアラザレバ其成功ハ得テ望ムヘカラス

組織

(一) 一校下ノ青年ヲ以テ一團ノ單位トスルコト  
青年ヲ教化シ地方風習ノ改善ヲ計ルハ學校事業ノ一ナリ而シテ學校教化ノ及ブ範圍ハ主トシテ其校

下ナル一團内ニ限ラル、ヲ以テ青年團體ノ組織モ亦一校下ヲソノ單位トナスヲ至當ナリトスル所以ナリ然レドモ團員ノ取締事業ノ進行土地ノ形勢トヲ顧ミ一校下ヲ便宜數區ノ支部(小團)ニ區分スルコトハ勿論一村内ニ數團アル所ニアリテハ其連絡統一ヲ圖ル機關ヲ設クルコトモ亦必要ナルコト、ス

但支部ヲ設ケタル場合ハ支部規則ヲ制定シテ本團役員會ノ協定ヲ經ベキモノトス

- (二) 會員及役員ニハ學校職員先輩及土地ノ名望家ヲ網羅スルコト
- 既設青年團ノ規則ニハ何レモ土地ノ先輩及名望家ハ會員トシテ網羅セラレアレドモ或ハ單ニ投資家ノ員ニ備ヘツ、アルモノナキニシモアラサレバ頗ル遺憾トスル所ナリ元來先輩及名望家ナル者ハ後進子弟ノ儀範タルモノナレハ是等ノモノヲ役員ニ推舉シテ指導誘掖ニ盡瘁ヲ求ムルコトハ最モ宜シキヲ得タルモノトス

事業

- (一) 圖書館ノ設置ヲ企圖スルコト
- 青年ノ嗜好ニ適シ且有益ナルヘキ圖書類ヲ備ヘ之ヲ閱覽又ハ回讀セシメ青年カ讀書趣味ノ喚起及思想開發ニ資センコトハ團員ノ向上心ヲ促スニ最モ必要ナルコト、ス
- (二) 夜學ヲ獎勵スルコト
- 學校内ニ開カル、夜學會ニハ助メテ團員ヲ出席セシメソノ遠隔ニシテ通學ニ不便ナル小團ニアリテハ特ニ教師ヲ聘シ或ハ其他ノ先輩ニ教授ヲ乞ヒ以テ團員ノ智徳修養ニ努ムヘシ
- (三) 談話會ヲ開設スルコト
- 青年團主催ノ下ニ談話會ヲ開設シ先輩及名士ノ講話ヲ請ヒ一方繪畫陳列化學ノ實驗幻燈使用等ノ方便物ヲ利用シテ團員ヲシテ燒テテ出席セシメンコトニ勉ムヘシ

- (四) 俱樂部ノ設置ヲ企圖スルコト

青年風習ノ改善遲々タルハ其原因一ニシテ足ラストイヘドモ多クハ適當ノ集會場ヲ有セザルカタメ參々伍々相集リ飲食ヲ事トシ終ニ汚行ヲ敢テスルニ至ルモノトスサレバ一團又ハ一支部ニハ一ヶ所以上ノ俱樂部ヲ設置シテ高尚ニシテ趣味ヲ有スル娛樂具等ヲ備ヘ置キ趣味ノ轉向ヲ計リテ從來ノ弊習ヲ改メンコトヲ努ムヘシ

- (五) 惡習ヲ指摘シテ漸次改善ヲ圖ルコト

目下惡習トシテ青年間ニ存スルモノ數十ニシテ足ラサルヘシ之等ハ場合ニヨリ時機ニ應シテ具體的ニ指摘シ逐次改善セシムルコトニ努ムヘシ

- (六) 公設ニ係ル農業等ノ講習會ニハ責任團員ヲ出席セシムルコト

地方ニ於ケル實業ノ改良發達ヲ圖ルニハ一方青年ニ其智識ヲ附與スルニ努ムルハ最モ必要ナリトス是ニ於テハ毎年各地方ニ開催スル講習會ニ青年團中ヨリ順次遞番ヲ以テ出席員ヲ定メ漏ナク講習ヲ受ケシムル方法ヲ規定スヘシ

- (七) 作物品評會ヲ開催スルコト

農事獎勵ノ方便トシ又青年團事業ノ一トシテ團員ノ手ニ成レル農作物農產品ヲ蒐集シテ品評會ヲ開設シ相互研究ノ資料ニ供シ延テ實業ノ發達ヲ圖ルヘシ

- (八) 地方ノ生業ニ關スル作業ノ實驗試作ニ從事セシムルコト

地方ノ産業ヲ改善シ以テ其富殖ヲ圖ルハ目下ニ於ケル急務ニシテ而モ之カ衝ニ當ルヘキモノハ青年ヲ措テ他ニ求ムヘカラス是ニ於テカ土地ニ適切ナル事業ト認ムルモノニ對シテハ或ハ實驗實習ヲナサシメ或ハ試作ニ從事セシメテ其利益アルモノハ漸次他ニ及ボシ實業發展ノ中樞タラシムルコトニ努ムヘシ



(九) 副業ヲ獎勵スルコト  
農閑ノ時季ニハ各地適當ノ副業ヲ獎勵シテ勤儉ノ實踐ヲ計リ兼テ閑居不善ノ弊風ヲ矯ムルコトニ努ムヘシ

(十) 公共事業ヲ團體ニ於テ請負フコト  
江凌又ハ堤防ノ修繕等地方ノ公共事業ハ之ヲ青年團ニテ引キ受ケテ以テ奉公的思想ヲ鼓吹シ兼テ基金ノ收入ヲ圖ルヘシ

維持法

(一) 基本金ノ蓄積ヲ圖ルコト  
團體請負事業ヨリ得タル料金品評會出品物ノ賣上代金及寄附金等不時ノ收入ハ勉メテ之ヲ蓄積シ以テ基本財産ヲ作り團ノ基礎ヲシテ鞏固ナラシムルコトニ努ムヘシ

●學第二〇一號

今般縣令第六十號ヲ以學齡兒童ノ就學及家庭教育ニ關スル規則改正相成候ニ就テハ二十八年訓令甲第十號ハ自然消滅ニ歸シタル旨其筋ヨリ通牒有之候就テハ爾後相當ノ手續ヲ經スシテ兒童ヲ出席セシメサルモノモ有之ヘクニ付該規則第八條ニ依リ一層嚴重ニ其出席ヲ督促シ若シ就學ノ免除又ハ猶豫ヲ要スヘキモノアルキハ洩ナク其手續ヲ爲サシムル様御取斗相成度爲念此段御通牒及ヒ置候也

明治二十九年十二月二十八日

町村長 宛

學務係

●學第三三四號

從來教員異動ノ際通知ニ及ヒ候處自今別段通知不致候條本縣公報ニ依リ御承知有之度此段及御照會候

也

明治三十年十二月二十八日

町村役場宛

第二課

●學第一二五號

今回本縣市町村立小學校教員ニシテ自己ノ都合(病氣ヲモ含ム)ニ依リ退職ヲ命セラレ又ハ解職セラレタルモノハ其發令ノ月ヨリ六箇月間ハ再ヒ縣内ニ於テ他ノ小學校ニ任用セラレス又疾病ニ依リ休職ヲ命セラレタルモノモ亦同シキ旨其筋ニ於テ決定相成候條御所轄内各小學校教員ニシテ心得違ノモノナキ様御懇示相成度郡長ノ指揮ニヨリ此段及通牒候也

明治三十一年四月二十八日

町村長 宛

第二課長

●學第一三七號

町村立小學校ニ對スル訓令及照會等ハ自今貴役場へ發送ノ分ト共ニ及御回致候條乍御手数數其都度右小學校へ夫々御回付方可然御取計相成度此段豫テ及御照會置候也

明治三十一年五月十二日

町村役場宛

第二課

●學第二〇二號

自今明治三十三年法律第九十號及全二十五年文部省令第二號ニ依リ小學校教員退職料及遺族扶助料等請求ノ際ハ明治二十年四月以前ニ係ル任免辭令書悉皆添付セシメラレ候様致度命ニ依リ此旨豫メ及通牒候也

明治三十一年六月二十四日

第二課長

町村長宛

●學第二九五號

從來諸表ノ進達ニ際シ都テ添書相成向モ有之候處右ハ無用ノ手數ヲ要スル儀ニ付添書必要ナキモノハ本表ノ餘白ヘ年月日校名又ハ校長ノ名ヲ記シ押印ノ上御進達相成可然命ニ依リ此段申進候也

明治三十一年八月二十三日

學校長宛

●學第五〇三號

小學校ニ備フヘキ卒業證書原簿教員名簿校具臺帳ハ別紙様式及記入心得ニヨリ御調製之様致シ度此段申進候也

明治三十一年十月十三日

小學校長(首席教員)宛

卒業證書等原簿

一 證書原簿ニハ兒童ノ氏名生年月日族籍字名番號學年名卒業ノ部ニアリテハ修業年限授與年月日及校長(首席教員)氏名ヲ記入スヘシ

一 證書原簿ハ卒業修業証明ノ三部ニ分ツヘシ  
但補習科ハ別冊トス

一 番號ハ各部ニ分テ毎年通番ヲ用フルモノトス

但同學年ノ兒童ヲ以テ一學級ニ編制シタル學校ニシテ從來學年別ニ番號ヲ附シタルモノ或ハ年番號ヲ用ヒタルモノニアリテハ其儘費用スルモ妨ナシ

一 證書番號ハ學校ノ資格校名ノ改稱ト共ニ改ムルモノトス

一 證書原簿ノ様式左ノ如シ(用紙)中折十二系紙

卒業(修業証明)ノ部

明治何年何月何日授與

校長何誰印

番號	修業年限 (學年名)	字	名	族	籍	氏	名	生	年	月
何	何ケ年 (第何學年)	何	々	平 (士族)	民	何	誰	明	治	何年何月

(注意) 數學年ヲ以テ一學級ニ編制シタル學級ノ修業ニアリテハ其學年名ヲ並記スヘシ

教員名簿

一 教員名簿ハ中折紙八ツ切ニ認メ厚紙ノ帳冊(二葉型)ニ貼附スヘシ

一 教員名簿ニハ職名氏名生年月日本籍地身分任命年月日俸給額ヲ記シ資格ノ變更増俸轉任休職退職死亡ハ其都度記入スヘシ

一 名簿ヲ分テテ現在既往ノ二部トシ轉任退職死亡ノモノハ既往ノ部ニ移貼スヘシ但休職ノモノハ朱書トシテ現在ノ部ニ存スルモノトス

一 名簿ノ様式左ノ如シ

何府縣何郡(市)何町(村)何番地

士族(平民)何誰長男(女)(妻)

何 誰

何年何月何日生

一 明治何年何月何日任命何級俸月額給與

一 何々小學校訓導(准訓導)  
但何科勤務

- 一 明治何年何月何日何級俸月何額給與
  - 一 明治何年何月何日何校へ轉任(休職退職)
- 校具臺帳
- 一 校具臺帳ハ教授用器具標品理科器械雜具及圖書各教科別ノ數部ニ區分スヘシ
  - 一 校具中破損紛失等アルハ其旨備考欄内ニ記入シ校長認印スヘシ但毎年一回以上現品ト照合調査セシコトヲ要ス
  - 一 校具臺帳ノ様式左ノ如シ(用紙美濃紙十二系)

器具ノ部

品名	箇數	新調年月	代價	備考

圖書ノ部

圖書名	著者部	數冊	新調年月	代價	備考

●學第九八五號

小學校用圖書器械器具消耗品ハ學校長ノ請求ニヨリ町村長ニ於テ購入ノ上交付スヘキハ勿論ニ候ヘトモ土地不使ノ箇所ニアリテハ其購入方ヲ校長ヘ委托スルコトニ協定シ左記ノ手續ニ依リ嚴密ニ御取扱有之度依命此段及照會候也

明治三十二年九月十五日

第二課長

町村(組合)長  
小學校長(首席訓導)宛  
何々小學校校具消耗品購入承認簿

月日	町村長認印	物品名稱	數	量價	格事	由	校認印

購入手續

- 一 學校ニ於テ物品ノ購入ヲ要スルトキハ品名數量價格事由ヲ承認簿ニ記入シ校長認印ノ上町村長ノ承認ヲ受クヘシ
  - 一 町村長ノ承認ヲ受ケタルキハ直ニ之ヲ購入シ校長ノ物品領收証ト購入先ノ代金請求書トヲ町村長ニ廻付スヘシ
  - 一 町村長ニ於テ前項ノ請求書ヲ受附ケタルキハ二週間以内ニ代金ノ支拂方ヲ校長ニ委托シ仮領收証ヲ受取リ置クヘシ
  - 一 校長ニ於テハ金員受托ヨリ一週間以内ニ之ヲ支拂ヒ正當領收証ヲ徴シテ仮領收証ト引換フヘシ
  - 一 承認簿ノ最初ニ校費豫算決議額ヲ詳記シ置クヘシ
- 學第一〇六七號
- 小學校校舍校地校具體操場農業練習場ヲ小學校ノ目的ニ關セサル事件ノ爲使用スルノ許可ヲ受ケント

セラル、トキハ其差支ノ有無ニ關シ豫メ小學校長(首席教員)ニ協議シ其旨書面中ニ明記相成度依命此段及通牒候也

明治三十二年九月二十六日

第二課長

町村組合長宛

●學第一〇六九號

小學校ニ於テ臨時三日以内ノ休業ヲ施行スルハ明治三十一年縣令第九十九號小學校規則第八條第二項ニ依リ郡長ヘ開申可相成儀ニ有之候處教員乙研究會ヘ一同出席スルカ爲自然休業ノ場合ニ限リ昨年八月學第二八八號通牒ノ通り特ニ開申ヲ畧スルモ差支無之候間此段及通牒候也

明治三十二年九月二十六日

第二課長

町村長(組合長)宛  
小學校長(首席教員)宛

●學第八二四號

實業學校敷地建物ニ關シ明治三十二年文部省令第十二號實業學校設置廢止規則第一條ニ依リ稟申ノ際添付スヘキ圖面ハ左記要項ニ依リ調製相成度其筋ヨリ申越候間此段及通牒候也

明治三十三年五月二十五日

第二課長

町村長宛

要項

一 平面圖甲乙二種トシ方位ヲ記スヘシ  
甲圖(縮尺二百分ノ一)ニハ校地建物ヲ記シ校地ハ土地ノ高低、水道放水栓若クハ井ノ位置等ヲ見得

ヘク建物ハ各室ノ使用目的窓入口ノ位置ニ階建ハ階段ノ位置階段席ヲ設クル教室ハ其階段ノ位置便所ノ數等ヲ見得ヘキモノタルヘシ乙圖(縮尺六百分ノ一)ハ少クトモ校地二町以内ノ土地ノ市街ヘ村落川河、丘陵森林田畑等ノ區別并官衙、學校、病院等著大ノ造營物ノ所在ヲ見得ヘキモノタルヘシ  
一 断面圖(縮尺二十分ノ一)断面圖ハ建物ノ木組講堂教室及寄宿舎ノ床ノ高サ窓ノ高サ特別教室ノ階段ノ高サ等ヲ見得ヘキモノタルヘシ  
一 平面圖ニ記載スヘキ地質ハ高燥、卑濕、埋地、砂地岩石地等區別ヲ爲シ且ツ飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

●學第一九〇四號

小學校令施行規則第二百二十六條第一號及第二號前段ノ事由ニ依リ小學校教員退職出願セントスル場合ニ於ケル醫士診斷書ハ自今左記書式ニ依リ調製添付可相成儀ニ付右御了知ノ上各教員ヘ御通達置キ相成度依命此段及通牒候也

明治三十三年十一月二十六日

第二課長

小學校長宛

書式

診斷書

何縣何郡何市何町村番地

戶主何男何女何某妻

族籍

職名

何某

年齡 何年何ヶ月

宗 既 現 診 治 理  
 族 往 症 歷 歷  
 年 月 日  
 由 法 斷 症 歷 歷

●學第六三四號

明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程第五條第六號及同第七號ノ事項ハ別記ノ方法並ニ標準ニ依リ檢查致スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條此段及通牒候也

明治三十四年四月八日

小學校長又ハ首席教員宛

記

第二課長

開學校醫 何 某印

一脊柱ニ於ケル左右ノ彎曲ハ背面ヨリ屈曲ハ側面ヨリ檢查スヘシ  
 左彎右彎及後屈ノ名稱ハ胸椎部位凸側ノ方向ニヨリテ定ムヘシ  
 一體格ニ於ケル強健、中等、薄弱ハ概テ左ノ標準ニ依ルヘシ  
 強健ハ發育營養共ニ佳良ニシテ強壯ナルモノ中等ハ少クモ發育營養中等ニシテ持久性ノ疾患ナキモノ薄弱ハ前二項ニ該當セサル者  
 學生生徒身體ノ中等發育ハ別表ノ如シ

學生生徒中等發育表

年 齡	男			女		
	體 重 kg	身 長 cm	胸 圍 cm	體 重 kg	身 長 cm	胸 圍 cm
6-7	17.8	108.0	54.1	17.2	107.0	53.0
7-8	19.1	114.0	55.5	18.7	112.0	54.0
8-9	21.0	118.0	57.2	20.5	119.0	56.1
9-10	23.0	123.0	59.2	22.3	120.0	58.0
10-11	25.0	127.0	61.4	24.4	126.0	60.2
11-12	27.2	131.0	63.1	27.8	132.0	62.5
12-13	29.8	135.0	64.9	31.4	139.0	65.0
13-14	33.6	142.0	66.9	36.5	143.0	67.7
14-15	38.7	146.0	69.1	38.2	145.0	71.9
15-16	43.7	154.0	75.6	41.2	148.0	73.1
16-17	47.9	156.0	77.5	43.6	147.0	74.7
17-18	50.8	159.0	78.6	45.4	148.0	76.5
18-19	52.0	160.0	79.2	46.4	149.0	79.8
19-20	53.0	159.0	80.0	47.7	148.0	80.1
20-21	54.4	161.0	80.4	48.1	149.0	80.1
21-22	53.6	161.0	82.7	47.5	149.0	80.6
22-23	53.1	160.0	83.7	47.6	149.0	81.0
23-24	52.9	161.0	80.7	47.8	148.0	78.4
24-25	52.3	161.0	80.2	47.2	146.0	78.1
25-30	52.2	161.0	80.2	—	—	—
30-35	51.5	161.0	80.3	—	—	—

●學第七三〇號

小學校令施行規則第八十九條ノ第十號表中身體ノ狀況ノ欄ヘ記入方ニ關シ其ノ筋ヨリ左記ノ通牒有之候條爲御心得此段及移牒候也

明治三十四年四月十六日

第二課長

小學校長宛

記

一 小學校令施行規則第八十九條ノ第十號表ニ規定通ノ欄數ナルトキハ明治三十三年文部省令第四號ニ依リ檢査シタル四月ノ成績ヲ記入スルモノトス但シ縱線ヲ施シ欄數ヲ増シタルトキハ必スシモ本文四月ノ成績ノミニ限ラス十月又ハ臨時ノモノヲ記入スルモ妨ケナシ

一 前項第十號表中「身体ノ狀況」ノ欄胸圍ノ部ニ於ケル「盈虛ノ差」ノ欄ハ必スシモ記入スルヲ要セス但シ明治三十三年文部省令第四號第五條第二項ニ依リ必要ト認メ其ノ檢査ヲ行ヒタルトキハ記入スヘキモノトス

●學第八五四號

明治三十三年法律第六十三號市町村立小學校教育費國庫補助法第六條ニ依リ加俸ニ相當スル金額支給方ニ付自今左記各項ノ者ニ對シテハ同一學校勤務者トシテ取扱ヘキ旨其筋ヨリ申越候ニ付爲御心得此段及通牒候也

明治三十四年五月二日

第二課長

町村長組合長宛  
小學校長宛

一 學校ノ分合アリタル場合ニ於テ其學校ニ引續キ勤務スル者

二 分教場ヲ獨立校トナシ若クハ獨立校ヲ分校トナシタル場合ニ於テ其學校ニ引續キ勤務スルモノ

●學第九四六號

新ニ町村立尋常小學校ノ位置指定ヲ受ケ又ハ高等小學校ノ校地ヲ選定シタルトキハ當該町村ニ於テ土地ヲ買收シテ學校地トナスヘキモノニ有之直ニ買收スルコト能ハサル事情アルトキハ規定ニヨリ猶豫

ノ期限ヲ定メ部長ノ認可ヲ受ケヘキ筋ニ有之候旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候間爲念此段及通牒候也

明治三十四年五月二十一日

第二課長

町村長宛  
學校組合長宛

追テ現設小學校ノ校地ニシテ本文ノ手續ヲ了セサル向ハ此際相當手續ヲ盡サレ度此段申添候也

●學第一一三八號

小學校教員ヨリ官廳ニ差出スヘキ書面ハ小學校令等實施細則第八十四條ニヨリ管理者ヲ經由スルノミナラス尙小學校令施行規則第三十四條ノ旨趣ニヨリ當然校長ヲモ經由スヘキ儀ニ有之候間其場合ニ於テハ校長職印ヲ押捺相成度爲念此段及通牒候也

明治三十四年六月十三日

第二課長

小學校長宛

●學第一一三九號

近來小學校ニ於テ規定休業日ノ外臨時儀式ヲ行フノ當日休業候向往々有之様見受候モ右ハ然ル可ラサル儀ニ付爾今御注意相成様致度依命此段及通牒候也

明治三十四年六月十三日

第二課長

小學校長宛

●學第一一八四號

小學校兒童中白癩病ニ罹レルモノ數多有之候處右ハ最モ怖ルヘキ傳染性皮膚病ナルヲ以テ可成急速ニ絶滅ヲ計ルハ學校衛生上緊要ノ事ト認メ候條學校長管理者協議ノ上學校ニ於テ左記ノ方法ヲ施行シ他ヘ傳染セシメサル様御注意相成度依命此段及通牒候也

明治三十四年六月二十一日

町村長宛

第二課長

追テ本文施行ノ際ハ可成學校醫協力相成度尙一ヶ月經過ノ上治療人員其成績等詳細報告相成度候也  
白癬病治療方法

第一法

加里石鹼 五〇、〇

毎日一回微温湯ヲ以テ患部ヲ洗滌シ後之ヲ塗擦ス

又

イヒチオール 五、〇

撒酸 三、〇

グリスリン 五〇、〇

酒精 五〇、〇

用法同前

第二法 前法ヲ行フコト能ハサルトキハ左ノ方法ヲ撰用スヘシ

石炭酸 五、〇

グリスリン 五〇、〇

酒精 五〇、〇

此液中ニ布片ヲ浸シ癬皮ヲ除去シタル後ニ貼布ス

又 昇汞 〇、一

酒精

右洗滌藥ハ捲法藥トシテ用ユ

一〇〇、〇

以上

但第一法ノ一若クハニヲ用ユル方最良トス

●學第一一九〇號

小學校兒童用机及腰掛ノ改善ハ目下ノ急務ニシテ之ヲ新調スヘキモノ多ク有之ヘクト存候就テハ新調及改修ノ向ハ小學校令及同施行規則實施ニ關スル細則第四號表ノ寸法ニ依ルヘキハ勿論其構造方ニ關シテモ十分調査ヲ遂ケ教授上及管理上ニ於テ都合ナカラシムヘク殊ニ兒童衛生上ニ關シテ缺点ナキ模範ク注意相成度其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條依命此段及通牒候也

明治三十四年六月二十日

第二課長

町學校長宛

追テ腰掛ノ倚靠ハ兒童ノ姿勢ヲ矯正スルニ最モ必要ノモノニ候故新調ノ際ハ必ス之ヲ附設候様特ニ御注意相成度此段申添候也

●學第二一九七號

豫備後備將校并ニ在郷下士等ニシテ官公立學校教員ノ職ニ在ル者其職務ニ從事スル際制服着用ニ關シ別紙甲號ノ通陸軍省へ及照會候處乙號ノ通回答有之候趣其筋ヨリ通牒有之候條爲參考此段及通牒候也

明治三十四年十二月二十七日

第二課長

町學校長宛

記

甲號(照會)

本年九月十三日貴省訓令乙第二號ヲ以テ豫備後備將校ノ制服着用ニ關スル件ニ付別記ノ如ク訓令相成候趣ニ有之候處右ハ豫備後備將校タル者ニシテ官公立學校教員ノ職ニ在リテ其職務ニ從事スル際制服ヲ着用スルハ生徒ノ訓練上及教員ノ威嚴ヲ保ツ上ニ於テ頗ル必要ニ有之殊ニ体操科教授ニ於テ最モ必要ヲ認メ候是等場合ニ於テハ制服ヲ着用スルモ差支無之趣旨トハ被存候得共一應御省議承知致度此段及照會候也

追テ在郷下士等ニシテ官公立學校教員ノ職ニ在ル者モ其職務ニ從事スル際ハ本文同様必要ヲ認メ候處本年九月貴省訓令甲第二號ノ次第モ有之候得共是又右職務ニ從事スル際ハ制服ヲ着用スルモ差支無之儀ニ候哉併テ承知致度候

(三十四年陸軍省訓令ハ略之)

乙號(回答)

豫備後備ニシテ官公立學校教員ノ職ニ在ル者其職務ニ從事スル際制服着用云々ノ儀普通丙一二四號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ差支無之候此段及回答候也

追テ在郷下士等ニシテ官公立學校教員ノ職ニ在ル者モ其職務ニ從事スル際ハ制服着用差支無之候也

●學第二九二號

明治二十七年石川縣令第五十六號ヲ以テ尋常小學校習字科用圖書採定相成居候得トモ右ハ教授上十分ノ注意ヲナシ小學校令施行規則第三條ノ趣旨ヲ誤ラサルニ於テハ兒童ヲシテ右習字帖ヲ所持セシメサルモ差支無之候旨其筋ヨリ申來リ候間此段及通牒候也

明治三十五年三月十八日

第二課長

小學校長宛

但高等小學校ヲ除ク

●學第三三九號

學齡兒童ニシテ其居所分明ナラサルモノト雖モ其一ケ年ヲ經過セサルモノニアリテハ學齡簿ニ登錄スルハ勿論學事年報申號表學齡兒童數ニ計入シ且又其兒童ニシテ既ニ就學ノ始期ニ達シ就學セサルモノ及尋常小學校ノ教科ヲ卒ラズシテ年度内全ク出席セサルモノハ之ヲ不就學ノ部猶豫ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲載スベキ義ニ付自今此趣旨ニヨリ取扱フヘキ旨其筋ヨリ申來リ候間爲御承知此段及通牒候也

明治三十五年三月二十二日

第二課長

町村長宛

追テ學齡兒童ニシテ他府縣又ハ他町村へ單身出寄留ノモノニシテ正當手續ヲ了セサルモノハ無論學齡簿ヨリ除却スベカラサル儀ニ有之候間爲念此旨申添候也

●學第八三二號

小學校舎建築ノ際擅ニ其設計ヲ變更シ或ハ其材料ヲ不良ニシ其構造ヲ粗惡ナラシムル向モ有之ヤニ相聞コヘ甚タ不都合ノ儀ニ付校舎建築ノ際ハ可成技術ニ精通セル工事監督員ヲ設ケ右等ノ不都合無之様注意セシムヘキ旨其筋ヨリ申來リ候間深ク御注意相成度依命此段及通牒候也

明治三十五年五月二十日

第二課長

町村長宛  
學校組合長宛

追テ舊來ノ校舎ニ對シ模様替等ヲ爲ス場合ニ於テモ恣ニ工事ヲ行ハス必ス當廳ノ指揮ヲ受ケラレ度



段申添候也

●學第一二〇二號

近來各地ニ於テ學校校舍不時ノ破損倒壞ヲ來シ爲メニ死傷者ヲ生スル向モ往々有之候ニ付自今校舍建築ニ際シテハ相當技術者ヲシテ嚴重工事ヲ監督セシムヘキハ勿論舊來ノ校舍ニ對シテモ技術者ヲシテ精細ニ檢閲セシメ危險ノ虞アルモノハ速ニ防險ノ手當ヲ施シ場合ニヨリテハ收容人員ヲ制限シ仮校舍ヲ設クル等夫々相當ノ處置ヲ爲シ又非常變災ニ處スヘキ豫防及避難ノ方法ニ關シテモ御注意置キ相成度其筋ノ注意モ有之候ニ付依命此段及通牒候也

明治三十五年七月十七日

町村長宛

第二課長

●學第一二〇三號

校舍使用上ニ關シ豫テ通牒置キ候次第モ有之候處近來各地ニ於テ校舍不時ノ破損倒壞ヲ來タシ爲メニ死傷者ヲ生スル向往々有之候ニ付常ニ校舍ノ状態ニ注意シ其危險ノ虞アルモノニ對シテハ管理者ト協議ノ上速ニ防險ノ手當ヲ施シ場合ニヨリテハ收容人員ヲ制限スル等相當ノ處置ヲ爲シ又非常變災ニ處スヘキ豫防及避難ノ方法ニ關シテモ御注意置キ相成度其筋ノ注意モ有之候ニ付依命此段及通牒候也

明治三十五年七月十七日

小學校長宛

第二課長

追テ若シ不時ノ災難ヲ生シ候節ハ主トシテ貴職ノ責任ニ歸スヘキニ付本文處置方ニ關シ管理者交涉スルモ實行ヲ果サ、ルカ如キコトアラバ其旨郡長ヘ具申相成度此旨申添候也

●學第一二〇八號

學校休業日職員服務及修學旅行等ニ關シ其筋ヨリ訓示ノ次第モ有之候ニ付左記ノ件々御注意相成度依

命此段及通牒候也

一 學校ノ休業日ハ通常ノ教授ヲ爲サ、ル日ニシテ換言スレハ休業日ノ外ハ必ス教授ヲ爲スヘキ定日ナリトス故ニ成績考査其他職務上取調ヲ要スルカ如キ事務ハ教授時間外及休業日ニ於テスヘキコト  
一 學校職員ニシテ他地方ノ學事ヲ視察スルハ妨ケナキモ長ク其任務ヲ離レ生徒ノ教授ヲ缺カサルヤク注意スヘキコト

一 修學旅行等ニ際シテハ成ルヘク宿泊ヲ要セシメサルコト

一 修學旅行又ハ練習會ニシテ全日ノ教授ヲ缺クモノハ各一ヶ年二回ヲ超エサルコト

一 前項ノ外練習會遠足又ハ始業式修業式等ノ爲メ成ルヘク通常ノ教授ヲ缺カサルコト

明治三十五年七月十八日

第二課長

小學校長宛

●學第一二一八號

今般本郡訓令第十二號ヲ以テ學校風紀取締ニ關シ訓令相成候ニ付テハ爾今校長ニ於テ部下教員ノ監督ヲ周密ニシ苟モ風紀ニ關スル行爲アルキハ懇切注意ヲ與ヘ尙情狀ニヨリテハ郡長ヘ内申ヲ怠ラサル様致シ度依命此段及通牒候也

明治三十五年七月二十二日

第二課長

小學校長宛

●學第一二七四號

本年七月學第一二一八號ヲ以テ學校風紀取締ニ關シ部下教員監督方及通牒置候處尙左記事項ニ御注意相成度依命此段及通牒候也

一、女教員ニシテ單身任地ニ在ル者ハ成ルヘク家風ノ嚴肅ナル宿所ヲ選ヒテ寄寓スルコト

一、夫婦ニアラサル男女教員ハ同一校舎内ニ宿泊セサルコト  
明治三十五年八月五日

第二課長

小學校長宛

●學第一二九五號

小學校ニシテ宿直スヘキ設備アルキハ男教員交替宿直スベキ儀ニ有之候間嚴格ニ御實行相成度若シ男  
教員一人ノ學校等ニテ臨時差支ヲ生シ候場合ニ於テハ便宜代直者ヲ設ケラレ度爲念此段及通牒候也  
明治三十五年八月八日

第二課長

小學校宛

●學第一四六七號

爾今小學校校舎建築稟請ノ際ハ其建築費支出ニ關スル事項左記要項ニ依リ便宜附記スヘキ旨其筋ヨリ  
通牒有之候間御承知相成度此段及通牒候也  
明治三十五年九月十二日

第二課長

町村長宛  
組合長宛

記

一寄附金	何	程
一積立金	何	程
一町村稅	何	程
一町村債	何	程
起債及償還方法詳記ヲ要ス		

其他必要事項

●學第一八四七號

小學校兒童缺席者處分方ニ關シテハ夫々規定有之候處尙一ケ月中出席七日ニ達セサル兒童ニ對シテハ  
爾後昨年(一月)本郡訓令第一號兒童就學ニ關スル取扱手續ニ準シ出席督促相成度依命此段及照會候也  
明治三十五年十一月六日

第二課長

小學校長宛  
町村長宛

●學第一九五一號

爾今調査上必要有之候ニ付明治三十二年四月本郡訓令第十四號ニ依リ報告可相成月報中學齡兒童數ニ  
對スル修學百分比何十何人何分何厘(以下四捨五入)迄算出記入相成度此段及通牒候也  
明治三十五年十一月二十一日

第二課長

小學校長宛

●學第七二號

小學校ニ於テ開校式學校紀念式兒童入學式學年末証書授與式等ヲ舉行シ其日ニ於テ教授ヲ爲サ、ルキ  
ハ之ヲ教授日數ニ加算セサル儀ニ有之候旨其筋ヨリ通牒有之候間右御了知相成度此段及通牒候也  
明治三十六年一月十六日

第二課長

小學校長宛

追テ本文ニ該當スル場合ニ於テハ臨時休業ノ手續ヲ要スル様ト御了知相成度爲念此段申添候也  
●學第二四九號

小學校校數又ハ位置ノ變更ヲ指定セラレタル場合校舎ノ建築又ハ非常變災等ニ際シ一時民家其他ノ建

物ヲ校舍ニ仮用セントスルハ町村會ノ決議ヲ經明治二十四年本縣令第十四號小學校令及同令施行規則實施ニ關スル細則第三十五條各號ノ事項ヲ具シテ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ儀ニ有之候處往々其手續ヲ怠リ或ハ認可稟請ニ際シ書類ノ具備セサル向有之整理上差支不勘候ニ付爾今御注意相成度爲念此段及通牒候也

明治三十六年二月二十一日  
町村長宛  
組合長宛

第二課長

●學第二〇三五號

小學校ノ校舍校地等ノ使用ニ關シテハ小學校令第三十條ノ規定有之候處公衆體育ノ爲メ体操場ヲ公開シ又ハ公ノ集會ニ校舍ヲ使用スル等ノ場合ニ於テ教育上障害ヲ來スノ虞ナキ場合ニハ相當取締ノ下ニ便宜認可ヲ與フル方針ヲ執リ又小學校以外ノ學校ニ就キテモ教育上障害ナキ限リハ便宜公衆ノ利用ニ供シ可然旨文部大臣ノ命ニ依リ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候ニ就テハ右趣旨ニ基キ体操場ヲ公開セントスルトキハ管理者學校長ニ於テ其取締ノ方法ヲ協定シ豫メ郡長ノ認可ヲ受ケラレ度其他校舍等ノ使用ニ就キテハ其事實ノ如何ニ依リ許可可相成候間右御了知置相成度依命此段及通牒候也

明治三十六年十一月二十一日  
町村長宛  
學校長宛

第二課長

●學第一九二號

高等學校大學豫科生徒ニシテ三十六年文部省令第二十九號ノ規定ニ依リ當該高等學校長ヨリ在學證明書ヲ受ケタル者他日該校ヲ卒業シ直ニ帝國大學へ進入スル場合ニハ當該高等學校長ヨリ市町村長ニ除

籍ノ通知ヲ爲サス帝國大學ニ於テ卒業若ハ退學等ノ際何高等學校ヨリ在學證明書ノ交付ヲ受ケタル者ナル旨ヲ附記シ當該大學ヨリ直ニ市町村長ニ除籍ノ通知ヲ爲スヘキコトニ決定相成候旨其筋ヨリ通牒ノ次第有之候條右御了知置相成度依命此段及通牒候也

明治三十七年二月十二日  
町村長宛

第二課長

●學第二〇一號

明治三十四年文部省訓令第一號學事年報取調條項及諸表様式ハ其後法令ノ發布等ニ伴ヒ改正ヲ要スヘキ事項多々アルモ屢次様式ヲ變更スルトキハ調査事項ノ正確ヲ期スル上ニ於テ支障ヲ來スノ虞有之候ニ付姑ク之レカ改正ヲ見合シ三十六年度學事年報ヨリ別記ノ方法ニ依リ調製スヘク旨其筋ヨリ通牒ノ次第有之候條自今右ニ依リ調製申報相成度命ニ依リ此段及通牒候也

明治三十七年二月十三日  
町村長宛  
學校組合長宛

第二課長

別記

一甲號表一

學齡兒童ノ部

學齡兒童ハ本籍ト寄留等ヲ問ハス現住人中年度末ニ於テ年齡六歳一日ヨリ滿十四歳マテノ兒童ノ數ヲ掲クヘシ但年齡ハ曆ニ依リ日ヲ以テ計算スヘシ例セハ明治三十六年度末調査ニ於テハ明治二十三年四月一日生ヨリ同三十一年三月三十一日生マテノ現員ヲ掲クルモノトス既ニ就學ノ始期ニ達シタル者ハ學齡兒童中其年度内四月一日ニ於テ六歳一日以上ノ兒童ノ數ヲ掲クヘシ例セハ明治三十六年

度末調査ニ於テハ明治二十三年四月一日生ヨリ同三十年四月一日生マテノ現員ヲ掲クルモノトス不  
就學者中瘋癲、白痴、不具癆疾、病弱及發育不完全ノ者ハ疾病ノ欄ニ掲クヘシ  
小學校令第十二條ニ依リ義務免除ヲ受ケタル町村ニ居住スル兒童ニシテ不就學者ハ免除ノ部其他  
ノ欄ニ掲クヘシ

未タ就學ノ始期ニ達セサル者ハ學齡兒童中其年度内四月一日ニ於テ未タ六歳一日ニ達セサリシ者ノ  
現員ヲ掲クヘシ例セハ明治三十六年度末調査ニ於テハ明治三十年四月二日生ヨリ同三十一年三月三  
十一日生マテノ現員ヲ掲クルモノトス

一 甲號表二

就學歩合ノ計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

實業學校ノ部

工業農業商業商船學校ノ欄ニハ實業專門學校ニ係ルモノヲ適宜ノ符號ヲ附シ區別シテ掲載スヘシ

一 乙號表一ハ別表様式ノ通り調製スヘシ

一 丁號表一ハ公學費表ハ収支ノ部トモ臨時費ニ係ルモノハ朱書ヲ以テ經常費ト區別シテ記入シ同二公學

資産表學校基本財産ノ部ニハ其基本財産中前種別ノモノト重複スルモノハ適宜ノ符號ヲ附シテ區別

シ記入スヘシ  
一 丁號表一、二表中實業學校ノ部上段ニ實業專門學校ノ一欄ヲ加ヘ表中種別ノ部ニ列記セル金額等ヲ  
記載スヘシ

明治 年度 管内學事年報乙號表

一 學級別市町村立私立小學校及學年別兒童表

種別	單級		二學級		三學級		何學級		合計	
	市立	町立	市立	町立	市立	町立	市立	町立	市立	町立
	私立	合計	私立	合計	私立	合計	私立	合計	私立	合計
尋常小學校	學年第一		學年第二		學年第三		學年第四		合計	
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童
	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童	兒童

備考

本表ハ年度内三月一日ノ現在ニ依リ掲クヘシ  
尋常高等小學校ハ全校ノ學級數並兒童數ニ依リ掲クヘシ之ヲ尋常高等ニ別テ尋常小學校高等小  
學校ノ部ニモ朱書ヲ以テ掲クヘシ例セハ尋常科三學級高等科二學級ノ學校アルトキハ五學級ノ  
部尋常高等小學校ノ欄ニ記入シ更ニ三學級ノ部尋常小學校ノ欄及二學級ノ部高等小學校ノ欄ニ  
記入スルカ如シ  
本表ハ本校ニ係ルモノト分敷場ニ係ルモノヲ別チ各別表ニ調製スルモノトス  
補習科ノ學級數ハ計入スヘカラス但シ補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルモノ

ハ之レヲ計入シ適宜ノ符號ヲ以テ學校、兒童トモ區別(兒童ハ其補習科ニ係ルモノ、ミ)ヲ掲ク  
ヘシ

●學第二〇六號

小學校ニ於ケル教授中其記載方ノ適當ナラサルモノ往々有之候ニ付今般小學校教員諮詢會ノ意見ヲ開  
キ別紙修身、國語、算術、教授記載例及廻致候間爾今右ニ準據シ御記載ノ様致シ度此段及通牒候也  
明治三十七年二月十五日

小學校長宛

第二課長

教授記載例

左ノ記載例ハ單一例ヲ示シタルニ過キサレハ教材ノ種類教授ノ方法ニヨリ適當ニ斟酌センコトヲ要  
ス

○修身科

簿冊ナシタルモノハ表紙ニ學年名ヲ記シ片紙トナシタルモノハ  
第何期 第何週 第何回 (時) 何月 何日 何曜日 何曜日

題目 德目及例話題ヲ記ス

教目的 總目的及部分目的ヲ記ス

教材 用書ノ丁數等ヲ記ス

一、發端 第一次ノ教授ニ於テハ目的ノ前告ニ連絡アル發問ナトヲ記載ス  
第二次以下ノ教授ニアリテハ主トシテ前次教授ノ復問等ヲ記シテ目的前告ノ豫備  
トス

二、目的ノ前告 部分若クハ全部の前告

三、教授 說話教訓發問ノ三要項ハ教授ノ順序ニ隨ヒテ混交列記スルモノトス

一 說話要項

一 教訓要項

一 發問要項 (豫備的、練習的、應用的)

一 用書教授 (用書ノ教授ニ關シテ讀方教授ノ記載例ニ準ス)

四、應用 前項教授ノ際ニ應用ヲモ併セ課シタルトキハ本項ヲ省略ス

一 發問ノ要項

一 教訓ノ要項

一作法 (應用トシテ作法ヲ授クル場合)

用具 教授上必要ナル繪畫等ノ名ヲ記載ス

備考 教授上注意スヘキ事項及教授ノ經過ニ關スル要領等ヲ記ス

○國語科讀方

第何期 第何週 第何回 (時) 何月 何日 何曜日

題目

教材

教法

一、發端

二、目的ノ前告

教授 左ノ各目ハ教授ノ順序ニ隨ヒテ混交列記スルモノトス  
一、豫備 内容上ヨリ教授ニ入ル場合ニハ教授ノ豫備トナルヘキ事項ノ發問等形式上ヨリ教授  
ニ入ル場合ニハ摘字類

- 一、事實ノ要項
- 一、摘字
- 一、文字語法及仮字遣ヒノ比較 (應用トシ授クル適當トスル場合ニ於テハ應用ノ部ニ記スヘシ)
- 一、默讀講
- 一、試讀講
- 一、範讀講
- 一、練讀講
- 一、話シ方

- 應用
- 一、書取改作文等
  - 一、事實ノ復演等
  - 一、本月教授ノ總括

○國語科綴方 (復文的教授ノ場合)

- 第何期 第何週 第何回 (時) 何月 何日 何曜日
- 文題
- 目的
- 例題
- 法例

- 一、發端
- 二、目的指示
- 三、思想整理 思想ノ復起整頓ニ關スル發問要項等ヲ記ス
- 四、記述
- 五、批評添削
- 六、記帳
- 七、檢閱

備用具考

○算術科 (進歩的教授ノ場合)

- 第何期 第何週 第何回 (時) 何月 何日 何曜日
- 目的
- 教材
- 教授ノ程度及其他ノ目的ヲ記ス
- 問題及答式ヲ記ス

一、教授

- 一、豫備的發問及心算等
- 一、問題ノ解法運算ノ方法等
- 二、練習
- 一、問題及答式

用具

備考

○算術科 (練習の場合)

第何期 第何週 第何回 (時) 何月 何日 何曜日

目的 教材及教法 左記ノ第一項若クハ第三項ヲ畧シ又ハ第三項ヲ第一項ニ移スコトアルヘシ

一、豫備的暗算問題及答式

二、筆算問題及答式

三、練習的暗算問題及答式

用具

備考

●學第三四二號

小學校位置ノ變更増加等ヲ指定セラレ或ハ教科目加設廢止ノ許可ヲ受ケ學級編制ヲ變更シタル等凡テ學校ニ關係アル事件ニ異動ヲ生シタル場合ニ於テ學校ニ對シ之ガ通知ヲ怠レル爲メ往々不都合ヲ生シ候向有之候ニ付爾今遲滞ナク通知候様御注意相成度爲念此段及通牒候也

明治三十七年三月十六日

第二課長

町村長宛  
學校組合長宛

●學第六九〇號

徵兵事務條例第五十五條ニ依リ在學證明書ヲ交付セル中學校農學校又ハ工業學校生徒ニシテ本科ヲ卒業シ引續キ當該學校ノ補習科又ハ專攻科ヲ履修スル生徒ハ全ク當該學校生徒ノ學籍ヲ除去シタル次第

ニ無之譯ニツキ仮令本科ヲ卒業スルモ明治三十六年文部省令第三十九號第三條ノ手續ヲ要セサル儀ニ候趣其筋ヨリ通牒有之候ニ付爲御心得此段及通牒候也

明治三十七年四月二十二日

第二課長

●學第七三七號

小學校教員ニシテ任地外居住通勤ノ許可ヲ得候向有之候トモ其故ヲ以テ學校宿直ノ責務ヲ免カル、義ニハ無之候間爲念此段及通牒候也

明治三十七年四月二十五日

第二課長

小學校長宛

●學特第二四號

小學校職員ニシテ休業ノ前日修業時ヨリ休業ノ次日始業時ニ至ルマデ宿泊旅行ヲサントスルトキハ(仮ハ土曜日ノ終業時ヨリ旅行シ月曜日ノ始業時ニ歸校スルカ如キヲ云フ)從來單ニ届出ヲ以テ聞置相成候處右ハ明治三十四年本縣令第十四號第八十一條ヲ適用スル限リニ無之同條ハ二日以上連續休業ニ際シ其休業期間ニ於ケル宿泊旅行ノ手續ヲ規定セラレタルモノト御承知相成度爲念此段及通牒候也

明治三十七年五月十日

第二課長

小學校長宛

●學特第三五二號

小學校等ニ於テ催民術ヲ教授上ノ手段トシテ使用シ差支ノ有無照會ニ對シ主務省へ然ルヘカラサル旨回答相成タル趣通牒有之候旨其筋ヨリ申來リ候條御參考ノ爲メ及通牒候也

明治三十七年八月二十二日

第二課長

小學校長宛

●學特第四五九號

爾今官報ヲ以テ教育ニ關スル法令ノ設定又ハ改廢等ヲ發付セラレタルトキハ其都度所轄小學校へ廻覽若クハ御通報相成度依命此段及通牒候也

明治三十七年十月四日

第二課長

町村長宛  
學校組合長宛

●學特第一一八號

明治三十六年一月學第七二號ヲ以テ小學校ニ於テ儀式(三大節ヲ除ク)ヲ舉行スルカ爲メ其日ノ教授ヲ休止セントスルトキハ臨時休業ノ手續ヲ要スル旨及通牒候處尙儀式舉行ノ爲メ擅ニ教授ヲ休止シ或ハ早仕舞ヲ爲ス向モ有之哉ニ相聞ヘ右ハ甚タ不都合ノ儀ニ付爾今深ク御注意相成度依命爲念此段及通牒候也

明治三十八年二月九日

第二課長

各小學校長宛

●學特第一八四號

從來小學校卒業証書授與式舉行後賓客其他ノ者ニ對シ酒肴ノ禮應ヲ爲ス向間々有之候處今ヤ時局ノ進展ニ伴ヒ多額ノ經費ヲ要スルハ勿論戰後ノ經營トシテ夫々施設スヘキ事業モ可有之候條事ノ大小費用ノ多寡ニ拘ハラヌ徒費ハ總テ節約シ有益ノ費ニ充ツヘキハ刻下ノ急務ト被存候ニ付自今卒業証書授與式舉行ニ際シ右酒宴ヲ張ルカ如キコト無之様深ク御留意相成度爲念此段依命及照會候也

明治三十八年三月八日

第二課長

町村長宛  
小學校長宛

●學甲第二二八號

學校生徒ノ校外ニ於ケル取締方ニ關シ別紙寫ノ通り文部次官ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來候ニ付將來一層取締上注意ヲ加ヘラレ生徒品性陶冶上好果ヲ収メラレ候様致度依命此段及通牒候也

明治三十八年十二月十一日

第二科主任

小學校長宛

追テ學校外ニ於ケル生徒取締方ニ關シ既ニ施設相成候モノハ此際御報告相成度尙今後ノ施設ニ係ルモノハ其都度御報告相成候様致度此段申添候也

別紙

宮普第一二五號

學校生徒ノ校外ニ於ケル取締ノ教育上最重要ナルハ論ヲ俟タヌ近來漸ク是等ノ方法ニ關シ施設セルモノアルヲ見ルニ至レルハ喜フヘキ現象ト存候得共尙將來各地其情況ニヨリ適切ナル方法ヲ設ケ右取締ニ關シ一層注意ヲ加ヘラレ生徒品性ノ陶冶上効果ヲ収メラレ候様致度依命此段及通牒候也

明治三十八年十一月二十九日

文部次官法學博士 木場貞長

石川縣知事村上義雄殿

追テ學校外ニ於ケル生徒取締ニ關シ既ニ施設シタルモノ及今後ノ施設ニ係ルモノニシテ參考トナルヘキモノハ御報告相成度將又左記事項ノ如キモ右取締上御參考相成度此段申添候也

記

一 一般ノ學校ニ於テハ生徒居所校外ニ於ケル動靜ヲ明ニシ視察監督ヲ怠ラサルコト



二 一般學校生徒ニシテ寄宿舎ニ入ラサルモノハ家庭ヨリ通學スル者ヲ除ク外學校ニ於テ撰定シタル宿所ニ集メ觀察監督ニ便ナラシムルコト

三 舊藩士其他有志者ノ施設ニ係ル學資貸與事業ノ如キモノヲ擴張シテ寄宿舎ヲ設ケシメ又ハ教育會等ヲシテ學生保護事業ヲ施設スヘキ様勸誘スルコト(十一月二十九日官報宮城縣仙臺市教育會事項審議)

●學甲第二三四號

冬季積雪ヲ利用シ學校兒童及生徒ヲシテ適良ナル遊戯ヲ行ハシムルハ最モ必要ナルコトニシテ從來夫々御獎勵相成候事ト存候ヘトモ尙各學校ニ於テ十分雪中遊戯ノ方法ヲ研究實施相成度特ニ主務省ヨリ通牒有之候趣ヲ以テ右督勵方其筋ヨリ申越ノ次第モ有之候條依命此段及照會候也

明治三十八年十二月二十三日

小學校長宛

第二科主任

追テ別紙ハ北海道ニ於テ研究シ且既ニ實施シタル雪中遊戯方法ニ有之候趣ニ付爲參考及御回附候尙本件ニ關シ學校ニ於テ研究ノモノ有之候ハ、御報告相成度此段申添候也

(別紙略ス)

●學特第二七號

取調上必要有之候ニ付爾今每月末ニ於テ其月ノ缺席兒童(尋常科)ヲ調査シ出席日數教授日數ノ半ニ達セサル兒童ヲ左記様式ニ依リ毎翌月五日限リ御報告相成度依命此段及通牒候也

明治三十九年一月十三日

小學校長宛

第二科主任

出席不良兒童報告

何年何月末闕

四十二年二月  
十一日學特第  
一四三號ニテ  
様式改正

氏名	生年月日	缺席日數	氏名	生年月日	職業	住所	兒童缺席ノ事由

一教授日數  
右及報告候也

年月日

郡長宛

校長

●學特第一四七號

小學校月俸在籍并ニ出席兒童中學齡超過ノ者有之候ハ、其學年別該當欄内ニ内超齡何人ト朱書相成度依命此段及通牒候也

明治三十九年二月十九日

小學校長宛

第二科主任

追テ合計欄ニハ記入ヲ要セサルニ付其旨申添候也

●學甲第一九號

來ル四月一日ヨリ小學校教員兩種講習科開設相成候處該講習員ニ選出セラレタル學校ニ在リテハ自然教授上等ニ影響ヲ及スヘキ事情止ムヲ得サル次第ニ有之候ニ付テハ一時三部教授ノ方法ニ依ルカ又ハ代用教員ヲ採用スルカ若クハ他ノ同僚教員ヲシテ繰合セ教授セシムル等適宜ノ處置ヲ執リ支障ヲ來サシメサル様御配意相成度且此ノ場合ニ於テハ當該管理者ニ於テ豫メ其旨知事へ御報告相成度又單級小學校教員ノ講習ニ關シテハ八月一日ヨリ同三十一日ニ至ル一ヶ月間開設ノ見込ニ有之候趣ニ付該講

習員ニ選出セラレタル學校ニ在リテハ同期間ノ教授日ヲ便宜爾後ノ日曜日又ハ冬期休業日ニ繰替施行相成度其筋ヨリ申越ノ次第モ有之此段依命及通牒候也

明治三十九年二月十九日  
町村長宛

第二科主任

追テ本文講習員ニ選出セラレタル小學校教員ニ對シテハ小學校令及同令施行規則實施ニ關スル細則第九十三條ノ規定ニ依ラス俸給全額ヲ支給スヘキ儀ニ有之又ニ部教授及休業日繰替ノ件ニ就テハ規定ノ手續ニ依ラス便宜施行相成可然候條御了知相成度此旨申添候也

●學甲第四一號  
裁縫教授上雛尺使用廢止方ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ主務省ヨリ通牒有之タル旨其筋ヨリ申越候ニ付此段及通牒候也

明治三十九年三月十九日  
小學校長宛

第二科主任

別紙  
發普第六四號

近來小學校ヲ始メ其他ノ學校ニ於テ裁縫教授ノ際雛形ニヨリテ教授シ生徒ヲシテ雛尺又ハ雛形尺(七寸ナ全長トシ最少目盛ヲ其二百ノ一トシタルモノ)ト稱スル法律ノ認メサル特種ノ度量器ヲ使用セシムル者不少哉ニ被見受候處元來土地ノ情況ニ依リ實物ノ材料ヲ得カタキ場合又ハ實物教授ニ入ルハキ準備ノ爲等特別ノ必要アル場合ノ外ハ勉メテ實物ヲ用ヒテ教授シ其ノ技能ニ習熟セシムルコト必要ニ有之又假令雛形教授ヲ爲ス場合ニ於テモ雛形ヲ使用セシムルハ距離ノ觀念ヲ混亂セシムル虞有之候ニ付普通ノ法定度量器(曲尺若ハ鯨尺)ニ依リ便宜其二分ノ一等ニ換算シテ使用セシメ現ニ雛尺ヲ使用スル學校ニ在リテハ當該學校ノ本學年

度限リ斷然廢止致候様夫々御示達相成度依命此段及通牒候也

追テ主トシテ裁縫ヲ修ムル學校ニ在リテ教授上特ニ必要ト爲ヌ場合ニ於テハ必シモ本文ニ依ラサルモ妨ナキ儀ニ有之候尙農商務省ニ於テ度量器取締上不日雛形尺ノ發賣禁止相成候事ト存候得共教授ノ目的ノ爲メ法律ノ範圍内ニ於テ使用致候丈ハ勿論差支無之候條此段申添候也

明治三十九年三月十日

●學特第五〇號

從來小學校生徒樹栽地トシテ官有地拂下若クハ貸渡ノ際ハ男生徒ニ限リ官有地特別處分規則第一條第一項ニ據リ處理相成候處自今女生徒樹栽ノ場合モ同様該條項ヲ適用シ生徒一人ニ付三十坪以上五十坪以内ノ割合ヲ以テ許可可相成旨主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來候條豫メ御承知置相成度候也

明治三十九年四月二十六日

第二科主任

町村長宛  
小學校長宛

●學特第五三三號

國定算術教科書解答書及教授書類似ノ筆記帳等購入方取締ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ主務省ヨリ申越ノ次第有之候趣ニテ購入取締方其筋ヨリ依命通牒有之候ニ就テハ各兒童ニ對シ豫メ訓戒ヲ加ヘ不都合無之様相當御取締相成度依命此段及通牒候也

明治三十九年四月二十四日

第二科主任

小學校長宛

別紙  
發圖八三號

近來國定算術教科書ニ對シ其解答書ヲ發行セルモノ有之候處右等ノ解答書ヲ學校兒童ニ持タシムルハ有害ニ付既往及將來トモ當省ニ於テ其發行ヲ許諾スヘキ筈無之從テ右等ノ發行者ハ著作權法ニ依リ當然僞作者ト看做スヘキモノニ有之候就テハ右僞作ニ關スル取締方目下夫々相運居候ヘトモ學校兒童ヲシテ此ノ如キ圖書ヲ購入セシメサル様貴官ニ於テモ十分御取締相成度尙又教科書類似ノモノニシテ何々筆記帳ト稱ヘ或ハ國定教科書ニ模擬シタル出版物ヲ發賣セルモノ尠カラス學校ニ於テハ教科書ト同一ノ取扱ヲナシ兒童ヲシテ之カ購入ヲ強フルモノモ有之哉ニ相聞ニ不都合ニ付是亦相當御取締相成度此段及通牒候也

文部次官心得

明治三十九年四月十六日

文部省專門學務局長 福原 錄二郎

石川縣知事宛

●學甲第一二二號

明治三十九年六月二十三日

第二科主任

町村 長 宛

授業料不徴収ノ件通牒

小學校授業料不徴収ノ件ニ關シ某縣ヨリノ照會ニ對シ文部省普通學務局長ノ回答別紙ノ通り通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候ニ付爲御參考御通牒ニ及候間御了知相成度候也

明治三十九年二月勅令第五號第一條ニ依リ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ徴収セサルモノ、内軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者ニハ明治三十五年四月軍人恩給法改正ノ結果流行病等ニヨリ死没シタルモノヲ包含セサルコトニ相成候ヘ共右ハ同勅令ノ趣旨ニ副ハサル様存ゼラレ候ニ就テハ此場合ニ

於テハ改正以前ノ恩給法第二十七條第一ヲ適用致シ可然乎目下差掛リタル件相生シ候ニ付何分ノ御指示相成度此段及照會候也

明治三十九年五月十五日

回答

本月十五日付學第四一四號ヲ以テ小學校授業料不徴収ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ流行病等ノ死没者ヲ包含セルモノトシ御取扱相成可然ト存候此段及回答候也

明治三十九年五月二十六日

文部省普通學務局長

●學甲第一四九號

明治三十九年七月十九日

第二科主任

小學校長 宛

學校清潔法施行方ノ件依命通牒

學校清潔法施行ニ關シテハ明治三十年一月文部省訓令ノ次第モ有之候處右日常施行ノ實況ニ於テハ校舍内牀板及階段ヲ潤ホサス又濕布ヲモ使用セスシテ掃除ヲ行フ尙尠カラサルヤノ趣斯クテハ常ニ塵埃ノ飛散甚シクシテ爲メニ「トラホーム」皮膚病肺結核等蔓延ノ原因ヲ醸成スル虞有之ト被認候條自今訓令ノ趣旨貫徹候様嚴重勵行スヘク尙學校生徒ヲシテ前記ノ掃除ニ從事セシムルニ當リテハ体格年齢等ニ依リ斟酌ヲ加フヘキハ勿論ノ義ニ有之候ニ付身体薄弱ノ者又ハ十年未滿ノ兒童ニ就テハ特ニ注意スヘキ旨主務者ヨリ通牒ノ次第有之候趣其筋ヨリ申來リ候條深ク御注意相成度候也

●學甲第一五九號

明治三十九年八月八日

小學校長 宛

第二科主任

新式体操法實施ニ關シ依命通牒

今回文部省開設ノ体操講習會ニ於テ講習セル体操法ヲ小學校令施行規則第十條第十七條及第十八條ニ依リ小學校兒童ニ授クヘキ普通体操トシテ實施シ差支ナキ旨主務省ヨリ通牒有之候旨其筋ヨリ申來リ候間御心得置相成尙實施ノ際ハ新設体操ノ趣旨ヲ失ハサル様十分御注意相成度尙新式体操ヲ課スル爲メ明治三十四年本縣訓令甲第三十一號ニ準據シ難キ部分ハ便宜配當相成苦シカラサル趣併セテ申來リ候間御了知置相成度候也

●學甲第一八三號

明治三十九年九月十二日

町村長宛  
小學校長宛

第二科主任

學校敷地内ニ紀念碑建設ノ件ニ付依命通牒

近來小學校敷地内ニ戰役紀念碑建設方願出候尙有之候處右ハ自然學校設備上及管理上等ニ障害ヲ來スノ虞有之候ニ付濫リニ建設セシメサル様取締ルヘキハ勿論ノ義ニ候得共若シ兒童訓育上等ノ必要ヨリ建碑希望ノ尙有之候場合ハ其手續等豫メ當廳ノ指揮ヲ受ケラレ度候也

●學特第一七五號

明治四十年三月二十五日

小學校長宛

第二科主任

尋常小學校卒業兒童學力補習方法等依命通牒

尋常小學校卒業兒童學力等補習方法ニ關シテハ實業補習學校女子裁縫學校等ヲ開設シ最モ完全ニ普ク之レカ教育ヲ施スヘキハ刻下ノ急務ナリト雖モ單ニ以上ノ施設ノミヲ以テ之レカ普及ヲ期シ難ク候ニ

就テハ本郡小學校教員諮詢會ノ意見ヲ徵シ爲御參考別紙及配付候間土地ノ狀況ニヨリ斟酌ヲ加ヘ着々御實行ノ様致度候也

(別紙略ス)

●學甲第七二號

明治四十年六月十八日

小學校長宛

第二科主任

高等小學校算術書發行ニ付通牒

一高等算術書

珠算 全壹冊

小學校算術書

教師用 全壹冊

右今般文部省ニ於テ編纂發行相成候處同書中加法及減法ノ部ハ珠算ヲ課スル尋常小學校ノ教師用トシテモ差支ナキ様編纂シアレハ尋常小學校ニ於テモ亦便宜全書ヲ使用シ得ル儀ニ有之候旨主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候條御了知相成度候也

●學甲第八四號

明治四十年七月一日

町村長宛

第二科主任

學級編制々限超過ニ關スル件依命照會

小學校令施行規則第二十九條第二項ニ依リ學級編制々限ヲ超過スル場合ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ自今學級數ヲ明記シ且ツ期限ヲ附シテ認可稟請相成度又認可ヲ受ケタル后尙ホ學級數ヲ増加セントスル場合ニハ更ニ別段ノ手續相成度候也

●學甲第九八號

明治四十年七月十六日

第二科主任

町村長宛  
小學校長宛

小學校教員退隱料支給上ニ關スル件依命通牒  
今般法律第四十七號ヲ以テ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法中改正相成候處退隱料ヲ受クル者公務ニ就キ受クル給料ト退隱料トヲ合シタル金額退職當時ノ給料額ヲ超過スルトキハ其差額ニ限リ退隱料ノ支給ヲ停止スヘキ義ト相成候得共右ハ改正規定ニ依リテ受クルモノニ適用シ從前ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受ルモノニシテ公務ニ就キ退職當時ノ給料額ト同額以內ノ給料ヲ受クル者ニ對シテハ舊規定ニ依リ支給スヘキ様主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候條御了知相成度候也  
●學甲第九六號

明治四十年七月十六日

小學校長宛

第二科主任

學校風紀取締方ニ付依命通牒

客年六月文部省訓令第一號ヲ以テ學生々徒ノ風紀振肅ニ關シ訓令ノ次第モ有之實行上夫々御注意相成居候儀ト存候處教員又ハ生徒ニシテ男女打混シ舞踏又ハ活人畫等青年ヲ誤リ易キ舉動ヲ爲スカキハ教育上弊害ヲ生スル虞尠カラスト被認候ニ付學校ノ内外ヲ問ハヌ右様ノ行爲無之様取締方今般文部次官ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候條自今一層部下職員及兒童ニ對シ嚴重御取締相成度候也  
●學特第六一二號

明治四十年九月十四日

小學校長宛

第二科主任

教員ノ風紀取締方ニ付依命通牒

學生々徒ノ風紀振肅ニ關シテハ客年文部省訓令第一號及本縣訓令甲第十三號ノ次第モ有之夫々御取締相成居候處之カ致養ノ任ニ當ルヘキ教員ノ素行如何ハ兒童ノ風紀ニ直接ノ影響アルハ言ヲ俟タサル處ニ有之候ニ就テハ是等教員ノ操行ニ關シテハ一層嚴重取締ヘキ旨主務省ヨリ注意有之候趣其筋ヨリ申來リ候ニ付豫メ部下職員ニ對シ御注意置相成度尙荷モ風紀ヲ紊ルカ如キ者有之候ハ直ニ御内申相成候様致度候也

●學甲第一六四號

明治四十年十月一日

小學校長宛

第二科主任

小學兒童卒業後教育勸語ノ趣旨貫徹方ニ關シ依命通牒

本年五月文部省ニテ開會相成候全國師範學校校長會議ニ於テ文部大臣ノ諮問ニ係ル小學校兒童ヲシテ卒業後永ク教育ニ關スル勸語ノ趣旨ヲ奉戴實踐セシムヘキ適當ノ方法ニ關スル答申ハ教育上參考ト相成ルヘキ趣ニテ右答申中地方學校ニ於テ實行シ得ヘシト認ムル事項ヲ摘錄シ別紙ノ通り其筋ヨリ申來リ候ニ就テハ部下職員ヘ周知セシメ十分其旨趣ヲ貫徹セシムル様施行相成度候也  
●學甲第三七號

明治四十一年三月二十三日

小學校長宛

第二科主任

トラホーム患者治療方ノ件ニ付通牒

學校ニ於ケル「トラホーム」患者治療上學校醫ヨリ點眼ニ關スル技術ヲ練習セル一定ノ職員ヲシテ學校醫指揮ノ下ニ點眼ニ從事セシムルノ可否徳島縣ヨリ照會有之候處右ハ内務省ト打合ノ上差支ナシト決定セル旨主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候間御了知相成度候也

●學乙第二〇〇八號

明治四十一年五月十四日

町村長宛  
小學校長宛

國定教科書取次販賣區域通知ノ件

本縣國定教科書特約販賣所宇都宮源平ヨリ取次販賣區域別表届出候ニ付御了知相成度此段及御通知候也

(別表略ス)

●學甲第一〇二號

明治四十一年五月十八日

小學校長宛

尋常小學校手工科教授時數ノ件ニ付通牒

尋常小學校ニ於テハ手工科ハ改正小學校令ニ於テハ第四、五、六學年ニハ毎周二時之レヲ課スヘキ義ニ付該趣旨ニ依リ施行方其筋ヨリ申來リ候ニ就テハ毎周一時課スル向ニアリテハ此際二時ニ改メ施行相成度爲念此段及通牒候也

●學甲第一二二號

明治四十一年六月十三日

小學校長宛

片假名信號法教授ノ件ニ付依命通牒

小學校中學校等ノ教科目中ニ片假名信號法ヲ加フルハ教育上裨益不尠ニヨリ自今小學校中學校實業學

第二科主任

第二科主任

第二科主任

校等ノ体操科ニ於テ便宜之ヲ教授可致様主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候ニ就テハ便宜教授相成度依命此段及通牒候也

追テ文部省ノ許可濟ニ係ル東京市日本橋區本石町三丁目寶文館編輯ノ片假名信號法(定價金八錢)發行相成居候ニ付御參照可然此旨申添候也

●學甲第一二六號

明治四十一年六月十八日

小學校長宛

小學校体操科ニ關シ依命通牒

小學校兒童ニ授クヘキ体操科課程準據方ニ關シテハ明治三十四年四月本縣訓令甲第三十一號ヲ以テ訓令相成居リ候處右ハ小學校令改正ノ結果全令施行規則ニ牴觸スル廉有之候得共當分改正ヲ加ヘラレサルニ付該規則ニ牴觸スル部分ヲ除キ大体ニ於テ依然準據相成度其筋ヨリ通牒ノ次第有之候ニ付依命此段及通牒候也

●學甲第一五八號

明治四十一年七月九日

町村長宛

退隱料ヲ受クル者ニシテ公務ニ就キタル場合ノ届出ニ關スル件通牒

過般退隱料等支給規則中改正相成候結果退隱料ヲ受クル者ニシテ有給ノ公務ニ就キタル場合等ニ付キ届出ヲ要スルコト、相成候ニ付テハ退隱料ヲ受クル者ニ對シ一般ニ知悉セシムル様其筋ヨリ申越候間貴管内ニ於テ退隱料ヲ受クル者ニ其旨御傳達相成度候也

●學甲第一五九號

第二科主任

第二科主任

明治四十一年七月九日

小學校長宛

第二科主任

國定教科書供給狀況報告ノ件ニ付通牒

國定教科書供給狀況報告方ニ關シテハ明治三十九年三月本郡訓令第四號ヲ以テ訓令相成居候處右訓令中毎年四月一日十月一日ノ現在トアルハ何レモ新ナル教科書使用ノ初期ヲ指シタル義ニ付右ノ月日ニ拘泥セズ實際學年始又ハ一學年ニ同種ノ教科書二冊ヲ使用スルモノニアツテハ各其ノ使用スヘキ初期ニ於ケル狀況ヲ前後二期ニ分チ取調相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之此段及御通知候也  
追テ本文報告ハ從來兎角遲延スル向不尠候處其筋ニ於テハ可成速カニ景況承知致度趣ニ付爾後一層御注意相成度此旨申添候也

●學特第八七五號

明治四十一年八月四日

第二科主任

町村長宛  
小學校長宛

登錄稅課否ノ件通知

小學校教員住宅ニ關スル登錄稅課否ノ件ニ付左記ノ通り某縣ノ照會ニ對シ回答ノ旨文部省普通學務局長ヨリ申來リ候趣其筋ヨリ通牒有之候間爲參考及御通知候也

左記  
小學校教員住宅ヲ學校敷地以外ニ設置センカ爲メ土地若ハ建物ヲ購入スル場合ニ於ケル所有權移轉ノ登記ハ明治二十九年法律第二十七號登錄稅法第十九條ノ所謂府縣郡市町村其他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記トシ登錄稅ヲ免除セラル、儀ニ候哉差掛リタル事情有之候條至急何分ノ義御指示

相成度此段及照會候也

回答

小學校ノ教員住宅ニ關スル登錄稅課否ノ件ニ付御照會ノ趣キ了承右ハ御意見ノ通りト存候此段及回答候也

年月日

局長

●學甲第一九〇號

明治四十一年八月二十八日

第二科主任

小學校長宛

理科教授用掛圖使用ノ件ニ付依命通牒

近來民間ニ於テ文部省編纂尋常小學理科書ノ内容ニ基キ多數ノ掛圖ヲ製作シテ同書教授上ノ便ニ供スト唱ヘ之レカ購入ヲ諸學校ヘ勸誘スルモノ少カラサル趣相聞ニ候然ルニ本書ハ成ヘク實物事實ノ觀察實驗ニ依リテ教授セラル、コトヲ目的トシ掛圖ヲ用ヒサレハ教授困難ナリト認メタル教材ニ對シテハ本書中掛圖ヲ用フヘキコトヲ明記シ而シテ其掛圖ハ文部省ニ於テ特ニ之ヲ製作シ以テ教授者ノ便ニ供シ居ラル、次第ニ候又教授ノ實際ニ當リ實物事實ト共ニ簡單ナル掛圖若クハ黑板畫ヲ用ヒテ説明スルコトハ固ヨリ必要ノ場合モ可有之候得共艱ニ多數ノ掛圖ヲ使用シテ實物事實ノ取扱ヲ疎ニスルコトアラハ是本書編纂ノ精神ニ反スル而已ナラス到底本科教授ノ目的ヲ達シ得ヘカラサル義ニ有之候間不必要ノ掛圖購入ノ爲メニ多額ノ失費ナカラシムル様主務省ヨリ注意有之候趣其筋ヨリ申來リ候ニ付爲御心得此段依命及通牒候也

追テ理科教授ニ要スル實物標本器械類ノ如キモ各地ノ事情ニ隨ヒテ可成容易ク得ラル、モノヲ用ヒシムルコト文部省理科編纂ノ精神ナルニ付購入上篤ト御注意相成度此旨申添候也

●學甲第一九八號

明治四十一年九月九日

小學校長宛

第二科主任

兒童購入品ノ件ニ付照會

近來小學校ニ於テ片假名信號法其他教科書以外ノ印刷物ヲ兒童ニ購入セシムルモノ少カラサルヤニ相聞ヘ候處右ハ教育上弊害尠カラスト認ムルニ依リ自今右等ノ不都合無之様主務省ヨリ注意ノ次第有之候趣其筋ヨリ申來リ候條御承知ノ上深ク御注意相成度候也

●學甲第二一三號

明治四十一年九月二十四日

小學校長宛

第二科主任

文部省視學官巡視ノ際ニ於ケル心得方ノ件ニ付通牒

今般文部次官ヨリ別紙寫ノ通り通牒有之候旨其筋ヨリ申來リ候條御承知置相成度此段及通牒候也別紙

發普第三四二號

今般當省視學官ハ視察上必要ト認メタルトキハ學校ノ日課ヲ變更シ又自ラ生徒ノ學力ヲ試驗シ得ルコトヲ視學官ニ訓示有之候就テハ自然學校視察ノ際教員ニ日課ヲ變更シテ教授ヲナサシメ又自ラ生徒ノ學力ヲ試驗スル場合可有之ト存候ニ付各學校職員ニ對シテ便宜其旨御示達置相成度此段及通牒候也

●學甲第二一六號

明治四十一年九月二十五日

文部次官 岡田良平

第二科主任

町村長宛  
小學校長宛

市町村立小學校教員退隱料等請求ノ件ニ關シ照會

有之審査上差支少カラサル趣ニテ自今右履歷書ニ退職ノ事由記載ナキ向往々リ候間御承知ノ上該當者アル場合ハ其都度御指示相成度此段及通牒候也

●學甲第二一二號

明治四十一年九月二十二日

小學校長宛

第二科主任

仮名遣ニ關スル通牒

今般文部省令第二十六號ヲ以テ小學校令施行規則中小學校ニ用フル仮名及其字体等ニ關スル規定ヲ削除セラレ同時ニ右改正ノ趣旨ヲ訓令相成候ニ就テハ小學校職員等ニ於テ左記事項相心得教授上不都合無之様特ニ注意可相成旨主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候條左様御了知ノ上不都合無之様御注意相成度候也

別紙

一 小學校令施行規則中仮名及其字体並字音仮名遣ニ關スル規定廢止セラレタルモ此際俄ニ舊來慣用ノ仮名遣ニ依リ教授ヲ爲シ又ハ教科書中ノ仮名遣ヲ舊來ノモノニ更正シテ教授ヲ爲スハ教授上及學習上混雜ヲ惹起スルノ憂ナシトセサルニ付現在ノ教科書使用中ハ尙從來ノ字音仮名遣ニ依リ教授ヲ爲スヲ妨ケス但上級ノ兒童ニ對シテハ適宜古來慣用ノ字音仮名遣ヲ授ケ其ノ一班ヲ知得セシムルコト



二 改正教科書使用后ハ小學校ノ國語教授ハ當然古來慣用ノ字音仮名遣ニ依ラシムヘキハ勿論ナルモ強ヒテ下級ノ兒童ニ對シテ之ヲ學習セシムルヲ要セス且一般ノ兒童ニ對シテモ從來ノ字音仮名遣等ノ使用ヲ許容シ強テ之ヲ訂正セシムルヲ要セサルコト

●學甲第三三三號

明治四十一年十一月二日

小學校長宛

第二科主任

文部大臣ノ教育方針ニ付依命通牒

今般文部大臣演說筆記ヲ以テ教育ニ關スル大体ノ方針開示相成候處右方針ニ依リ御指導相成候ニ就テハ特ニ別紙ノ事項ニ就キ御留意相成度主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候條御心得置相成度候也

(別紙畧ス)

●學甲第三九八號

明治四十一年十二月十五日

小學校長宛

第二科主任

理化實驗ノ件ニ付依命通牒

今回義務教育延長相成候ニ就テハ尋常小學校ニ於テモ理化學上實驗ヲ要スル場合尠ナカラス從テ教授ノ際ニハ可成實驗セシムルハ最モ望ム處ナルモ現今尋常小學校ニハ相應智識ヲ有スル者配置ノ域ニ達セス此等ノ者ニシテ藥品等使用ノ場合ニハ經驗ナキモノヲ取扱フ様ノコトハ萬々無之トハ信スルモ多少經驗アルモノニテモ用意ノ周到ナラサル爲メ時々不慮ノ事ヲ生スル場合モ有之途ニ實現ヲ全フシ得サルノミナラス延テ教員ノ信用ニモ影響スヘク候條爾今理化實驗ニ際シテハ特ニ周到ナル準備ト殿

密ナル注意トヲ怠ラサル様深ク御注意相成度其筋ヨリ申越ノ次第モ有之依命此段及通牒候也

●學特第八四號

明治四十二年二月一日

町村長宛  
小學校長宛

第二科主任

不良行爲取締上ニ付依命照會

明治三十九年十二月本郡告諭第一號ヲ以テ正朔均一上ニ關シ告諭相成居候處尙舊慣ヲ墨守シ陰曆ヲ用キ連日業ヲ休ミテ新正ヲ謳歌スルノ向アルカ如ク特ニ青年輩ノ如キハ此處彼處ニ集合シテ亂飲暴食ヲ是レ事トシ甚シキニ至リテハ男女混交寶引等賭博ニ近キ惡戯ヲ敢テシ父兄ハ在來ノ慣習トシテ之レヲ假借シ看過スルノ弊風有之哉ニ被存候ニ付テハ右ハ管ニ青年輩ノ風紀ヲ紊亂シ自治ノ体面ヲ汚濁スルノミナサス妙齡ナル子女弟妹ニモ感染シ兒童訓育上ニ及ホス弊害濟フヘカラサルニ至ルヘク候條此際機宜ノ方法ヲ講シ青年輩ハ勿論兒童ニ對シテモ右不良ノ行爲無之様深ク御注意相成度候也

●學特第一〇〇號

明治四十二年二月四日

町村長宛  
小學校長宛

第二科主任

防火上注意ノ件ニ付依命照會

小學校ニ於テ火鉢ノ始末方粗漏ナルカ爲メ或ハ夜學ニ用ユル硝燈不全ナルカ爲メ不慮ノ過失ヲ惹起シ數年苦辛經營シテ建築シタル校舍ヲ一陣ノ風火ニ委シタルモノ他郡ニ於テ從來數々有之哉ニ聞及候ニ付テハ今後火鉢ノ底部ニ厚サ一寸以上ノ横棧ヲ施シ又硝燈ノ油壺ハ金屬製ノモノヲ用ヒ以テ災ヲ未

薪ニ防ク様篇ク御注意相成尙防火用トシテ砂或ハ木灰ヲ準備スルカ若クハ消火器等ヲ備付ルカ相當ノ措置ヲ執ラル、様致度候也

●學甲第四六號

明治四十二年三月十八日

町村長宛

第二科主任

學事年報取調要項ノ件ニ付照會

明治三十四年文部省訓令第一號學事年報取調條項及諸表様式ハ義務教育延長等ニ伴ヒ追テ一般ニ改正ヲ加ヘラルヘキ筈ニ候處明治四十一年度學事年報ニ於テハ甲號及乙號表ノ各一部ハ別記ノ方法ニ依リ其他ハ從來ノ様式ニ依リ調製ノ様主務省ヨリ通牒有之候旨其筋ヨリ申來リ候間御承知相成度此段及通牒候也

記

甲號表一 學齡兒童ノ部

- 一 尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ欄ニハ修業年限四ケ年ノ尋常小學校卒業者ニシテ修業年限六ケ年ノ尋常小學校第五學年以上ノ課程ヲ修ムル者ハ朱書ヲ以テ別ニ其數ヲ掲クヘシ但其朱書ノ數ハ墨書ノ數中ニ計入スヘカラス
- 二 尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘタル者ノ欄ニハ修業年限四ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但其卒業者ニシテ修業年限六ケ年ノ尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ更ニ朱書ヲ以テ其數ヲ掲クヘシ

甲號表一 小學校ノ部

- 一 明治四十年勅令第五十二號附則第三項ニ依ルモノハ其ノ學校、學級、教員兒童、入學兒童及卒業

者ノ數トモ各適當ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ又同附則第六項ニ依ルモノハ其學校及卒業者ノ數トモ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

乙號表一

- 一 尋常小學校第四學年ノ下ニ第五年第六年ノ二欄ヲ加ヘ各其ノ事實ヲ記入スヘシ
- 二 明治四十年勅令第五十二號附則第三項又ハ第六項ニ依ルモノハ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

乙號表二

- 一 舊規程ニ依リ加設科目ヲ課スルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

乙號表四

- 一 明治四十年文部省令第六號附則第六項ニ依ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

●學特第二〇二號

明治四十二年三月二十二日

小學校長宛

第二科主任

青年農事會ノ件ニ付依命照會

今般本郡農會ニ於テ青年農事會設立獎勵規程相定メ各町村字等ノ青年相團結シ別紙農事會々則ニ準據シ會則ヲ制定シ其第五條第一號ノ事業ニ從事セントスルモノハ規程第二條ノ用具ヲ附與シ第二號乃至第九號ノ事項ヲ決行スルモノニアリテハ相當補助スヘキ筈ニ有之候就テハ右ハ本月十日付内訓第二號青年團活動ニ關スル件事業第六項乃至第九項ノ主旨ニ適合スルモノニ候得共此際該當者ニ對シ十分ノ指導ヲ與ヘ奮起發動セシムル様御配意相成度候也  
追テ爲參考青年農事會設立規程相添置候也

青年農事會設立獎勵規程

- 第一條 青年農事會設立獎勵ノ爲メ本規程ヲ設ク
  - 第二條 青年農事會設立セシ箇所ハ本會ヨリ米麥種子ノ撰種用具并ニ消毒用具ヲ附與ス
  - 第三條 前條器具ノ交附ヲ受ケントスルモノハ第一號書式ノ願書ニ會則ヲ副ヘ本會ヘ出願スベシ
  - 第四條 前條器具ノ交附ヲ受ケタルモノハ毎年日ヲ期シ其區内ノ種子鹽水撰并ニ消毒ニ就事スルモノトス
  - 第五條 種子ノ撰種并ニ消毒ヲ行フ期日ハ毎年其都度五日前ニ本會ヘ報告スルモノトス
  - 第六條 撰種并ニ消毒セシ品種及ヒ數量ハ第二號書式ニ據リ施行後十日以内ニ本會ヘ報告スルモノトス
  - 第七條 本會ヨリ交附セシ器具ニシテ若シ破損セシ場合ハ破損品ニ願書ヲ添ヘ出願スルニ於テハ代品ヲ下附スルモノトス
  - 第八條 前條ノ事業外青年農事會ニシテ其地適當ノ事業ヲ施設又ハ獎勵スルニ於テハ本會ヨリ相當ノ補助ヲ與フルモノトス
  - 第九條 前條ノ補助ヲ受ケント欲スルモノハ其事業着手前ニ於テ施設方法并ニ經費豫算書ヲ添ヘ第三號書式ニ據リ本會ヘ出願許可ヲ受クベシ
  - 第十條 補助ノ允許ヲ受ケタル事業ニ對シテハ事業終結後一ヶ月以内ニ其成績ヲ本會ヘ報告スヘシ
  - 第一號書式 撰種并ニ消毒器具交附願
- 本會ニ於テハ今回別紙會則ヲ議定シ區内ノ種子撰種并ニ消毒事業ニ就事致度候ニ就テハ青年農事會設立獎勵規定ニ基キ撰種并ニ消毒器具御下附相成度此段相願候

也

明治四十二年 月 日

幹事長

何 之 某 ㊦

第二號書式

鹽水撰調查書  
粃種子ノ部

施行月日	品 種	數	量	人	名
全	白 早 稻	何 斗	何 升	何	之 某
合 計		何 石	何 斗	何	十 人
施行日	品 種	數	量	人	名
何月何日	大 場	何 斗	何 升	何	之 某
全		何 升	何 合	何	之 某
合 計		何 石	何 斗	何	十 人

施行日		品種		數量		人名	
何月何日	品種	何斗何升	何斗何升	何	何	之	某
全	柳麥	何斗何升	何斗何升	何	何	之	某
合	計	何石何斗何升	何斗何升	何	何	之	某
消毒種子調査書 麥、種子消毒ノ部							
施行日	品種	數量	人名				
何月何日	品種	何斗何升	何斗何升	何	何	之	某
全	ケール	何斗何升	何斗何升	何	何	之	某
合	計	何石何斗何升	何斗何升	何	何	之	某

第三號書式

何々試作試驗場設置ニ付補助願  
事業獎勵

何村何字(地内)  
(區内)

一試作或ハ試驗場ナレバ(小字)(番號)(田畑)(反別)  
獎勵事業ナレバ(區内)同(或ハ)有志者何十名連合(何々事業)  
右(地所ニ於テ)何試作或ハ何試驗場設置(致度候ニ就テハ)青年農事會設立獎勵規程ニ基キ相當補助相成  
度別紙施設方法并ニ經費豫算書ヲ添(此段相願候也)

明治 年 月 日  
郡農會長宛  
何村何字青年農事會幹事長 何 之 某 印  
添 附 書

一施設方法書  
一經費豫算書  
一 通  
一 通

青年農事會々則標準

- 第一條 本會ハ河北郡何村何字青年農事會ト稱ス
- 第二條 本會ハ明治四拾壹年十月十三日御喚發詔書ノ主旨ヲ奉體シ區内ノ農事改良ニ精勵スルヲ以テ  
目的トス
- 第三條 本會ハ何村何字何ニ居住シ農事ニ就事スル拾五歳以上ノ男子ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ハ總會ノ決議ニ因リ事業ヲ經營スルモノトス
- 第五條 本會ニ於テ經營スル事業ノ概目左ノ如シ

- 一、区内ノ米麥種子鹽水撰ニ從事スルコト
  - 一、区内ノ麥奴豫防ニ從事スルコト
  - 一、区内ノ農作物病害虫驅防ニ應援ヲ與フルコト
  - 一、区内ノ共同購入共同販賣事業ニ励ムルコト
  - 一、農事試験及試作ヲナスコト
  - 一、農家副業ノ勵獎ニ励ムルコト
  - 一、農業各種ノ競技會ヲ開設スルコト
  - 一、農産物ノ品評會ヲ開設スルコト
  - 一、農事ニ關スル講習若シハ講話會ヲ開設スルコト
- 其他農事上必要ナル事項
- 第六條 本會ハ縣郡町村農會ト氣脈ヲ通シ事業ノ進興ヲ企圖スルモノトス
  - 第七條 本會ニハ幹事長一名幹事若干名ヲ置キ會務ヲ處理ス
  - 第八條 幹事ハ總會ニ於テ選舉シ幹事長ハ幹事會ノ互撰トス
  - 第九條 幹事長ハ會務一切ヲ總理シ幹事ハ幹事長ヲ補助ス
  - 第十條 本會ニハ顧問ヲ置キ會務ノ監査及事業ニ關スル諮問ヲ爲スモノトス
  - 第十一條 役員ノ任期ハ總テ三ヶ年トシ滿期再撰ヲ妨ケス
  - 第十二條 役員ヲ生シタル場合ハ補欠撰舉ヲ行フモノトス
  - 第十三條 役員ノ滿期退職スル場合ハ後任者ノ就職スルマテ其職務ヲ繼續スルモノトス
  - 第十四條 本會ノ會費ハ會員ノ負擔及寄附金ヲ以テ之レニ充ツ
  - 第十五條 總會ハ毎年二回二月八月之ヲ開ク但シ必要アル場合ハ臨時總會ヲ開會ス

- 第十五條 會議ノ議長ハ幹事長之レニ任シ幹事長事故アルトキハ幹事ノ年長者之レヲ代理ス
  - 第十六條 會議ハ會員半數以上出席スルニ非ラサレハ開クコトヲ得ス若シ招集再回ニ及フ時ハ此限リニアラス
  - 第十七條 會議ノ裁決ハ普通會議法ニ據ル
  - 第十八條 本會ノ會計年度ハ毎年二月一日ニ始マリ翌年一月三十一日ニ終ルモノトス
  - 第十九條 各年度ニ於テ剩餘金ヲ生スル時ハ會ノ基本金トス
  - 第二十條 但基本金ハ郵便貯金トナスモノトス
  - 第二十一條 會員ニシテ會則ニ違背シ又ハ本會ノ体面ヲ汚スコトアルキハ幹事會ノ決議ヲ以テ除名スルコトアルベシ
  - 第二十二條 但シ本項ニ據リ除名シタル時ハ其人名ヲ新聞紙へ廣告スルモノトス
  - 第二十三條 本會ヲ退會セントスルモノハ其旨幹事長へ届出テ幹事會ノ承認ヲ受クルモノトス
  - 第二十四條 本會ノ解散ハ左ノ事項ニ據リ解散ス
  - 一 會ノ合併
  - 一 會員三分ノ二以上ノ同意アリタルキ
- 附 則
- 第二十三條 本會ヲ設立セシキハ會則ヲ附シ設立ノ義郡長ノ承認ヲ受クルモノトス
  - 第二十四條 通常總會及臨時總會ニ於テ決議セシ事項ハ直チニ郡長ニ報告スルモノトス
  - 第二十五條 本會解散ハ郡長ノ承認ヲ受クルモノトス
- 學甲第一一四號
- 明治四十二年六月十五日

第二科主任

小學校長宛

小學地理附圖ノ件ニ付依命通牒

小學校地理教科用書ノ一タル小學地理附圖ノ儀小學校令ニ依リ當然國定書ヲ使用スヘキ筈ニ候處往々國定ニアラサルモノヲ使用セル向有之哉ニ相聞候趣ニテ右ハ管ニ成規ニ違背スルノミナラス教育上都合ノ義ニ付取縮方主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候間已ニ御注意ノ邊モ可有之候モ右様ノ事無之様深ク御注意相成度候也

小學校長宛

小學地理附圖ノ件ニ付依命通牒

小學地理教科用書ノ一タル小學地理附圖ノ儀小學校令ニ依リ當然國定書ヲ使用スヘキ筈ニ候處往々國定ニアラサルモノヲ使用セル向有之哉ニ相聞候趣ニテ右ハ管ニ成規ニ違背スルノミナラス教育上不都合ノ義ニ付取締方主務省ヨリ通牒有之候趣其筋ヨリ申來リ候間已ニ御注意ノ邊モ可有之候モ右様ノ事無之様深ク御注意相成度候也

兵事ニ關スル部

●石川縣河北郡訓令第一八號

町村 役場

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルキハ其社寺ヨリ縣廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ但祭典等ニ際シ一時  
使用スルハ其社寺限リ承諾スルコトヲ得

一官有地及民有地社寺境内ノ竹木ヲ伐採シ及枯損木障礙木處分ニ關スルモノモ前項ニ依ラシムヘシ  
一社地境内ノ使用料並竹木其他ノ収益ハ其社寺ニ屬ス但収入財産ハ明治十四年八月本縣丙七十六番達  
ニヨリ整理セシムヘシ  
右社寺ヘ達スヘシ

明治二十四年十一月十三日

石川縣河北郡長 三好 亘

●石川縣河北郡訓令第一〇號

町村 役場

社寺境内民有地使用及管理方法ハ總テ官有地ニ準シ取扱フヘキ旨今般内務大臣訓令有之旨本縣知事ヨ  
リ訓令相成候ニ付明治二十四年十一月本郡訓令第十八號ニヨラシメ從前ノ例規ニ準據取扱致スヘシ

明治二十八年四月二十二日

石川縣河北郡長 高橋 寛

●石川縣河北郡訓令第一九號

町村 役場

縣社以下各神社所有ニ係ル版權、地所建物國債証券、商事會社株券ノ類ニシテ向後新ニ登録シ若クハ  
登録ヲ變更スル場合ニ於テハ渾テ該神社ノ名ニ於テ登録ヲ受ケシメ其時々本縣廳ヘ届出スヘク旨各神  
職及氏子又ハ信徒總代ヘ達方其筋ヨリ訓令相成候條該當ノ者ヘ無洩傳達致スヘシ

明治二十九年八月二十九日

石川縣河北郡長 高橋 寛



●石川縣河北郡訓令第二一號

町村役場  
明治二十四年十月本郡訓令第一四號ヲ以テ訓令置キタル罹災者賑恤願出ニ際シ添付スヘキ調査事項表  
式別紙ノ通り改正ス自今右ニ據リ取調フヘシ  
明治二十九年九月十四日

石川縣河北郡長 高橋 寛

罹災賑恤者身元等調査事項表

家屋全焼流潰又ハ半焼流潰	何
罹災前家屋建坪及構造	外家族何人
戸主及家族ノ職業	
現在人員及年齢區別	
宅地坪數及地租	
所有耕地反別及地租	
受作耕地反別及地租	

縣稅戶數割負擔額

町村稅負擔額

農具燒失流失破損ノ品目及員數	
種穀燒失流失ノ種目及ヒ數量	
貧困ノ實況	

●石川縣河北郡訓令第八號

町村役場

今般海軍省令第三號ヲ以テ海軍下士兵卒現役中刑罰ニ處セラレタルトキ海兵團ヨリ本人在籍ノ地方廳ニ通知シ地方廳ハ順序ヲ經テ之レヲ本人ノ父兄等ニ通達スルノ規定ヲ設ケタル主旨ハ服務中ナル下士卒ノ品行等ニ關シテハ從來其父兄等ニ對シ官廳ヨリ之ヲ通報セシムルノ制ナカリシ爲メ或ハ毀損セシ官物ノ代價ヲ償フト稱シ或ハ之ヲ辨償セサレハ刑罰ニ處セラレヘント唱ヘ其他種々無根ノ口實ヲ設ケテ其父兄ヲ欺罔シ金員ノ送付ヲ請フ等不良ノ所業ヲナスモノ往々有之哉ニ聞ヘ其惡弊延テ一般ノ風紀ヲ紊亂シ云フヘカラサルノ結果ヲ生スルノ虞ナシトセス依テ現役中刑罰ニ處セラレタル者アルトキハ其父兄等ヲシテ之ヲ覺知セシメ一ニハ斯クノ如キ不良ノ所業ヲ絶タシメ一ニハ其子弟ヲ戒諭シ奉公ノ志ヲ堅カラシメントノ企望ニ基キタル趣海軍大臣ヨリ訓令有之ニ付此旨普ク海軍現役下士卒ノ父兄ヘ示達スヘキ旨縣知事ヨリ訓令相成候條右様取計フヘシ

●石川縣河北郡訓令第二七號

石川縣河北郡長 高橋 寛

明治三十年三月二十四日

海軍志願兵ニシテ合格証書附與セラレタルモノノ採用以前ニ在テ轉籍、死亡、逃亡、公權停止、疾病、不具等身上ニ異動ヲ生シタルキハ速ニ其人名簿異動ノ事項(轉籍者ハ其轉籍地ヲ詳記スヘシ)ヲ郡長ニ届出ツヘシ

明治三十一年五月三十日

●石川縣河北郡訓令第四〇號

陸軍召募規則ニ依リ志願スル士官候補生、地方幼年學校生徒、軍醫學校生徒、獸醫學校生徒ノ願書進達ノ節ハ該規則第四號書式(明治三十年十月陸軍省令第十五號改正ノ分)ニ準據シ身元明細書ヲ添付シ差出スヘシ

但シ明治二十九年本郡訓令第二八號ハ廢止ス

明治三十一年十月十八日

●石川縣河北郡訓令第二三號

社寺ニ於テ其ノ寶物古器物古文書類ヲ亡失シタルトキハ其郡度當該神職住職並ニ氏子檀信徒總代連署シ知事ニ届出ヘキ様取計フヘシ

明治三十三年十月廿四日

●石川縣河北郡訓令第二四號

社寺ニシテ永續維持ノ方法立タサル爲メ廢合ヲ出願スル場合ニ在テハ其ノ社寺ニ屬スル寶物ハ目錄ヲ製シ神職住職并氏子檀信徒ニ於テ保管ノ方法ヲ設定セシメ之ヲ願書ニ添付セシム可シ

町村役場

石川縣河北郡長 柴田 是

町村役場

石川縣河北郡長 柴田 是

町村役場

石川縣河北郡長 村尾震三郎

町村役場

明治三十三年十月廿九日

●石川縣河北郡訓令第二五號

徵發物件調査上必要ニ付明治三十三年十一月陸軍省令第三十九號甲號及乙號ノ物件表該書式ニ準シ調製シ隔年(例之明治三十三年同三十五年)十二月三十一日調ヲ以テ其翌年一月三十一日迄ニ郡長ニ進達スヘシ

但明治三十二年一月本郡訓令第三號及同年二月本郡訓令第四號ハ廢止ス

明治三十三年十一月三十日

●石川縣河北郡訓令第二六號

石川縣河北郡長 村尾震三郎

町村役場

石川縣河北郡長 村尾震三郎

津幡町役場 小金村役場

高松村役場

徵發物件調査上前三ヶ年平均物價表必要ニ付明治三十三年十一月陸軍省令第三十九號丙號書式ニ準シ調製シ毎年一月三十一日限り郡長ニ進達スヘシ

明治三十三年十一月三十日

●石川縣河北郡訓令第二七號

石川縣河北郡長 村尾震三郎

町村役場

徵兵令ニ依リ入營スヘキ陸軍現役兵及第一補充兵ハ町村吏員ヲシテ金澤衛戍地マテ引率セシメ連名簿ヲ添ヘ常應出張吏員ヘ交付セシムヘシ但シ一町村ノ入營兵員五名以下ナルトキハ其連名簿ヲ添ヘ他町村引率吏員ニ委託スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ其旨速ニ郡長ニ申報スヘシ

明治三十年三月本郡訓令第九號ハ自今廢止ス

明治三十四年十一月十四日

石川縣河北郡長 遠矢良治

●石川縣河北郡訓令第四號

町村役場

徵發馬匹ノ配當ヲ受ケタル町村長ハ馬匹徵發ニ際シ馬匹徵發事務細則第二十六條ノ徵發馬匹出場名簿(第二様式)ニ通テ調製シ之レヲ携ヘテ徵發馬匹ノ到着期日前ニ其差出場所ニ到リ郡長ニ提出スヘシ但本文名簿ハ平時ニ於テ準備シ置クヲ要ス

●石川縣河北郡訓令第七號

石川縣河北郡長 遠矢良治

町村長ニ於テ神職候補者推薦書ヲ受理シタルトキハ府縣社以下神社神職任用規則第二條ノ各號ノ一ニ該當スルヤ否ヤヲ取調意見ヲ附シ進達スヘシ

町村役場

●石川縣河北郡訓令第一二號

石川縣河北郡長 遠矢良治

海軍豫備役後備役下士卒ニシテ民法上失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其ノ日ヲ以テ死亡者ト見做シ兵籍ヨリ削除セラルヘキニ付右ニ該當ノモノ之アルトキハ速カニ其旨通知ス可シ

町村役場

●石川縣河北郡訓令第一七號

石川縣河北郡長 山根松太

左記之通海軍大臣ヨリ達セラレタル旨舞鶴鎮守府司令長官ヨリ申越候趣キヲ以テ其筋ヨリ通牒有之候條此旨心得フ可シ

町村役場

但現ニ召集猶豫ノ者ニシテ其事故止ミタル場合モ亦本文ニ據ル儀ト心得フベシ

石川縣河北郡長 山根松太

左記

所在不明ナリシ爲メ未ダ召集令狀ノ交附ヲナス能ハザル者ハ召集スルニ及バズ又事故ノ爲メ未ダ召集ニ應セザル者ハ其發程ヲ差留ムベシ

町村役場

●石川縣河北郡訓令第三號

戦死者及病歿者ニ係ル特別賜金ノ恩典アル所以ハ遺族ヲシテ能ク其德澤ニ浴セシメ且ハ忠勇義烈ナル歿者ノ發祀ヲ永ク絶タス其名譽ヲ子孫ニ保全セシメントセラル、ノ趣旨ニ外ナラサレハ可成確實ニ恩賜金ヲ保持シ徒ニ費消スルノ憂ナカラシムル如ク期セサル可カラス就テハ別紙規定ニ基キ之レカ保持ニ努メ永ク恩賜ノ趣旨ヲ完フセシムル様嚴重ニ取締ヲセラル可シ

石川縣河北郡長 山根松太

明治三十八年二月八日

特別賜金保持ニ關スル規定

第一條 町村長ハ戦病死者ノ遺族ヘ對シ特別下賜金ノ交付アリタルトキハ直ニ恩賜ノ趣旨ヲ懇篤啓示シ一已ノ私有金ト見做サス永ク之ヲ保管シ以テ死者ノ祭祀ヲ絶タサラシムル如クセン爲メ左ノ方法ニ據ラシメ直ニ其方法及遺族ノ住所氏名恩賜金額等ヲ郡長ニ報告スヘシ但極力説諭ヲ加フルモ其方法ニ據ラサルトキハ之ヲ郡長ニ具狀スルモノトス

一、恩賜金ハ受領者ヲシテ興業銀行又ハ確實ナル銀行ヘ保護預ケトナサシムル  
但現金ハ郵便貯金トナスモ妨ケナシ  
一、前項預入申込書ニハ受領者ノ家長町村長當該區長加印者トシテ連署シ其引出ニ方リテモ加印者

連署スルニ非ラサレハ引出スヲ得サル條件ヲ附スルヲ

一、銀行等ノ預リ証書ナトハ受領者ノ家長保管スルヲ

一、公債証書ノ利子ハ可成完結スルモノトシ利子拂渡ノ際銀行ニ於テ其手續ヲナスコトニ豫メ申込  
ミ置クヲ

一、恩賜金ハ妄リニ其元本ヲ消費セシムヘカラス且舉家其恩澤ニ漏レサラシム可キニ付將來之カ處  
分ニ關シ受領者家長并ニ同戶籍内ニアルモノヲシテ誓書ヲ町村長ニ提供セシムルヲ

第二條 遺族ニ於テ恩賜金ノ保存上ノ利益ト認ムル行爲アリタルトキハ町村長ハ極力説諭ヲ加ヘ猶聽  
カサルトキハ之ヲ郡長ニ具狀スルモノトス

第三條 遺族ノ家事經營上賜金ヲ以テ不動産ヲ購入シ若クハ資金ニ充テントスルトキハ賜金受領者及  
ヒ加印者連署ノ上豫メ郡長ノ承認ヲ經ルモノトス

第四條 遺族ニ於テ事情已ムヲ得ス賜金ヲ費消セントスルトキハ狀ヲ具シ賜金受領者及加印者連署ノ  
上豫メ郡長ノ承認ヲ請フ可シ

第五條 郡長ハ第一條第二條ノ具狀ニ接シタルトキハ直ニ關係者ヲ招喚シ若クハ吏員ヲ出張セシメテ  
町村長ト協力説諭ヲ加フルモノトス

第六條 町村長ハ毎月一回若クハ隔月ニ回遺族ヲ訪問シ家庭ノ狀態賜金保持ノ狀況等ヲ調査シ遺族ノ  
注意ヲ喚起スルモノトス

第七條 郡長ハ時々吏員ヲ派遣シ遺族ノ狀態ヲ調査シ其結果ニ依リ直ニ遺族ヘ注意シ若クハ町村長ヘ  
協議セシムルコトアル可シ

第八條 町村長ハ賜金受領者ノ名簿ヲ調製シ月次訪問ノ結果必要ト認ムル事項アルトキハ其要旨ヲ記  
入シ置ク可シ

第九條 町村長ハ豫メ所在警察官吏ト協議シ遺族ノ内情ヲ偵知シ又關係者ヘ説諭ヲ加フル場合ハ其協  
力ヲ求ムル等機宜ノ取計ヲ爲ス可シ

●石川縣河北郡訓令第八號

町村 役場

町村長ハ毎年二月一日現在ヲ以テ所轄内ニ於ケル其年徵兵適齡者ニシテ所在不明ノ者ヲ調査シ二月十  
日迄ニ別記様式ニ據リ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

二月一日以後本郡徵募區徵兵署開設迄ニ所在不明トナリタルモノ并ニ所在ノ發見シタルモノハ前項ニ  
準シ其時々遲滞ナク之ヲ報告ス可シ

但明治三十九年一月本郡訓令第二號ハ之ヲ廢止ス

石川縣河北郡長 山根 松太

●石川縣河北郡訓令第一三號

町村 役場

徵兵事務條例施行細則第三條第三項ニ因リ毎年一月十日迄ニ報告スヘキ徵兵適齡人員表ハ別記様式ニ  
據リ調製ス可シ

但明治三十八年十二月本郡訓令第一五號ハ廢止ス

石川縣河北郡長 山根 松太

明治四十一年五月三十日

(別記) (用紙半紙系統) 明治 年徵兵適齡人員報告

一、適齡者

河北郡何町村 何 名

内

受檢スルモノ  
 令第二十二條相當  
 十一月三十日迄ニ監視満期  
 何々々  
 其他ノモノ  
 小計  
 受檢セザルモノ  
 令第八條相當  
 令第十三條相當  
 令第二十五條但書相當  
 所在不明  
 禁錮中  
 何々  
 小計  
 右及報告候也

何何何何  
 何何何何  
 名名名名  
 名名名名

何何何何何何  
 何何何何何何  
 名名名名名名  
 名名名名名名

年月日

郡長宛

町村役場長

●石川縣河北郡訓令第一七號

町村役場

海軍志願兵志願ノ申立ヲ受ケタルトキハ海軍志願兵條例第四條第五條ノ一第五條ノ二ニ依リ年齡等ヲ調査シ左記様式ニ依リ志願者名簿ヲ調製シ提出スヘシ但提出ノ期限ハ毎年之ヲ指示ス  
 明治三十八年二月本郡訓令第五號ハ之ヲ廢止ス  
 明治四十一年九月二十五日  
 石川縣河北郡長 山根松太  
 (左記) (用紙美濃野紙)

明治 年海軍志願兵志願者名簿

河北郡何町村

志願兵種	修學程度	現在地及族籍	出生地	志願者現在職業	氏名	生年月日	兵役關係
水兵 機關兵	高一	何町村字何何番 地平民(士族)	何府縣何郡 市何町村	農	何某	明治 年 月 日	徵 適

備考

- 一、二兵種以上ヲ希望スルモノハ其順序ニ列記スルコト
- 二、修學程度ノ欄假令ハ尋常小學校第一年乃至第六年ヲ修業シタルモノハ「尋一」「尋六」トシ高等小學校第一年及第二年ヲ修業シタルモノハ「高一」「高二」ト記入スルコト  
 但小學校令改正以前ノ修業者ニ在ツテハ「舊高四」「舊高三」「舊尋四」「舊尋三」ノ如ク記入スヘシ
- 三、現住地ノ欄ニハ本籍地ニ現住スル者竝ニ寄留者ヲ記シ寄留者ハ本籍地ヲ併記スルコト
- 四、兵役關係ノ欄ニハ其年徵兵適齡者ハ「徵適」「陸軍補充兵」「陸補」等ノ如ク記入スルコト
- 五、各欄ノ記事ハ二行ニ跨ルモ妨ナシ

●石川縣河北郡訓令第二〇號

町村役場

海軍召集條例施行細則第三十條ノ軍事警報ハ白布(寒冷紗、曲尺縦四尺横壹尺八寸)ヲ以テ三枚ヲ常備シ別ニ左記文案ヲ備ヘ充員召集實施ニ當リ合達ノ種類ニ依リ記載スヘキ義ト心得ヲ可シ

但明治三十三年六月本郡訓令第一九號及明治三十六年九月訓令第二一三號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年十一月十九日

海軍々事警報文案

石川縣河北郡長 山根 松太

一、全部充員召集ノ例

(何)日午(後)海軍(豫備役、後備役)下士卒ノ充員召集ヲ令セラル

二、一部充員召集ノ例ノ一

(何)日午(後)明治(何)年(何)月(何)日以後同(何)年(何)月(何)日マテニ現役ヲ離レタル海軍(豫備役、後備役)下士卒ノ充員召集ヲ令セラル

三、一部充員召集ノ例ノ二

(何)日午(前)明治(何)年(何)月(何)日以後現役ヲ離レタル海軍(豫備役、後備役)下士卒ノ充員召集ヲ令セラル

備考

括弧内ノ文字ハ充員召集令達ノ種類ニ依リ記入スルモノトス

軍事警報ノ記載例ハ海軍召集條例施行細則附録様式第十二據ル可シ

●石川縣河北郡訓令第二三號

町村 役場

町村長ハ軍隊ニ雇備シ得ルモノニシテ左ノ各項ニ該當スルモノヲ調査シ第九師團召集事務規定附表第十三乃至第二十様式ニ依リ毎年十一月二十日迄ニ報告ス可シ

但明治三十四年十二月十八日本郡訓令第一六號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年十二月七日

石川縣河北郡長 山根 松太

左記

一、電信通信術及電燈使用術習得者

二、醫師、藥劑師、元陸軍看護長、元陸軍調劑手、元陸軍看護卒及之ニ準ス可キモノ並ニ看病人、磨工ニ充用スヘキモノ

三、獸醫、元陸軍蹄鉄工長、元陸軍蹄鉄工及蹄鉄工免狀所持者

四、鞍工、木工、鍛工、銃工術習得者

五、馬卒ニ代用シ得ルモノ

六、縫工、靴工術習得者

注意 本調査ヲナスニハ第九師團召集事務規定附録様式ノ備考ヲ參照シテ調査スルコト

●石川縣河北郡訓令第九號

町村 役場

神社ニ於テ左記ノ行爲ヲナサントスルトキハ其着手前郡長ノ承認ヲ受ケシム可シ

一、境内建物ノ改築、増築、模様替、大修繕ヲナサントスルトキ

但此場合ニアリテハ其設計圖ヲ添付スベシ

二、基本財産土地上ノ樹木ヲ處分セントスルトキ

明治四十二年三月十日

石川縣河北郡長 山根 松太

●石川縣河北郡訓令第一六號

町村 役場

將校同相當官退役被仰付ル、カ若クハ他管内ヨリ入籍、寄留シタルトキハ左記様式事項調査ノ上之ヲ報告シ爾後身上ニ異動アリタルトキハ其事項ヲ報告ス可シ

明治四十二年三月二十三日  
石川縣河北郡長 山根 松 太

本籍地	寄留地	現時ノ職業	恩給受否	官位勳等	族籍	姓	名	生年月日
何縣何郡何村字何番地	全 上	何々	有(無)	歩兵大尉正七位勳五等功五級	士族	何	某	明治何年何月何日

●石川縣河北郡訓令第二一號

改名願書ヲ提出シタルトキハ左記事項ヲ調査シ有無共添申ノ上進達ス可シ

明治四十三年四月二十三日

石川縣河北郡長 山根 松 太

左記

- 一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニアラサルヤ  
(受刑者ハ刑名記入ヲ要ス)
- 二、身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ了ヘサルモノ又ハ破産、家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサルモノニアラサルヤ
- 三、事實ニアラズシテ名ヲ養子女其他ノ入籍又ハ同居、寄留、同業若クハ僧侶得度ニ藉リ改名ヲ企ツルモノニアラサルヤ

●石川縣河北郡訓令第二二號

町村役場

徴兵検査ヲ受クヘキモノ(前年仮決者ヲモ含ム)ニシテ所在不明等正當ノ事故ナク検査當日不參スルモノ、屆書ヲ受理シタルトキハ左記事項調査ノ上詳細ナル調査ヲ添付ノ上差出ス可シ

明治四十二年四月廿七日

石川縣河北郡長 山根 松 太

左記

- 一、所在不明等ノ故ヲ以テ検査ヲ受ケサルモノナルトキハ其他行ノ年月日、他行ノ目的、用向、他行後音信ノ有無并ニ推定ノ居住地、生死
  - 二、不參者カ何テ戦亂事變等アリシ方面ニ赴キ若クハ遠洋漁業ニ從事シ其他危難ニ遭遇スヘキ狀況ニ在リタルトキハ其詳細
  - 三、不參者カ民法上不在者トシテ取扱ハレ居ルモノニアラサルヤ否
  - 四、不參者カ前科者ナルトキハ欠席ト對席トニ拘ラス其處刑ノ年月日、罪名、刑名及言渡ヲ爲シタル裁判所名
  - 五、検査期日ノ告知ハ如何ナル手續ヲ以テシタルカ
  - 六、本人及家族ノ財産、但本人ト家族トノ分ヲ區別シテ記載ノコト
  - 七、其他屆書記載ノ事項カ果シテ事實ナリヤ否ヤ精細ナル取調ヲナシ之ニ對スル意見ヲ付スルコト
  - 八、無届ノ不參者ニ就テモ其報告書中ニ前記ノ事項ヲ調査記載ノコト
- 注意 前數項中第一項ヨリ第四項マテハ該當ナキ事項ハ記載スルニ及バズ
- 石川縣河北郡訓令第二三號
- 町村役場

陸軍召集條例并ニ同服役條例ニ因ル届出ヲ遅延シ若クハ届出ヲナサ、ルモノニ就テハ左記ノ通り取扱フ可シ

但簡閱點呼ノ不參届ニ就テハ本年郡訓令第二二號ヲ準用スヘシ

明治四十二年四月二十九日

石川縣河北郡長 山根 松 太

左記

- (一) 届出遅延ノモノニ就テハ左記事項調査ノ上届書ニ添付ス可シ  
一、届出義務者ノ原籍住所(寄留タルト一時滞在タルト)問ハス現住所ヲ記載スベシ(職業氏名生年月日)
  - 二、届出遅延ノ事由(可成届出義務者ノ事由書ヲ徵スルヲ可トスレドモ之カ爲メ届書經由ニ遅延ヲ來ス虞アルトキハ町村長調査ノ事由ノ末尾ニ其旨付記スルコト)
  - 三、町村長ヨリ前以テ届出方ノ注意ヲナシタリヤ否ヤ且注意ヲナシタルニ拘ラス届出ヲ怠リタルモノナルトキハ其次第ヲモ記載スベシ
  - 四、届出義務者ヨリ遅延ノ事由書ヲ差出シタルトキハ記載ノ事項カ事實ナリヤ否ヤ精査ノ上意見ヲ付スルコト
  - (二) 届出ヲナサ、ルモノニ就テハ前項各號ノ外尙左記事項ヲ調査ノ上報告ス可シ  
一、届出ツヘキ事項及其義務ノ發生シタル年月日
  - (三) 前二項ノ届出事項カ戸籍ニ關係スルモノナルトキハ其謄本若クハ抄本ヲ添付ノコト
- 石川縣河北郡訓令第二三號

陸軍在郷軍人ニシテ陸軍服役條例并陸軍召集條例ニ因リ届出ベキ事項ヲ規定ノ期間内ニ届出ザル時ハ

町村 役 場

金澤聯隊區司令官宛ニテ直ニ之ヲ報告ス可シ

但四十二年本郡訓令第二二號及第二三號ノ調査ヲ添付ス可キ義ト心得フ可シ

明治四十二年七月二十九日

石川縣河北郡長 山根 松 太

●訓第二四號

新兵入營及滿期歸郷兵送迎ノ件ニ關シ本月十二日告諭發布相成候處右ハ特ニ陸軍大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候趣ニ付隨時其關係者ニ注意ヲ促シ該告諭ノ趣旨貫徹候様取計フヘシ

明治三十五年十二月十五日

石川縣河北郡長 遠 矢 良 治

町村 長 宛

●訓第二五號

新兵入營又ハ滿期歸郷兵送迎ノ件ニ關シ客年十二月訓第二百四十四號及其他屢々示達シタル義モ有之其送迎ニ旗幟ヲ樹テ隊伍ヲ組ミテ横行シ或ハ盛宴ヲ催ス等外形ノ虚飾ニ走り濫ニ錢財ヲ糜費スルノ弊風矯正方ニ就テハ夫々注意セラル、所アランモ昨今歸郷兵ノ出迎ニ徵スルニ猶未タ全ク右弊風ヲ脱却セサルヤニ見受ケラル目下新兵入營期ニ切迫セルヲ以テ此際各關係者ヘ深ク警告シ客年本縣告諭第五號ノ趣旨徹底候様取計フヘシ尤モ精神的送迎ニ意ヲ致スハ當然ナルモ要スルニ華美虚飾ノコトハ斷シテ之ヲ避ケ又無用ノ費ヲ節シ不成産的ノ舉ハ大ニ注意ヲ加ヘサルヘカラス左記ノ如キ事ハ害ナクシテ趣味アルコト、認メ候條是亦誤認ニ陥ラサル様注意シ各關係者ニ示達スヘシ

一酒宴等ハ精々催サス代フルニ入退營者ノ身分貧富等ノ差ニ依リ其人ノ有用有効ト認ムル物品ヲ選擇シ有志團體等ヨリ贈與スルコト或ハ貧困者ニハ其家族等ニ扶助ヲナスコト

一多數ノ人ガ旗幟ヲ樹テ隊伍ヲ組ミ遠ク入退營地ニ赴クモ何等益アルナシ徒ラニ業ヲ廢シ費用ヲ要シ



其損害少々ナラス依テ有志團體ヨリ兩參名ヨリ多カラサル代表者ヲ出シ他ハ其郊端若クハ其家ニ於テ送迎スルニ止メ旗幟ハ必ス樹立セザルコト

明治三十六年十一月十三日

石川縣河北郡長 山根 松太

各町村長宛

●兵第二一五八號

歸休兵、豫備、後備役下士兵卒并ニ第一補充兵ニシテ寄留地ニ於テ簡閱点呼參會許可ノ者從來寄留地聯隊區外ノ地へ寄留替ヲ爲シタルキハ更ニ出願許可ヲ受クルノ規定ニ候處來ル十一月一日後ハ該規定ヲ廢シ一度許可ヲ受ケタル者ハ何レノ聯隊區へ寄留換ヲナスモ許可ノ指令ハ其効力ヲ有シ候ニ付再出願ノ手續ヲ要セス又寄留地師管ノ勤務演習應召許可者ハ從前ノ通り寄留地師管異ナル地へ寄留替ヲ爲シタルキハ更ニ出願許可ヲ受クヘキ義ニ有之候旨其筋ヨリ申越候條此段及照會候也

明治三十五年十月三十一日

第二課長

町村長宛

●兵甲第一〇一八號

神佛各教宗派ニ屬スル教務所ノ設置、移轉、廢合等ニ關スル願届ニ付テハ願書ハ管長ノ添書ヲ要シ届書ハ管長ヲ經由スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條爲念此旨及移牒候也

明治三十八年十月九日

第二科主任

町村長宛

●兵甲第一〇一九號

社寺惣代人新舊交替期ニ關シ左記ノ通り内務省ニ於テ決定相成候趣ニ付キ此段及通牒候也

明治三十八年十月九日

第二科主任

町村長宛

左記

一社寺惣代人改選ニ關スル明治二十四年内務省訓令第八號ハ總代人改選ノ時期ヲ定メタルモノニシテ其任期ヲ定メタルモノニアラス從テ一旦當選ヲ届出タル惣代人ハ其當選ヲ届出タル日ヨリ起算シ滿三年毎ニ改選セシムヘキハ勿論ナリト雖モ後任者ノ當選届出ヲ爲サル間ハ其三年ヲ經過セルノ故ヲ以テ當然總代人タル資格ヲ失ヒタルモノトナスヲ得ス

●兵甲第五四六號

明治十七年十月内務省乙第三十八號達ニ依リ教務所設教所ノ設置ヲ許可スルハ當該教宗派ノ教師カ布教傳道ニ必要ナル設備トシテ公認スルモノナレハ設立主願人ノ進退等ニ因テ其所屬ヲ更ムヘキモノニアラス從テ甲教宗派ニ屬スル教務所設教所ヲ乙教宗派ニ所屬替若クハ轉屬等ノ願届ヲ爲スモノアルモ一切受理セラレサル儀ト承知相成度其筋ヨリ通牒有之候條此段及移牒候也

明治三十九年四月二十四日

第二科主任

町村長宛

●兵甲第五七八號

扶助料ヲ受クルモノニシテ他家ノ家族トナリタル爲メ扶助料ヲ受クル權利消滅ニ歸スヘキ場合ニ於テ戶籍法ノ規定ニ依リ入籍届出ヲ本籍地戶籍吏ニ爲シ又ハ本人所在地ノ戶籍吏ニ爲スモノアリ右何レノ場合ヲ問ハス入籍届出受理ノ日ヲ以テ恩給法ニ所謂戶籍ヲ去リタルモノト見做スヘキヤ將又本籍地戶籍吏ニ於テ除籍ノ手續ヲ爲シタル時ヲ以テ戶籍ヲ去リタルモノト見做スヘキヤ依リ權利者ノ權利ニ消長ヲ來タスハ勿論ノ義ニ有之候處見解區々ニ涉リ候テハ統一上不都合ニ付爾今右様ノ場合ニハ入籍

届出受理ノ日ヲ以テ戸籍ヲ去リタルモノト見做シ從テ其日ニ於テ權利消滅ニ歸スルモノト思料相成度其筋ノ通牒ニ基キ此段及移牒候也

明治三十九年五月三十日

町村長宛

第二科主任

●兵甲第九三三號

明治三十九年七月十八日

町村長宛

第二科主任

勳章年金支給方ニ付移牒

勳章年金支給方ノ件ニ付左記ノ通り通牒有之候也

左記

往第八一四號

勳章年金ヲ繼承スヘキ者ハ又ハ既ニ之ヲ繼承シタルモノニシテ現ニ其年金ノ支給ヲ受ケサル前ニ於テ死亡シ又ハ孤兒二十才ニ達シ次ノ繼承者ナキ場合ニ於テハ其年故ノ生シタル期ノ年金ハ之ヲ其相續人又ハ孤兒タリシ者ニ支給スヘキコトニ閣議決定相成候間右ニ御取扱相成度依命此段及通牒候也

明治三十九年七月六日

石川縣知事村上義雄殿

大藏省理財局長 水町袈袋六

●兵甲第一〇七六號

明治三十九年十月九日

町村長宛

第二科主任

徴兵事務ノ件通牒

徴兵令第二十三條ニ依リ徴兵猶豫ヲ願出ツルモノニシテ前年ニ於テ猶豫ノ特典ヲ有スル學校ヲ退學シタルモノハ其退學ノ理由カ消滅シタルカ爲メ更ニ學校ヘ入學スルニ至リシモノナルカ故ニ爾今右ニ對スル猶豫願書ニハ前年ノ退學理由ノ消滅シタル理由書ヲ添付セシメラレ度候也

●兵甲第四〇一號

明治四十年三月二十一日

町村長宛

第二科主任

徴兵猶豫ノ件ニ付通牒

本年四月一日以前ヨリ露領沿海洲、薩哈噠、清國香港、澳門ニ在リタルニ對シテハ徴集猶豫相成候得共明治三十九年法律第四十三號施行以前ヨリ右列記外ノ外國ニ在リタルモノニシテ右列記ノ地ヘ渡航スト雖モ徴集ヲ猶豫セラレサル義ニ付了知相成度候也

●兵甲第四七九號

明治四十年三月二十九日

町村長宛  
神職宛

第二科主任

合祀神社々々ノ義ニ付通牒

客年九月本縣告諭第二號ノ趣旨ニヨリ神社合併方出願ニ對シ追々許可相成候處該合併神社々々ノ義ハ合祀社々掌タリシモノ依然其資格ヲ有シ被合祀社ノ社掌ハ自然消滅ニ歸スルモノニ付別段辭令交付不相成義ニ有之候間此旨了知置相成度候也

追テ合祀ト全時ニ社名改稱許可相成候モノモ神職ニ對シ別段辭令交付不相成候間爲念申添候也

●兵甲第五五四號

明治四十年四月十八日

町村長宛

婚姻條例ノ件ニ付通牒

左記ノ通り陸軍次官ヨリ通牒有之候旨通牒越候條然様了知相成度候也  
左記

入營前若クハ飯休中ノ現役兵卒ニ對シテハ陸軍現役軍人婚姻條例ヲ適用セサル儀ト承知相成度  
●兵甲第六二九號

明治四十年四月二十四日

第二科主任

町村長宛

神社合併願ノ義ニ付通牒

村社以上ノ境内地ニシテ境内編入ノ手續ヲナササル爲メ民有地第一種(有租地)トナリ居ルモノ間々發見候趣ニ付神社合併出願ノ際合併スヘキ神社カ村社以上ニシテ其境内地民有地ナルトキハ民有地ノ第一種ナリヤ將タ第二種ナリヤ取調ベ添申相成度候也(神職ノ分ハ取調以下チ「取調添申スヘキ旨」町村長ヘ通牒候條了知相成度候也)トス

●兵甲第七一七號  
明治四十年五月七日

第二科主任

町村長宛

合併ニ因リ削除シタル社寺又ハ會社ノ不動産登記ニ關スル義ニ付キ通牒

合併ニ因リ削除シタル社寺又ハ會社ノ不動産登記ニ關スル件ニ付キ別紙甲號及乙號ノ通り照復有之候趣通牒有之候條了知相成度候也

別紙  
甲號

往第一三九〇八號

社寺又ハ會社ノ合併アリタル場合ニ於テ合併ニヨリ消滅シタル社寺又ハ會社ノ所有ニ係ル未登記土地ノ所有權ヲ合併ニヨリテ存續設立シタル社寺又ハ會社ノ所得シタル場合ニ於テ之カ登記ヲ受クルニハ不動産登記法第五條ニ依ルヘキ義ニ候哉至急何分ノ御回報煩ハシ度此段及照會候也

明治三十九年十二月一日

大藏省主税局長 櫻井鉄太郎

司法省民刑局長平沼騏一郎殿

乙號

司法省民刑第一四一四號

客年十二月十日往第一三九〇八號ヲ以テ御照會ノ件合併ニ因リテ消滅シタル社寺又ハ會社ノ所有ニ係ル未登記土地ノ所有權ヲ合併ニ因リテ存續設立シタル社寺又ハ會社カ取得シタル場合ニ於テ之カ登記ヲ受クルニハ不動産登記法第五條第一號ノ規定ニ準據シテ取扱フヲ相當ト思料致候此段及回答候也

明治四十年一月十四日

司法省民刑局長 平沼騏一郎

大藏省主税局長櫻井鉄太郎殿

追テ本文ノ件ハ土地台帳所管廳ニ於テモ土地台帳規則施行細則第五條第二項ノ規定ニ準シ取扱フヘキ旨一般ヘ御通牒相成候様致度此段申添候也

●兵甲第八一四號

明治四十年五月十八日

第二科主任

町村長宛

通牒

陸軍召集條例施行細則第九十二條ノ條項中箇点呼令狀發送及交付月日時刻人員表ハ爾今提出ヲ要セサル旨通牒有之候條本年ヨリ提出ヲ要セス此段及通牒候也  
●兵特第五五六號

明治四十年八月十日

第一科主任

町村長宛  
神職宛

神社合併願書式通牒

神社合併願及舊社地讓願書式區々ニ涉リ取扱上手數不勘候條爾今別記様式ニ準シ作製セシメラレ度此段及通牒候也  
別記

神社合併願

合併社

石川縣河北郡何村何字鎮坐

社格 神社名

被合併社

石川縣河北郡何村何字鎮坐

社格 神社名

右明治三十九年九月本縣告諭第二號ノ趣旨ニ基キ合併ノ上社格神社名ト稱シ度候ニ付御許可被成下度別紙合併社財產處分法添付此段相願候也

明治年月日

右神社々司(掌)

何 某印

何神社(合併社)氏子(信徒)惣代

何 某印

何 某印

何神社(被合併社)氏子(信徒)惣代

何 某印

何 某印

何 某印

石川縣知事宛

備考 氏子惣代ハ同一人ニテ兩社ノ惣代ヲ兼ヌルコトヲ得ス

被合併社財產處分方法

一 社格神社名 社殿 壹棟

一 全 社務所 全

一 全 鳥居 壹基

外立木類一切

右今般合併願出候處御許可ノ上ハ新社殿(増築又ハ修繕)ノ用ニ供シ剩餘アルトキハ賣却ノ上基本財産トシテ蓄積ス

右之通候也

明治何年何月何日

連名合併願ニ同シ

舊社地讓與願  
一石川縣河北郡何村何字何番地  
元社格神社名境内地 何坪

右明治何年何月何日何村何字鎮坐社格神社名へ合併濟ノ處舊境内地ヲ社格神社名ノ基本財産ト致度候  
ニ付明治三十九年八月勅令第二百二十號ニ依リ讓與被成下度別紙見取圖相添へ此段相願候也  
明治何年何月何日  
連名合併願ニ準ス

縣知事宛

備考

讓與願合併許可ノ上合併濟届ノ後提出スヘキモノナリ  
見取圖ハ境内ノ坪數及圍ノ狀況ヲ詳細記入ヲ要ス

●兵甲第一四〇二號

明治四十年十月七日

町村長宛

第二科主任

在郷軍人團年報取立方ノ件通牒

金澤聯隊區司令官ヨリ在郷軍人團年報取立方申越候條本年十二月ヨリ別紙様式ニ依リ其年報ヲ調製セ  
シメ取立差出相成度候也  
別紙

明治 年前(后)季團員増減及現在人員報告表

團名

區分	官等		兵		軍人外	計
	上	下	上	下		
前期未現員						
增員						
減員						
現在員						

備考  
一 増減及未加入者ノ理由  
二 提出當時ニ於ケル役員ノ兵種官等級姓名

本表調製上ノ要領  
一 本表ハ六月及十二月盡日調ヲ以テ翌月十日迄ニ提出スヘシ  
二 休ハ休職又ハ飯休豫ハ豫備役后ハ后備役退ハ退役國ハ國民兵役未ハ軍人ニシテ本團ニ加入セサルモノヲ示ス  
三 軍人外ハ一般人士ノ加入者即所謂名譽團員及賛助員等ヲ示ス  
四 増員減員ハ當該季ノ出入ヲ示スヘキモノトス  
五 現在員ハ當該季ノ末日ニ於ケル人員ヲ示スモノトス  
六 人員ハ亞羅比亞數字ヲ以テ示スモノトス但未ハ朱書スヘシ  
七 器ス

明治 年前(后)期報告附録

團名

- 一 官ヨリ受ケン賞罰人名及其事由
  - 二 勳章記章被奪者人名及其理由
  - 三 團則ニヨリ處分セシ人名及其理由
  - 四 會合ノ種類度數及其狀況
  - 五 學術科實施科目回數及毎回ノ狀況
  - 六 設備或ハ着手セシ團ノ事業
  - 七 團ノ財産(金錢物品)
  - 八 軍隊或ハ地方ノ爲メ實施セシ事業
  - 九 廢兵、遺族及戰病死者ニ對シ實施セシ事業
  - 十 團員相互ノ關係狀態
  - 十一 團ト地方トノ關係狀態
  - 十二 團員一般ノ狀況
  - 十三 雜件(團トシテ右以外ニナセシ諸件及出來事)
- 兵甲第一六二六號
- 明治四十年十二月七日
- 町 村 長 宛  
移 牒
- 第二科主任
- 左記甲號佐賀縣知事照會ニ對シ陸軍省軍務局長ヨリ乙號ノ通り回答相成候趣其筋ヨリ通知有之候條爲  
參考及移牒候也
- 甲 號

役場火災ノ爲メ士官候補生幼年學校生徒志願書ニ戶籍謄本添付シ能ハサルモノハ戶籍簿調製后ニ於テ  
提出可然哉返電アリ度

乙 號

答差支ナシ但上級官衙ノ証明書ヲ添付セシメラレ度

●兵甲第一四一號

明治四十一年二月十四日

町 村 長 宛  
神 職

神社合祀配祀ノ區別等ニ付通牒

本縣内務部長ヨリ左記ノ通り通牒有之候條了知相成度候也

左 記

- 一 二社以上ノ神社ヲ合併スル場合ハ總テ之ヲ合祀ト稱シ一村名一社格ヲ存シ祭神ハ之ヲ列記スヘキ  
モノトス  
但祭神ノ關係上特別ノ由緒アルモノハ配祀トナスコトヲ得此場合ニハ祭神ノ肩ニ配祀(若クハ  
相殿)ノ二字ヲ附記スヘキモノトス
- 二 甲神社ヲ乙神社ニ合併セル場合ニハ乙神社號ヲ稱スヘキモノトス  
但合併神社双方トモ由緒及所在地トノ緣故深カラサルモノハ此限リニ在ラス
- 三 神社合併ノ場合ニハ其社格ハ合併各神社中最高キニ從フヘキモノトス
- 四 式内神社國史現在社等ノ神社ヲ他ノ外式内神社若クハ國史現在社等ニアラサル神社ニ合併セル場  
合ニハ式内神社、國史現在社ト認メサルモノトス

第二科主任

五百二十三

五 式内神社國史現在神社ニシテ式又ハ國史所載ノ神社號ヲ改稱スルトキハ式内神社國史現在社ト認メサルモノトス

●兵甲第二六三號

明治四十一年三月三日

第二科主任

町村長宛  
神職宛

基本財産ノ蓄積及保管方法ニ付依命通牒

縣郷社ニ於ケル基本財産ノ蓄積及保管ハ最重要ナルコトニシテ其筋ニ於テモ遠カラス相當規定ヲ發布セラル、コト、存候得共該規程發布ニテハ左記各項遵守セラレ度命ニ依リ及通牒候也

一 神社基本財産ハ縣社ハ三千圓以上郷社ハ貳千圓以上村社ハ壹千圓以上ノ額ニ達スル迄適當ノ方法

ニ依リ蓄積ヲ爲スヘキコト但神饌幣帛料供進指定神社ニシテ基本財産ノ設ケナク又本項ノ額ニ達セサルモノハ特ニ速カニ之カ積立ヲ爲スヘキコト

二 基本財産ノ種類ハ公債証書(勸業債券貯蓄債券等)土地(田畑等)年次ニ收入ヲ得サル山(林原等)現金ノ三種ニ限ルコト

三 基本財産タル現金ヲ預入又ハ貸付シ居モノハ其預入又ハ貸付期限ノ滿ツルニ從ヒ保管ノ便宜ヲ計リ可成之ヲ公債証書ニ交換スヘキコト但公債証書ハ可成郵便局若クハ確實ナル銀行ニ保管預ケト爲スコト

四 現金ノ預入ヲ爲ス場合ハ郵便貯金若クハ預金規則ニ依リ金庫ニ預入スルカ又ハ日本銀行農工銀行十二銀行鴻池銀行明治商業銀行等確實ナル銀行ニ預入シ個人預入又ハ貸付ヲ爲スヘカラサルコト但個人預入又ハ貸付ノ向ハ契約期限ノ滿ツルニ從ヒ本項ニ依リ預入換ヲ爲スヘキコト

五 神社ノ合併ニ依リ官有地ノ無代號與ヲ受ケタル土地ハ合併神社ノ基本財産トシテ交付セラル、モ

六 ノニ付他種ノ基本財産ニ變換スル場合ノ外賣買讓與ヲ爲スコトヲ得サルコト

基本財産ヲ設ケタルトキハ公債証書ニ付テハ其種類額面金額番號及保管方法現金ニ付テハ預入證書寫土地ニ付テハ地種目反別地價時價並年收益ヲ記シタル明細書ニ土地臺帳原本ヲ添ヘ當廳ニ届出ツヘキコト

七 基本財産ノ種類ヲ變更シ又ハ現金ノ預入換ヲ爲サントスルトキハ當廳ニ出願許可ヲ受クヘキコト但從來個人預入又ハ貸付ヲ爲シタルモノニシテ第三項ニ依リ預入換ヲ爲ス場合ハ預入換ヲ爲シタル後直チニ届出ツヘキコト

八 基本財産ハ神職之ヲ管理シ氏子惣代若クハ信徒惣代之ヲ監視スヘキモノナルコト

●兵甲第九五三號

明治四十一年九月一日

第二科主任

町村長宛

神社有權價證券ニ關スル件通牒

本月十二日遞信省令第三十七號ヲ以テ神社ノ所有ニ係ル有價證券ノ保管料ハ徵収セサルコトニ定メラレ候處右郵便官署ニ保管ヲ委託スルハ獨リ保管料ヲ要セサルノミナラス確實ニシテ且利子及ヒ償還金等ノ受拂増殖ニ付手數ヲ省ク等其他保管費カラサル義ニ付神社ノ基本財産タル證券ハ之ニ依ル保管ノコトニ神職氏子惣代ニ示達相成度候也

●兵甲第九一號

明治四十一年九月二十二日

第二科主任

町村長宛  
在郷軍人團長宛

鐵道乘車貸金ノ件通牒

簡閱點呼ノ爲メ參集スル在郷軍人ノ鐵道乘車貸金ハ割引ヲナササル筈ニ付了知置相成度別紙鐵道廳達寫相添及通牒候也

(別紙畧ス)

●兵甲第一〇一七號

明治四十一年十月七日

第二科主任

町村長宛  
在郷軍人團長宛

寄留地簡閱點呼ニ關スル件通牒

寄留地ニ於テ簡閱點呼參會ノ許可ヲ得タルモノ寄留替ヲナシタルトキハ同一聯隊區内ト雖モ許可ノ効力ヲ失シタルモノトシテ取扱フヘキ旨陸軍省ヨリ示達有之候趣ニツキ在郷軍人へ周知セシメラレ度候也

●兵特第七七五號

明治四十一年十月七日

第二科主任

町村長宛  
在郷軍人團長宛

寄留地ニ於テ勤務演習及簡閱點呼參會願ノ件通牒

寄留地ニ於テ勤務演習應召願及簡閱點呼參會願ニハ爾後姓名ノ左側ニ生年月日ヲ記入スヘキ旨通牒有之候條了知置相成度候也

●兵甲第一〇七一號

明治四十一年十月二十八日

第二科主任

町村長宛  
在郷軍人團長宛

處刑届出方ノ件ニツキ通牒

服役條例ニ依リ可届出處刑届中執行猶豫ノ宣告ヲ受ケタルモノハ其届出ヲ要セサルモノト誤解シ其届出ヲ怠ルモノ有之哉ニ被認候處右ハスベテ届出ヲ要スル義ニ候條注意相成度候也

追テ執行猶豫中刑ヲ執行セラレタルモノニ對シテハ更ニ其旨届出ツヘキ義ト心得ラレ度候也

●兵甲第一〇七二號

明治四十一年十月二十八日

第二科主任

町村長宛

一年志願兵志願取消ノ件ニツキ通牒

一年志願兵志願者ニシテ徵兵検査ノ結果補充兵トナリタルモノヨリ一年志願兵志願取消方申出ルモスベテ許可トナラサル旨通牒有之候條爾來右ニ據リ取扱相成度候也

追テ右ハ本月二十三日官報官廳彙報欄ニ記載有之候條申添候也

●兵特第八三四號

明治四十一年十一月十日

第二科主任

町村長宛

兵籍未調製ノ補充兵ニ關スル件通牒

兵籍未調製ノ補充兵ノ婚姻(婚養子縁組ヲ除ク)家督相續ノ届出ヲナス向有之候得共右ハ届出ヲナスヘキ明文無之候條届出ヲ要セサル義ト了知相成度候也



●兵甲第一七號

明治四十二年一月十八日

第二科主任

町村長宛  
在郷軍人團長宛

服役繼續出願期日ノ件通牒

服役條例ニ依リ豫後備役滿期后引續キ服役セントスルモノ、願書ハ爾今左記期日ヲ以テ締切り同日以降ノモ少ハ一切受付相成ラザル義ニ付了知置相成度候也

左記  
將校同相當官准士官 毎年二月二十日  
下士以下 毎年三月二十日

●兵特第三四號

明治四十二年一月二十五日

第二科主任

町村長宛

簡閱點呼免除願ノ件ニツキ通牒

北海道地方へ船夫其他トシテ出稼シ居ルモノニシテ寄留地簡閱點呼參會出願ノ機ヲ失シ若クハ點呼ノ當日乗船中ニシテ何レニ於テ寄留地參會ヲナスヲ豫定スル能ハサル者ヨリ原籍地へ往復スルニ失費ヲ要シ自己ノ損害甚ダシトノ理由ノ下ニ點呼免除ヲ出願スルモノ有之候ヘトモ爾今右等ニ就テハ左記ノ通り取扱相成度候也

一、時機ヲ失シタル爲メ免除ヲ出願スルモノ、如キハ自己ノ失態ニ基因スルモノナレハ絶對ニ免除許可トナラス

二、航海中ノモノハ點呼ノ當日現ニ海上ニアルモノニシテ事實上陸スル能ハサルモノナラサレハ許可セラレサルヲ以テ之等ハ令狀受領ノ後ニ於テ免除ヲ出願セハ特別ノ事情アルモノニ限り許可セラレ、ヤモ測リ難キヲ以テ今ヨリ免除ヲ出願セシムルカ如キコトナキ様取扱ハレタシ

●兵甲第一一八號

明治四十二年二月十二日

第二科主任

町村長宛

診斷書及病況書々式通牒

壯丁ノ徵集猶豫延期願書ニ添付スヘキ診斷書(本人ト家族トナリ問ハス)及在郷軍人ノ服役其他ニ關スル病況書及診斷書々式左式ノ通り被定候ニ付爾今此様式ニアラザルモノハ全然無効ニ相成候條了知相成度候也

病況書 (診斷証書)

族籍住所

(軍人ナレハ官等級)

氏名

一病名	、	、	、	、	、
一原因	、	、	、	、	、
一經過	、	、	、	、	、
一現症	、	、	、	、	、
一豫後	、	、	、	、	、
一療法	、	、	、	、	、
右之通ニ候也	、	、	、	、	、

住所 主任醫 氏 名 印

年月日  
●兵甲第二一九號

明治四十二年三月一日

第二科主任

町村長宛  
在郷軍人團長宛

陸軍在郷軍人表彰ノ件通牒

陸軍在郷軍人下士以下ニシテ郷黨ノ摸範タルヘキ善行者ニ對シ町村長及在郷軍人團長ノ申出ニ依リ金澤聯隊區司令官ヨリ左記ノ賞狀附與相成候條將來在郷軍人ノ素行監視ヲ嚴重ニシ該當ノモノ有之候ハ、申出相成度候也

追テ右申出書ハ金澤聯隊區司令官宛ニシテ町村長在郷軍人團長連署ノ義ト了知相成度候也  
(左記畧ス)

●兵甲第二八七號

明治四十二年三月五日

第二科主任

町村長宛  
在郷軍人團長宛

陸軍在郷軍人表彰ノ件ニツキ通牒

陸軍在郷軍人表彰ノ件ニ就テハ本月一日付兵甲第二一九號ヲ以テ及通牒置候處素行宜シカラス將來ヲ戒ムヘキモノモ申出方通牒有之候條其旨了知相成度重テ及通牒候也

●兵甲第二三四號

明治四十二年三月五日

第二科主任

町村長宛

所在不明者ノ件ニ付通牒

陸軍現役兵ニシテ徵兵令第二十七條ニ該リ翌年回トナリタルモノハ翌年更ニ身体検査ノ上徵集ヲナスヘキモノナルカ故ニ右ノ者ニシテ所在不明トナリタルトキハ明治四十年陸軍省訓令甲第一號及同年本縣訓令甲第五號ノ規定ニ準シ之カ調査ヲナスヘキ義ト承知スヘキ旨申越候條了知相成度候也

●兵甲第三三五號

明治四十二年三月十一日

第二科主任

町村長宛  
神社職宛

神社境内樹木ニ關スル件依命通牒

神社境内外ノ樹木ハ一ニハ境内ノ風致ヲ添ヘ一ニハ神社ノ財産ト可相成候處多クハ在來ノモノヲ保存スルノミヲ以テ足レリトシ偶々枯損障礙等ノ爲メ之ヲ伐採スルモ其補植ヲ怠リ又祭典等ニ支障ナキ空地アルニ拘ハラズ進テ植樹ヲナサントスルモノ殆ント之レ無キ状態ナルノミナラス其所有山林原野等ハ荒廢ニ委シテ顧ミサルモノ有之ヤニ相聞ヘ甚タ憂フヘキ義ト被存候ニ付テハ境内支障ナキ適當ノ餘地ニハ相當樹木ヲ栽植シ又境外原野ニハ造林ノ計畫ヲ立テ以テ神社ノ尊嚴ヲ維持シ併テ神社經營ノ資産ヲ造成スヘキ様勸奨相成度尙ホ右ニ付縣樹苗圃ハ神社ノ出願ニハ可成便宜ヲ計リ樹苗ヲ交付スヘキ趣ニ候條此旨ヲモ示達相成度命ニ依リ及通牒候也

●兵甲第四四三號

明治四十二年三月三十一日

第二科主任

町村長宛

將校同相當官ノ入寄留届ノ件通牒

將校全相當官ニシテ金澤聯隊區外ヨリ入寄留届出ヲナスモノアルトキハ別記様式ノ調査調製添付セシメラレ度此段及通牒候也

- 一 本籍并ニ族籍
  - 二 兵科、官等、位階、勳等、功級、爵、學位、氏名
  - 三 生年月日
  - 四 陸軍出身及進級客歴(士官候補生、徵兵、一年志願兵等トレテ明治何年何月何日何隊へ入隊、何年何月何日何少尉等)
  - 五 賞罰
  - 六 休、停職年月日及滿了年月日
  - 七 豫後備役編入年月日及滿期年月日
  - 八 任官以降應召セシ勤務演習ノ種類并其年月日及日數
  - 九 三十七、八年戰役中最後ノ所屬部隊號及職名
  - 十 退職ノ際ニ於ケル所屬部隊號及職名
  - 十一 恩給ヲ有スル時ハ其金額
  - 十二 現今ニ於ケル職業(某學校教諭、何合社員、)并ニ壹ヶ月俸給又ハ所得額
- 注意 第十二項ハ今回ノ調査後ニ於テ異動ヲ生スル時ハ其都度本人ヨリ相當届出スルヲ要ス
- 兵甲第一三七一號
- 明治四十二年九月三十日
- 町村長宛
- 第二科主任

豊橋騎兵隊入營兵身上調査方依命通牒

豊橋騎兵第二十五聯隊へ入營スヘキ兵員アル町村ハ別紙様式ニ據リ身上調査書ヲ調製シ毎年十月三十日マテニ差出相成度候也

兵卒身上調査事項

原籍地	寄留地	族籍氏名	本人ノ職業資産及生計状態	戸主又ハ父兄ノ職業資産及生計ノ状態	家庭ノ狀況	本人ノ性質及品行
			本人某ハ何歳ノ頃ヨリ農家ニ奉公シ何歳ノ頃ヨリ鐵道工夫トナリ今日迄土工職ニ従事シ常ニ父母ノ膝下ヲ離レテ各地ニ轉住シ獨身生活ヲ爲ス、又ハ常ニ父母ノ養育ヲ受ケツ、米穀商ニ従事ス	農ニシテ漸ク小ナル家屋一棟田何畝ヲ有シ他人ノ田畑ヲ小作シ家族ト共ニ鋤ヲ取リテ耕作ニ従事ス年收何圓ニシテ漸ク日常ノ生活ヲナス、銀行貯金何圓公債何圓ヲ賣又ハ行商ニ従事シ年收何圓ニシテ中等ノ生活ヲナス、	家庭圓滿ニシテ兄弟皆孝養ヲ盡シ一村ノ模範ナリ、本人ハ内縁ノ妻アリト雖父兄ハ之ヲ家ニ入ル、ヲ許サス爲メニ落膽ノ境遇ニアリ、實母ハ何年前ニ死シ目下繼母アリ故ニ本人ハ家ニアルヲ喜ハサル風アリ、本人ト兄嫁トノ折合惡シク時々口論ヲナスコトアリ、本人ハ一旦他家ニ養子トシテ養ハレタルモ間モ無ク離縁復籍シタリ其後本人ハ家庭ニ於テ邪魔者ニセラレ兎角不和多シ、何年前父病死ノ際家資分配適當ナラズトナシ其後兄ト相反目シツ、アリ	本人ハ性質沈着ニシテ豪膽且活潑ナルコトヲ好ム又ハ小膽ニシテ細事ヲ氣ニ病ム又ハ痴鈍ニシテ理解力ニ乏シ又ハ傲慢或ハ伶俐等、勉學ヲ嫌ヒ且怠惰ニシテ一定ノ職ニ従事スルコト能ハス、品行不良ニシテ婦女ニ關係スル所多ク常ニ夜間外

父母兄弟ノ性質及品行	出シテ酒色ニ耽ルノ風アリ 父母共ニ温厚篤實ノ人ニシテ一村ノ模範タリ、著シキ德行ナキモ未ダ惡評ヲ受ケタルコトナシ、父及兄ハ嚴格ナル職業ニ従事スルヲ嫌ヒ本職タル何商ハ母ニ一任シテ兩名常ニ何地ニ出テ投機業ニ耽ルモノ、如シ、父ハ某地ニ妾ヲ蓄ヘ兄モ明治何年以來婦ヲ換ユルコト何回遂ニ職業婦ヲ娶ルニ至レリ母モ亦品行善良ナリト云フヲ得ス
本人ノ嗜好及特技	本人ハ酒ヲ好ミ時ニ一升余ヲ飲タルコトアリ 漕艇、游泳ヲ以テ特技トナス
本人ノ教育及宗教	何學校卒業又ハ何學年修業又ハ家庭ニ於テ何々學ヲ修ム又ハ何々ノ關係ニ依リ就學セズ爲メニ漸ク姓名ヲ記スルヲ得ルノミ、本人ハ耶穌教ヲ信仰ス
家族ノ教育及宗教	父母ハ殆ト無學ニシテ三男何某漸ク本年小學校ヲ卒業シタルカ故ニ書翰ノ讀解ハ三男ニ依リ辨シ居レリ、父母ハ眞宗ヲ信仰ス長男ハ天理教ヲ信仰ス
本人交友ノ良否	本人ノ交友ハ工夫、車力、日雇人等ニシテ皆不良ノ徒ナリ就中賭博ニ名ヲ得タル何某ノ子分トナリ居レリ
本人ノ賞及前科並ニ從來犯罪嫌疑	人命救助ノ廉ニヨリ縣知事ヨリ賞與金幾何ヲ受ク、賭博犯ニ依リ禁錮(拘留)何ケ月ニ處セラル、嘗テ窃盜犯ノ嫌疑ヲ受ケタルコトアリ未タ窃盜犯ニ至ラサルモ素リニ他人ノ物品ヲ羨望シ之ヲ獲得セントスルノ癖アリ
父母兄弟及親族ノ犯罪者	父何某ハ云々等右ニ同シ
血族ニ於ケル遺傳性習癖又ハ疾患	祖父母、父母、兄弟、姉妹、伯父、母等ニ就キ精神病、結核、癩病ヲ患ヒタルモノ及自殺者ノ有無ヲ記ス
嘗テ旅行シタル地及滞在日數	東京ニ何ケ月間、仙臺ニ何ケ月間、臺北ニ何ケ月間等
郷黨ノ風評	小學時代ヨリ成績優等ニシテ一村ノ模範兒ト稱セラル、本人並ニ父兄ハ詐偽的言動多ク爲ノニ郷黨ノ風評良シカラス
本人處世ノ志望	除隊后ハ分家シ農業ニ従事スル志望ナリ

衛戍地附近ノ親戚及知巳ノ住所氏名 他ハ豊橋又ハ高師村附近ヲ衛戍地ト稱ス

備  
一、各項中ノ記載例ハ單ニ其一例ヲ示シタルニ過キス故ニ記入者ハ各人各個ノ身上ニ關シ成ヘク明細ニ記入セラルヘシ  
二、本明細簿ハ直接責任者ノ外決シテ他人ニ見セサルモノニ付本人並ニ戸主父兄ノ職業、資産、生計ノ状態、家庭ノ状況本人並ニ父母兄弟ノ性質品行、血族ノ遺傳性習癖、又ハ疾患等ハ良キ處ノミヲ記載セス既ニ記載例ニモ掲ケタル如ク遠慮ナク其欠点ヲ記載セラルヘシ自家ノ耻辱ナリトシテ之ヲ隱蔽スル時ハ入隊后本人並ニ家族ニ大ヒナル不幸ヲ來スコトアリ之ニ反シテ充分明細ニ記入セラレタルモノニ對シテハ上官ニ於テ其本人ヲ充分親切ニ監督指導スルコトヲ得テ本人並ニ家族ヲ幸福ナラシメ得ルモノナリ  
考  
三、本記載事項ニナキコト、雖中隊長ニ知ラシ置クヲ要スル事ハ別紙ニ記シテ本紙ト共ニ差出サルヘシ

兵甲第一四〇七號  
明治四十二年十月十三日  
町 村 長 宛  
第二科主任

軍隊手牒ノ件通牒  
陸軍在郷下士卒ノ軍隊手牒再下附願出ノ際實費辨償ノ件ニ就テハ明治三十八年十月十八日附兵甲第一〇三六號ヲ以テ及通牒候處今回更ニ左記ノ通り改正相成候旨通牒有之候條在郷下士卒ハ無洩通達方取計相成度候也  
一金六錢五厘 軍隊手牒一冊實費  
一金貳錢 同 郵 稅  
但五厘切手代用不苦

●兵第一〇〇八號

明治二十七八年從軍記章勳章及佩用停止ノ取扱手續ニ關シテハ明治十九年閣令第十九號勳章年金勳章及停止取扱ヲ準用スヘキ旨客年四月閣令第十九號第三條ノ取扱上必要有之ニ付自今同號第一條第二項以下ノ該當者有之候節ハ其都度通報スヘキ旨其筋ヨリ申來リ候間右様御取扱相成度郡長ノ指揮ニ依リ此段及御照會候也

明治三十年十月三十日

町村役場宛

第 二 課

●兵第一〇〇八號

明治二十七年從軍記章發給及佩用停止ノ取扱手續ニ關シテハ明治十九年閣令第十九號勸章年金發給及停止取扱ノ準用スヘキ旨客年四月閣令第十九號第三條ノ取扱上必要有之ニ付自今同號第一條第二項以下ノ諸當者有之候節ハ其都度通報スヘキ旨其筋ヨリ申來リ候間右様御取扱相成度郡長ノ指揮ニ依リ此段及御照會候也

明治三十年十月三十日

町村役場宛

第 二 課

財務ニ關スル部

四十三  
年三月  
十七日  
告示第  
十七號  
ニテ更  
正

●石川縣河北郡令第七號  
石川縣河北郡會計規則左ノ通相定ム

明治三十四年四月十六日

石川縣河北郡會計規則

石川縣河北郡長

村尾震三郎

第一章 總則

第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期日ノ屬スル年度

二 隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ其告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三 隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ現金ノ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

四 縣稅下渡金寄附金ノ類ハ其豫算ノ屬スル年度

第二條 歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

一 郡債ノ元利金ハ其支拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

二 拂戻缺損補填ノ類ハ其拂戻又ハ補填ノ決定シタル日ノ屬スル年度

三 土木費及其他物件購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但年度開始前準備ノ爲メ契約ヲ爲シタルモノ及契約履行ノ數年ニ涉ルモノハ契約ニ依リ定メタル支拂期日ノ屬スル年度

四 前各號ノ區分ニ入ラサルモノハ總テ事實若クハ支拂期日ノ屬スル年度

第三條 出納吏ハ帳簿ヲ備ヘ收支ヲ整理スヘシ

第二章 收入

第四條 郡ノ收入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ本規則ニ據ル

第五條 郡ノ收入ハ納入告知書ヲ發シ之ヲ收入スルヲ例トス但納入告知書ヲ發スルコトヲ要セサルモ

ノハ出納吏ニ於テ直接現金ヲ領收スルコトヲ得

第六條 納入告知書ハ十日以内ニ於テ適宜納入期日ヲ定メ納入ニ對シ之ヲ交付シ現金ヲ以テ指定ノ金庫又ハ出納吏ニ納入セシムルモノトス

金庫又ハ出納吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ領收書及通知書ニ其年月日ヲ記入捺印シ領收書ハ納人ニ交付シ通知書ハ納入告知書發行者ニ差出スヘシ

第七條 納入告知書ヲ發セシテ現金ヲ領收シタルトキハ出納吏ニ於テ領收書ヲ納人ニ交付スヘシ

第三章 支出

第八條 出納吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ納付書ヲ添ヘ其都度金庫ヘ納付スヘシ

第九條 豫算ノ支出ハ金庫ニ對シ支拂命令ヲ發ス但郡債ノ元利金ハ此限ニアラス

第十條 支拂命令ヲ發セントスルトキハ左ノ事項ヲ調査スルコトヲ要ス  
一 經費ハ正當ニシテ支出金額ニ誤ナキヤ  
二 當該科目ノ豫算ニ超過スルコトナキヤ  
三 支出科目、所屬年度及債權者ニ誤ナキヤ  
四 豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤ

第十一條 支拂命令ヲ債權者ニ交付スルトキハ同時ニ案内支拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十二條 支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債權者ニ對スル集合支拂命令ヲ發スルコトヲ得但別ニ各債權者ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ送金ニアラサルモノト雖總テ第十三條ノ例ニ據ル

第十三條 送金ヲ要スルトキハ支拂命令ノ裏面ニ其理由ヲ記入シ之ヲ金庫ニ送付シ金庫ヲシテ債權者ニ對シ現金ヲ送達セシメ領收書ヲ徵セシム但領收書ヲ提出スルマテハ金庫ノ現金預リ證書ヲ徵スル

モノトス

前項ノ場合ニ於テハ支拂命令發行者ハ直ニ支拂通知書ヲ債權者ニ送付シ債權者ハ現金領收ノ際其年月日ヲ記入シ署名捺印ノ上之ヲ金庫ニ交付スヘシ

第十四條 支拂命令ハ正當債權者若クハ其代理人ノ爲ニスルニアラサレハ之ヲ發スルコトヲ得ス

第十五條 金庫所在地外ニ於テ支拂ヲ要スル諸費中前渡ヲ以テ支拂ヲ爲スニアラサレハ買入又ハ借入ノ契約ヲ爲ス能ハサルモノニ限り出納吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

一 旅費

第十六條 左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得  
一 訴訟費  
二 訴訟費

一 執達吏ノ旅費、手数料

第十七條 左ノ經費ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得  
一 執達吏ノ旅費、手数料  
二 官報代價  
三 前各號ノ外前金拂ニアラサレハ買入又ハ借入ノ契約ヲ爲ス能ハサルモノニシテ其金額貳圓ヲ超過セサルモノ

第十八條 支拂命令又ハ支拂通知書ハ翌年度七月三十一日ヲ經過スルトキハ其効力ヲ失フ此場合ニ於テハ債權者ハ更ニ其支拂命令又ハ支拂通知書ノ交付ヲ求ムルコトヲ要ス

第十九條 支拂命令又ハ支拂通知書ヲ亡失汚損シタルモノハ更ニ其支拂命令又ハ支拂通知書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得但金庫ニ於テ現金ヲ支拂タル事實アルトキハ再ヒ之ヲ交付セス

第二十條 定額ニ戻入ヲ要スルモノハ支拂命令發行者ヨリ返納告知書ヲ發シ指定ノ金庫ニ納入セシム現金前渡ヲ受ケタル出納吏其前渡金支拂ニ戻入ヲ要スルモノハ現金ヲ以テ直チニ返納セシムヘシ



金庫又ハ出納吏ニ於テ返納金ヲ領收セシトキハ第六條第七條ニ準シ取扱フヘシ

第四章 工事ノ執行物件ノ賣買貸借

第二十一條 工事ノ執行ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ル

物件ノ賣買貸借ハ別ニ規程アルモノヲ除クノ外總テ競争入札ニ付ス但左ノ場合ニ於テハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

- 一 一人又ハ一會社ニ於テ専有スル物件ヲ買入若クハ借入ル、トキ
- 二 特殊ノ品質又ハ特別使用ノ目的アル物件ヲ直接ニ生産者製造者ヨリ買入レ若クハ借入ヲ要スルトキ
- 三 特別ノ技術家ニ命スルニアラサレハ製造シ得ヘカラサル物件ヲ買入ル、トキ
- 四 土地、建物ノ買入若クハ借入ヲ爲スニ其位置又ハ構造ニ限リアルトキ
- 五 試験ノ爲メニ工作製造ヲ命シ又ハ物件ヲ買入若クハ借入ル、トキ
- 六 官廳又ハ公共團體ヨリ買入若クハ借入ル、トキ
- 七 官設、公設ニ係ル學校、農工場、講習所、試験場ノ生産、製造物件ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 八 百圓ヲ超ヘサル物件ノ買入若クハ借入及豫定價格五拾圓ヲ超ヘサル物件ヲ賣拂ヒ又ハ貸渡ストキ但有價證券ノ買入、賣拂ハ千圓ヲ超ヘサルトキ
- 九 非常急劇ニ際シ競争入札ニ附スルノ暇ナキトキ
- 十 直接公用又ハ公共ノ利益ニ供スル爲メ物件ヲ貸與シ又ハ賣拂フトキ
- 十一 競争入札ニ附スルモ入札者ナキトキ又ハ再度入札ニ附スルモ尙豫定價格ニ達セサルトキ

第二十二條 競争入札ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 金庫及支拂命令ノ執行

第二十三條 河北郡津幡町ニ金庫ヲ置キ郡歲入出一切ノ現金出納及保管ノ事務ヲ取扱ハシム

第二十四條 金庫ニ於テ支拂ニ用フル現金ハ其金庫在合ノ通貨ヲ以テス但保管金ニシテ同種ノ貨幣ヲ以テ拂戻ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第二十五條 金庫ニ於テ領收スル現金ハ其金庫ノ支拂基金ニ充ツヘシ

第二十六條 支拂命令及支拂通知書ハ翌年度七月三十一日マテ支拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ其支拂命令又ハ支拂通知書ト引換ニテ現金ヲ支拂フヘシ

第二十七條 左ノ場合ニ於テハ金庫ハ事山ヲ示シ其支拂ヲ拒ムヘシ

- 一 案内支拂命令ノ到着セサルトキ
- 二 支拂命令ト案内支拂命令ト符合セサルトキ
- 三 支拂命令汚損シ案内支拂命令ト照合シ難キトキ
- 四 支拂命令又ハ金額氏名表ト支拂通知書ト符合セサルトキ
- 五 支拂命令若クハ支拂通知書ノ印影豫テ支拂命令若クハ支拂通知書發行者ヨリ送付ノ印鑑ニ符合セサルトキ
- 六 支拂命令若クハ支拂通知書中改竄塗抹其他變更ノ痕跡又ハ其疑ヒアルトキ但金額氏名ヲ除クノ外更正ノ箇所ニ發行者ノ捺印アルモノハ此限ニアラス

第二十八條 金庫ニ關シ必要ナル件ハ本規則ニ規定スルモノ、外別ニ之ヲ定ム

第二十九條 出納吏ニ於テ保管スル現金、金券及證券ハ堅牢ナル金櫃ヲ備ヘ藏置スヘシ

第三十條 出納吏ハ收入支出ノ都度其證據書類ヲ郡長ニ提出スヘシ

第三十一條 臨時現金前渡ヲ受タル出納吏ハ其經費支拂結了ノ都度證據書類ヲ添ヘ精算書ヲ作り郡長

ニ提出スヘシ

第三十二條 出納吏交替ノトキハ出納計算書ヲ製シ其取扱事務及保管ノ現金、金券及證券ヲ後任者ニ引繼クヘシ

第三十三條 出納吏死亡及其他ノ事故ニ依リ自ラ引繼ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ他ノ官吏吏員ニ命シテ前條ノ手續ヲ爲サシム

第七章 附則

第三十四條 特別會計ニ屬スル出納ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本規則ニ據ル

第三十五條 書類帳簿ノ書式及其他取扱規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十六條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●石川縣河北郡告示第一九號

石川縣河北郡會計規則施行規程左ノ通相定ム

明治三十四年四月二十五日

石川縣河北郡長

村尾震三郎

石川縣河北郡會計規則施行規程

第一條 出納吏ニ於テ歳入歳出外現金ヲ領收シトキハ保管金拂込書ヲ添ヘ雜部保管金トシテ金庫ニ拂込ムヘシ

前項保管金ノ拂戻ヲ要スルトキハ總テ支出ノ例ニ準スヘシ

出納吏保管中ノ現金ニシテ金庫ヘ拂込前支拂ヲ要スルモノハ前二項ノ限ニアラス

第二條 過誤納金ニシテ其年度ノ歳入ヨリ拂戻ヲ要スルモノアルトキハ支出ノ例ニ準シ取扱フヘシ但其領收證書及其他ノ證書書類ハ收入ノ部ニ編入スヘシ

過誤拂金ニシテ其年度ノ歳出ニ戻入ヲ要スルモノアルトキハ收入ノ例ニ準シ取扱フヘシ但其領收證書及其他ノ證書書類ハ支出ノ部ニ編入スヘシ

第三條 支拂命令又ハ支拂通知書ノ再發ヲ要スルトキハ更ニ調製シ再發ノ二字ヲ朱記スヘシ

前項再發ヲナシタルトキハ同時ニ金庫ヘ通知スヘシ

第四條 支拂命令發行者及出納吏其他關係官吏吏員ノ印鑑ハ金庫ヘ送付スヘシ

第五條 書類帳簿ノ數及書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 納入告知書 第一號書式 歳出内譯簿 第十一號書式
- 納付書 第二號書式 現金出納簿 第十二號書式
- 領收證書 第三號書式 前渡金支拂精算書 第十三號書式
- 支拂命令 第四號書式 積立金出納簿 第十四號書式
- 支拂通知書 第五號書式 現金ノ部
- 返納告知書 第六號書式 有價證券ノ部
- 保管金拂込書 第七號書式 預金ノ部
- 調定原簿 第八號書式 積立金有價證券内譯簿 第十五號書式
- 歳入歳出日計簿 第九號書式
- 歳入内譯簿 第十號書式
- 第一號書式

用紙適宜 縱四寸五分 三枚接續  
横三寸三分

第何號郡費(又ハ所何何町村)某

(調定原簿  
下割印)

納 入 告 知 書

領 收 證

明治何年度 何々(款) 何々(項) 何々(目)

一金何程 ㊦

但何々(收入金ノ目的種類ヲ記ス)

右明治何年何月何日迄ニ石川縣河北郡金庫(又ハ石川縣河北郡  
出納吏何某)へ納入スヘシ

明治何年何月何日 石川縣河北郡長 氏 名 ㊦

金庫又ハ  
出納吏印

第 何 號 郡 費 (住 所 何 町 村 某)

明治何年度 何々(款) 何々(項) 何々(目)

一金何程 ㊦

但何々

右領收候也

書

明治何年何月何日

石川縣河北郡金庫 ㊦

(又ハ石川縣河北郡出納吏  
官職 氏名印)

金庫又ハ  
出納吏印

第 何 號 郡 費 (住 所 何 町 村 某)

明治何年度 何々(款) 何々(項) 何々(目)

一金何程 ㊦

但何々

右領收済ニ付及通知候也

明治何年何月何日

石川縣河北郡金庫 ㊦

(又ハ石川縣河北郡出納吏  
官職 氏名印)

石川縣河北郡長 氏 名 殿

備 考

- 一領收證書ノ月日ハ金庫又ハ出納吏ニ於テ領收ノトキ之レヲ記入スヘシ
- 二通知書ノ月日ハ領收証書ノ月日ト同一ナルヲ要シ金庫又ハ出納吏ニ於テ之レヲ記入スヘシ
- 三前各項ノ外總テ發行者ニ於テ之レヲ記載スヘシ

第二號書式

用紙適宜 縱四寸五分 三枚接續  
横三寸三分

第何號 明治何年度 郡 費

一金何程

但何々

右納付候也

明治何年何月何日

石川縣河北郡出納吏  
官職 氏 名

名

金庫

印

第何號 明治何年度 郡 費

一金何程

但何々

納付書 領收

右領收候也

明治何年何月何日

石川縣河北郡金庫

金庫

印

第何號 石川縣河北郡出納吏  
官職 氏 名

明治何年度 何々 (款) 何々 (項) 何々 (目)

一金何程

但何々

右領收濟ニ付及通知候也

明治何年何月何日

石川縣河北郡金庫

石川縣河北郡長 氏 名 殿

証書 通知書

備考

一領收証書ノ月日ハ金庫ニ於テ領收ノトキ之レヲ記入スヘシ